教育委員会の所管事務に係る
点検・評価報告書

（令和元年度事業）

令和2年9月

桑 折 町 教 育 委 員 会

はじめに

平成１９年６月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という）の一部が改正され、平成２０年４月１日よりすべての教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務付けられました。

この報告書は、桑折町教育委員会が同法の規定に基づき、令和元年度教育委員会重点施策について点検・評価したものをまとめたものです。

報告書の作成にあたっては、教育施策の一層の改善・充実を図るため、外部有識者による点検及び評価の知見を活用することとし、平成２３年４月１日付けで「桑折町教育委員会の所管に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則」を定めました。

以下、所管事務６点について教育委員会各担当者、幼稚園長、小・中学校長が直接評価するとともに、文化財保護審議会、社会教育委員会、教育委員会の各委員からの評価を受け、さらには第三者評価委員会による最終評価・点検を受け、報告書としてまとめました。

１　子育て支援
２　乳幼児保育と教育
３　小中学校教育
４　生涯学習
５　生涯スポーツ
６　歴史まちづくり

令和元年度は、町の総合計画『献上桃の郷こおり創生プラン』と「桑折町教育大綱」に基づく教育施策の実施３年目でした。

「歴史と文化の町にふさわしい質の高い教育や生涯学習の実現に向けた仕組みづくり・基盤づくりをしっかりと進め、本町の子どもたちの大きな可能性の実現と、町民一人ひとりの生きがいや自己実現をめざす。」という理念の具現化に向け、それぞれの分野で取組を進めてまいりました。

震災・原発事故から９年が経過し、ほぼ完全に震災前の教育活動を行うことができる環境になり、本町がめざす義務教育終了時の「１５歳の姿」の実現を求めて、一段と力強く幼・小・中が保護者や地域と連携して取り組んでまいります。

つきましては、今後も本町教育の充実・発展のために皆様方のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和２年９月

桑折町教育委員会

目　　次

1　教育委員会の事務の管理及び執行状況

令和元年度桑折町教育委員会重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

（１）教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援

①学力向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

②体力向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

③心の教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

④その他の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

（２）乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援

①乳幼児保育・教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

②子ども・子育て支援事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

（３）生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

①生涯学習の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

②ライフステージに応じた多様な学習機会の提供と内容の充実・・・・・・・・・・23

③社会教育団体の活動奨励・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

④青少年体験活動の積極的推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

⑤心を豊かにする読書活動の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

⑥芸術・文化団体活動の奨励・支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

⑦社会教育施設の効率的・効果的な管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

（４）健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

①社会体育事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

②社会体育施設の効率的・効果的な管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

（５）文化財の保護と活用、「歴史的風致維持向上計画の推進」

①「桑折町歴史的風刺維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進・31

②史跡西山城跡保存整備事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

③旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進・・・・・・・・・・・・・33

2　教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況

（１）学校経営評価報告書（小学校４校、中学校１校）・・・・・・・・・・・・・・・34

（２）学校経営自己評価票（小学校４校、中学校１校）・・・・・・・・・・・・・・・49

3　教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況

（１）桑折町こども園経営評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

（２）桑折町こども園経営自己評価票（幼稚園１園、保育所１所）・・・・・・・・・・62

4　第三者評価委員会による評価

（１）第三者評価委員会設置に関する規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66

（２）第三者評価委員会開催状況及び協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

５　今後の方針

（１）評価の主な改善点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
（２）評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

〈参考資料〉

〇令和元（平成３１）年度　桑折町教育委員会の重点施策全体構想
〇桑折町の１５歳のめざす姿
〇令和元（平成３１）年度　学力向上推進計画
〇令和元（平成３１）年度　桑折町子どもの体力向上プラン
〇令和元（平成３１）年度　「醸芳保育所・醸芳幼稚園」経営・運営ビジョン
〇令和元（平成３１）年度　「学校経営・運営ビジョン」＆「学力向上グランドデザイン」
・桑折町立醸芳小学校
・桑折町立睦合小学校
・桑折町立半田醸芳小学校
・桑折町立伊達崎小学校
・桑折町立醸芳中学校

１　教育委員会の事務の管理及び執行状況

令和元年度 桑折町教育委員会重点

Ⅰ　基本方針

復旧と復興から創生をめざす桑折町総合計画『献上桃の郷こおり創生プラン』に基づき，町の未来像「みんなとつながり みんなが活躍できる 安心のまち 桑折」の実現に向け，教育・文化・スポーツ行政を推進する。

Ⅱ　基本目標

「志高い人材を育む“学び”の醸成」を推進するため，次の目標を定める。

1 知・徳・体の基礎を身につけ，高い志を持った「桑折町の１５歳のめざす姿」の実現
2 保育所・幼稚園から小学校・中学校までの育ちと学びの一貫性を大切にした教育の推進
3 各世代の学びを醸成する生涯学習活動の推進，社会体育・生涯スポーツ活動、文化芸術活動の振興

Ⅲ　重点施策

1　子育て支援
○ 子ども・子育て支援事業の推進　〔こども教育課〕
○ 青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実　〔生涯学習課〕

2　乳幼児保育と教育
○ 乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援　〔こども教育課〕

3　小中学校教育
○ 教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援　〔こども教育課〕

4 生涯学習
○ 生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進　〔生涯学習課〕

5 生涯スポーツ
○ 健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実　〔生涯学習課〕

6 歴史まちづくり
○ 文化財の保護と活用、「歴史的風致維持向上計画」の推進　〔生涯学習課〕

乳幼児保育・教育の重点

○　保育・教育内容の充実及び安全・安心な教育環境の整備を図り、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進し、心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成する。
○　「桑折町の１５歳のめざす姿」の実現をめざし，保育所、幼稚園から小学校，中学校までの育ちと学びの連続性と一貫性を大切した教育を推進する。
○　子どもの健やかな成長と保護者が安心して子育てできる支援事業の推進及び環境整備に努める。

1　乳幼児保育・教育の充実

（1）乳幼児が安全安心に保育･教育を受けるための環境の整備と安全指導の充実に努める。

①　発達に即した環境の整備と施設・設備の点検を実施する。

□　日常的な施設・設備の安全点検実施

②　防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底を図る。

□　実効性ある避難訓練等の実施

□　通園指導による交通安全啓発活動の実施

③　食品等のモニタリングによる安全安心な給食を提供する。

□　食品のモニタリングと結果の公表

（2）心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するため、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進する。

①　保育所保育計画、幼稚園教育計画により保育・教育の充実を図る。

□　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指した計画的･系統的な指導の充実。

□　環境を通しての遊びを中心とした総合的に行う保育・教育活動の実施

②　心の安定と自己肯定感を育む集団づくりに努める。

□　幼児の言動を肯定的に受け止める保育・教育の実施

□　自己表出できる友達関係の育成

③　運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実を図る。

□　体力向上１園(学級)１実践の取組

□　固定遊具を活用した、年齢に応じた遊びの充実

□　外部講師による運動遊び、ダンス教室の実施

④　読書活動の推進を図る。

□ 絵本コーナーの充実と活用

□ 絵本の積極的貸し出し

□ 家庭での読み聞かせの奨励

⑤　文化や芸術など様々なものに触れ経験する中で豊かな心を育む。

□ 異文化体験活動の推進

□ 芸術鑑賞機会の充実

□ 音楽に親しむ活動の推進

□ 飼育、栽培活動の充実

⑥　英語に親しむ活動の充実を図る。

□　外部講師による英語で遊ぼうの実施

⑦　総合的な指導力、保育力の向上に努める。

□　一人１回以上の園内保育研究会の実施

□　外部講師を招聘しての研修会の実施

□　先進園への視察研修

□　小学校と連携した保育研究会の実施

□　経営自己評価や指導の自己評価、保護者からの園(所)評価の実施

□　学校評議員会の開催

（３）特別な支援を必要とする乳幼児の支援体制の確立と指導力の向上に努める。

①　特別な支援を必要とする乳幼児への支援体制を確立する。

□　保育補助・支援員の配置

□　園内委員会の定期的な開催

□　関係機関との連携強化

□　特別支援教育についての保護者の理解促進

□　ことばの治療が必要な幼児への指導体制の構築

②　特別な支援を必要とする乳幼児への支援内容の充実を図る。

□　特別支援教育に関する研修機会の確保

□　個別の教育支援計画及び指導計画の作成と活用

（４）異校種の教育内容や指導の在り方について共通理解を図り、円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。

①　こども園内の連携・交流を推進する。

□　こども園保育研究会の実施

□　所児と園児の交流活動の実施

②　小・中学校との連携・交流を推進する。

□　小・中学校の授業研究会への参加

□　園児と小学生の交流活動の実施

□　職場体験活動等の受け入れ

（５）家庭や地域社会との連携を図る。

①　望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みを推進する。

□　家庭教育学級の実施

□　「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用

②　虫歯予防の取り組みを推進する。

□　フッ化物洗口の実施

□　歯科衛生士による歯磨き指導の実施

③　地域の教育力を生かした保育・教育を推進する。

□　保護者の園行事等への参加

□　地域資源の積極的な活用

２　子ども・子育て支援事業の推進

（１）多様な子育て家庭に対応した事業の推進に努める。

①　家庭の教育力向上を図る。

□　『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』（川島隆太博士著）を活用した家庭の教育力向上

②　保護者の就労等へ対応した保育所運営、預かり保育・放課後児童健全育成事業の充実を図る。

□　待機児童ゼロの継続

□　預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施

□　幼稚園や小学校、保護者との情報の共有化

□　預かり・放課後児童保育の長期休業中等を中心とした体験活動の充実

□　預かり・放課後児童保育の特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充実

③　子育て世代に対応した経済的支援の推進に努める。

□　入園児への入園祝い品（制服）支給事業の実施

□　多子世帯の幼稚園授業料の軽減

□　在宅児の一時預かり保育及び在園・在所児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施

④　幼児教育無償化への円滑な移行に努める。

□　幼児教育無償化に対応した規則等の改正

□　保護者等への広報・周知

学 校 教 育 の 重 点

○　教員の指導力の向上と教育内容の充実を図り，「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和的・一体的・関連的な育成を基盤として，児童生徒の「生きる力」をはぐくむ。

○　「桑折町の１５歳のめざす姿」の実現をめざし，幼稚園から小学校，中学校までの育ちと学びの連続性と一貫性を大切にした教育を推進する。特に，生活習慣の改善・学力向上・体力向上・生徒指導・特別支援教育の充実の５点に重点的に取り組む。

１　学力向上を図る取組

（１）生活の基盤づくり

① 脳科学の研究成果を活用して，生活習慣の改善・学習習慣の確立を図る。

□ 川島隆太 博士の著書を活用した特別授業の実施（小学校）

□ 生活習慣改善・学習習慣の確立をめざす川島博士による特別授業の実施(中学校)

② 生活改善・充実のための働きかけに努める。

□「家庭学習スタンダード」に沿った取組の充実

□ 桑折町「家庭生活習慣のポイント」の広報と活用

（２）学習の基盤づくり

① 「読み・書き・計算の徹底反復」による，集中力や基礎的知識・技能の向上を図る。

□ 「読み・書き・計算の徹底反復」の取組及び「研修会」の充実

② 学びの質を高める学習集団を育成する。

□ 桑折町の「学びのスタンダード」を基本とした学習スタイルの徹底

③「家読（うちどく)」を中心とした読書活動の充実を図る。

□ 保護者との連携・協力による「家読」の奨励（家読運動とりくみコンクール等)

□ 学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実（各小学校への巡回)

④ 児童生徒の学習を支援する「桑折学習塾」の充実を図る。

□ 小学生対象…算数・国語（年８回)

□ 中学生対象…数学・英語（年１６回)

（３）　授業の改善・充実

① ふくしまの「授業スタンダード」に基づく授業改善と充実を図る。

□ １校１指定公開等の授業研究の充実(内一つは秋田大学院阿部教授の指導により)

② 学力の実態把握と分析，対策の立案と実践に努める。

□ Hyper-QU 検査での「NRT の学力とのクロス集計」結果の活用

□ 国・県の学力検査（４月実施）の分析と活用

③ 幼稚園，小学校と中学校との連携による授業研究の充実を図る。

□ 指導の連続性、専門性を深める幼稚園，小・中学校の連携による事前・事後授業研究会の充実（１校１指定の授業研究公開)

④ 教員の専門性を高める教職員研修の充実を図る。

□ 秋田の探究型授業等に学ぶための県外視察とその研修の共有化

⑤ 新学習指導要領についての研修を深め，趣旨を踏まえた教育内容の検討，教育内容の明確化と授業改善への支援に努める。

□ 教員の専門性や実践的指導力の向上を図る各種研修会の積極的な支援

（４） 新学習指導要領への対応

① 指導体制を整備し，外国語指導助手(ALT)並びに英語指導協力員の活用を図る。

□ 英語指導協力員と綿密な連携のもとに授業の改善・充実

□ 外国語活動・英語教育を核とした国際理解教育の充実

② 小学校教員の英語指導力の向上をめざして研修会を行う。

□ 授業力向上やデジタル教材や新機材の使用のための研修会の開催

※ 小学校プログラミング教育は研修会（２／２０）後に検討

③ 情報活用能力の育成に努める。

□ 電子黒板，デジタル教科書等 ICT の更新とそれを活用した学習活動の推進

２ 体力向上を図る取組

（１）生涯にわたり健康を支える体力づくり、学校教育の充実

① 桑折町「子どもの体力向上プラン」に沿った体力づくりに努める。

□ 運動身体づくりプログラムの継続的な実践と「新体力テスト」を受けた改善の取組

② 体力向上に向けた「1 校（学級） １実践」に取り組む。

□ 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励），部活動の奨励

（２）健康に関する理解を深め，基本的生活習慣の確立をめざす取組

① 家庭と連携して健康管理と基本的生活習慣の定着を図る。

□「早寝・早起き・朝ご飯」の推進や自力登校等の日常的な生活運動の奨励

□ 日々の健康観察や健康診断等の結果による治療勧告や奨励

② 自己の健康状態を把握し，課題を解決していく学習を推進する。

□ 各種生活調査結果を活用した「保健便り」の発行や体育(保健)の授業の充実

（３） 安全・安心な学校給食を活用した「食育」の推進

① 食材及び食品のモニタリング公表や健康維持増進のための情報を提供する。

□ 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での広報

② 栄養士と連携した「食育」の授業を推進する。

□ 各校における「食育授業」の計画的・継続的な実施

□ 家庭に対する朝食の質（メニュー）の改善の呼びかけ

３ 心の教育の充実

（１）積極的な生徒指導の推進

① 学校の教育活動全体に生徒指導の機能を生かし，不登校やいじめのない明るく生き生きとした学校生活を実現する。

ア 自己指導力を育み，自己肯定感を醸成する生徒指導体制を確立する。

□ Hyper-QU 検査の実施とその結果の活用（「認め・誉める」指導を中心として）

イ 幼稚園を含め，小中学校のきめ細かな情報連携・行動連携を一層推進する。

□ 桑折町生徒指導委員会と各校の生徒指導部会・教育相談係との連携

ウ 児童生徒理解を基盤とした問題行動の未然防止と迅速な対応を図る。

□ 不登校対策会議の開催（年１回）と情報の共有，組織的な対応の充実

エ いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止等の対策を推進する。

□「いじめ問題対策連絡協議会」を核とした諸取組の充実(チェックリスト等の活用)

② 開発的な教育相談を充実させる。

ア 教育相談体制を確立する。

□ スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーの積極的な活用

イ 教育相談の知識や技能を高めるための教職員研修を実施する。

□ 外部講師を招聘して開催するなど，生徒指導研修会の充実

③ 情報モラル教育を充実させ，有害情報へのアクセス等による犯罪の実態と被害防止の指導を家庭と連携して行う。

□ SNS モラル授業の実施や PTA と連携した研修会，啓発活動の企画への支援

（２）自律的な生き方を追究する「道徳教育」の充実

① 道徳的価値を自分の事として捉え，多角的に考えたり議論したりする道徳授業の改善

ア 道徳の時間における多様な展開を工夫する。

□ 特別の教科「道徳」の授業づくりと，認め励ます評価と文章表記の工夫

イ 意図的・計画的な道徳的実践力を高める場の設定をする。

□ 毎時の道徳授業で行うポートフォリオ（道徳ノート等）と評価

② １５歳のめざす姿の「段階的スタンダード（徳・生活編)」に基づく日常生活の充実に向けた支援を工夫する。

□ 各校の PTA 集会等での広報活動の充実

□ あいさつ運動や規範意識向上のための取組

（３）心を揺さぶる学習，体験活動・キャリア教育の充実

① 命の尊さ，社会性や規範意識，勤労意識などの「豊かな心」を育む体験活動，ボランティア活動などを充実させる。

□ 農業体験，職業人に聞く，職場体験などの系統だったキャリア教育の充実

② 郷土愛をはぐくむふるさと学習を充実させる。

ア ふるさと学習を推進し，郷土に愛着をもつ機会の拡充に努める。

□ ふるさとの自然，文化や歴史等について「見る，知る，学ぶ」学習機会の拡充

イ 各教科，総合的な学習の時間や道徳，特別活動，食育，土曜学習等における地域人材の活用や地域素材の教材化を図る。

□ 地域素材や地域人材バンクの効果的な活用

③ 異なる文化や価値観を理解し，尊重する態度を育成すると共に平和への意識を高める。

□ 被爆地（広島）への代表児童派遣と各校における平和学習の充実

４ その他の取組

（１）特別支援教育の充実

① 就学指導の改善に努め，特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制の整備・充実

ァ 特別支援学級や通級指導教室（巡回型）の教育活動の充実に努める。

□ 校内における支援を必要とする児童生徒の情報共有（個別の支援計画や指導計画の作成等）と幼小中連携のもとの支援体制の確立

ィ 教育的ニーズに応える支援体制の整備と研修会を企画し，指導力の向上を図る。

□ 校内就学指導委員会の活性化と適正な就学指導，教育相談の充実

□ 特別支援教育支援員研修会の充実（年３回）

ゥ 適正や就学に向けた情報の把握

□ 就学指導審議への資料収集と作成

（２）**各種教育課題への対応**

① 安全教育，防災教育・放射線教育の充実

ァ 身の回りの危険を予測し，自ら回避する能力や態度を育成する。

□ 危険箇所の確認や速やかな情報提供

ィ 系統的な安全学習と組織的な安全指導に努める。

□ 防災マニュアルの見直しを含む学校環境の適切な安全管理と関係機関との連携

ゥ 学級活動や総合的学習の時間等で、「身の安全・健康」を学習する機会を設定する。

□ リスクに対して安全・健康な生活を送るための放射線教育や防災教育の充実

② 低炭素・循環型社会に対応した環境教育を推進する。

□ ふくしま議定書の奨励や３R(Reduce,Reuse,Recyele)や再生エネルギーの学習

（３）教育環境の充実

① 教育施設の充実を図る。

□ 学校教育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討

□ 廃止した学校プールの取扱いの検討

② 指導体制の充実

□「読み聞かせ」等の学習支援ボランティアの活用

③ 学校運営の改善

□「桑折町行事等検討委員会」での町行事や学校行事，諸教育活動の精選審議と提案を受けての改善への取組

（４）子育て世帯への学校教育にかかる経済的支援の充実

① 子育て世帯に対応した経済的支援事業の推進に努める。

□ 奨学資金制度の利用促進と充実の検討

□ 児童生徒への就学援助支給による経済的負担の軽減

□ 入学児童生徒への入学祝い品（制服や本贈呈〈川島博士著〉）支援事業の実施

□ 給食費の半額補助

生 涯 学 習 の 重 点

○　今日的課題や多様な町民ニーズの的確な把握に努める。
○　町民が生涯にわたって学習できる機会の創出や情報の提供に努める。
○　町民の心身の健康づくり及び生活習慣病の予防につながる機会の創出や情報の提供に努める。

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

１　生涯学習の推進

（１）生涯学習推進体制の充実を図る。

□　「生涯学習推進基本計画」（第２次）に基づく推進体制の確立。

（２）いつでも，どこでもだれでもが学び合える生涯学習社会の実現のため，情報の提供と町民ニーズに対応する事業を行う。

□　ICT 講習会，持ち込み講座の開催支援，女性講座の開催支援

２　ライフステージに応じた多様な学習機会の提供と内容の充実

（１）乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じて，求められる知識や技能を適切に提供することができるよう内容の充実を図り，創造的で活力のある活動の展開に努める。

□　こおりキッズスクール，こおり友遊くらぶ，かやのき学園

□　世代間交流事業，若者の活動の場の創出

３　社会教育団体の活動奨励

（１）家庭，学校，地域及び社会教育団体との連携を図るとともに，自主的学習を推進するサークル等の活動を奨励・支援する。

□　桑折町青少年育成町民会議事業の実施

□　親子教室の開催支援

４　青少年体験活動の積極的推進

（１）地域の教育力の活用を図り，青少年の体験活動・ボランティア活動を積極的に推進する。

□　体験活動・ボランティア活動支援センター事業の充実

□　学校支援地域本部事業の充実

□　こおり地域クラブの充実

（２）町の将来を担う青少年に，健全成長と郷土愛をはぐくむために通過儀礼として以下の事業を実施する。

□　中学２年生を対象に、将来への志を高める「立志式」

□　成人を祝い、大人としての自覚を促す「成人式」

5　心を豊かにする読書活動の充実

（1）遊学館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実を図り，親しまれる運営に努める。

□　桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進

（2）町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携を図り，図書の有効活用・読書活動の充実に努める。

□　ブックスタート事業の実施

□　ファミリー文庫おはなしの会の実施

6　芸術・文化団体活動の奨励・支援

（1）町民の自主的な芸術文化活動を奨励・支援するとともに，活動成果発表や鑑賞機会としての総合文化祭の充実に努める。

□　文化講演会の開催

□　高齢者作品展の実施

□　文化団体連絡協議会活動支援

7　社会教育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。

□　地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり

□　各施設の利用環境の向上，効果的利活用と安全維持管理

Ⅱ　健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

1　社会体育事業の推進

（1）身近な体育・スポーツ活動を通して，生涯にわたって健康の保持増進と生きがいづくりに努める。

□　各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施

□　夏期巡回ラジオ体操の開催

（2）総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会の自主的活動を奨励するとともに，各種事業での連携を深進め，生涯スポーツの振興に努める。

□　スポーツフェスティバル及び各種スポーツ大会の開催と加盟団体主催大会の支援

□　スポーツ関係団体間の連携強化による活性化の支援

2　社会体育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。

（1）「イコーゼ！」(屋内温水プール・多目的スタジオ)の安定的かつ効率的な利活用に努める。

□　水泳授業の実施,桑折町小学校水泳大会の開催

□　各種水泳教室の実施

□　夏季休業中におけるPTAとの連携したプール解放の実施

□　屋内遊び場の活用コンテンツの提供

（2）社会体育施設及び周辺施設の、整備・安全維持管理に努める。

□　体育施設群活用促進のための充実策の検討

□　各施設の利用環境の向上，効果的利活用と安全維持管理

Ⅲ　文化財の保護活用

○　「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく歴史資源を活かしたまちづくりの推進を図る。
○　桑折西山城跡整備の推進を図る。
○　文化財やその他の歴史文化遺産、民俗芸能の調査、保存、継承に努める。

1　「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進

（1）　「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財や歴史的遺産の保存と活用を図るとともに、歴史的風致の概念に合致しない歴史的文化遺産、民俗芸能については同計画と連携しながら調査保存・継承に取り組む。

□　万正寺大カヤ周辺整備
□　歴史案内人育成の推進、歴史まちづくり講演会の実施

（2）文化財や補修の必要な文化財の復旧に努めるとともに、文化財の調査成果の公表と未指定文化財の指定と保存・活用を図り、文化財保護精神の継承と郷土の歴史的文化継承の普及啓発に努める。

2　史跡西山城跡保存整備事業の推進

（1）　「史跡桑折西山城整備基本計画」「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡及びその周辺の整備事業を推進するとともに、適切な保存管理及び公開・活用に努める。

3　旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進

（1）　旧伊達郡役所の適切な保存管理と建物の公開・活用に努める。
（2）　種徳美術館の適切な管理と所蔵品の公開に努める。

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価表

1　学力向上を図る取組　　学校教育係

重点施策	（１）生活の基盤づくり （２）学習の基盤づくり （３）授業の改善・充実 （４）新学習指導要領への対応
重点項目	(1)-①　脳科学の研究成果を活用して、学習習慣・生活習慣の確立を図る。　B ②　生活改善・充実のための働きかけに努める。　C (2)-①「読み書き計算の徹底反復」による、集中力や基礎的知識･技能の向上を図る。　B ②　学びの質を高める学習集団づくりに努める。　B ③「家読(うちどく)」を中心とした読書活動の充実を図る。　B ④　児童生徒の学習を支援する「桑折学習塾」の充実を図る。　B (3)-①　ふくしまの「授業スタンダード」に基づく授業改善と充実を図る。　B ②　学力の実態把握と分析、対策の立案と実践に努める。　B ③　幼稚園、小学校と中学校との連携による授業研究の充実を図る。　B (4)-①　新学習指導要領について研修を深め、その趣旨を生かした授業改善に努める。　B ②　外国語指導助手(ALT)並びに英語指導協力員の活用を図る。　A ③　小学校教員の英語指導力の向上をめざして研修会を行う。　B ④　情報活用能力の育成に努める。　C
具体的な活動	□　川島隆太博士の著書を活用した特別授業の実施（小学校）　C □　生活習慣改善・学習習慣の確立をめざす川島教授による特別授業の実施（中学校）　A □　ふくしまの「家庭学習スタンダード」に沿った取組の充実　B □　桑折町の「家庭生活習慣のポイント」の広報と活用　C □「読み書き計算の徹底反復」の取組及び「研修会」の実施　B □　保護者との連携・協力による「うちどく」の奨励（家読運動取組コンクールの実施）　B □　学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実（各小学校への巡回）　B □　桑折学習塾（算数・数学、国語）小学生対象…年 8 回／中学生…年 16 回　B □　１校１指定公開授業研究会の充実（内一つは、秋田大学 阿部教授の指導）　A □　HyperQU 検査の実施とその「学力とのクロス集計」結果の活用　B □　国・県の学力検査（４月実施）の分析と活用　B □　指導の連続性、専門性を深める幼･小･中の連携による事前･事後授業研究会の充実　B □　秋田の探究型授業等に学ぶための県外視察とその研修の共有化　A □　教員の専門性や実践的指導力の向上を図る各種研修会の積極的な支援　C □　英語指導協力員と綿密な連携のもとに外国語授業の改善・充実　B □　外国語活動・英語教育を核とした国際理解教育の充実　C □　授業力向上やデジタル教材や新機材の使用のための研修会の開催　C □　電子黒板、デジタル教科書等 ICT の更新とそれを活用した学習活動の推進　B
成果・評価	○　学習習慣・生活習慣の確立を図る諸取組や働きかけを学校と連携して行ってきた。家庭での学習習慣は全体的には身についているものの、子ども・家庭によっての差が、年齢が上がるにつれて大きくなってきている。 ○「読み書き計算の徹底反復」や「家読」の奨励、桑折学習塾を中心に学習の基盤づくりの取組をしてきて、効果的なやり方の徹底は必要だが、成果が徐々に表れるようになった。 ○　幼稚園を含めて本年度は、延べ４１回、５１授業・保育の研究会を行うことができ、教員の授業分析を基にした、授業の構想力や展開力が全体的に向上してきている。 ○　本年度始めに外国語教育推進リーダーの配置があり、英語指導協力員と TT の授業が可能になり、専門的な指導を受けて子どもたちの英語力は高まってきている。
改善・充実策	○　ふくしま「学びのスタンダード」推進事業の趣旨を生かし、授業改善・充実並びに家庭学習の定着･家庭生活の改善を柱に、今までの幼･小･中が連携しての諸取組(学力向上計画等)を継続し、更に発展させる。 ○　来年度からの新学習指導要領の完全実施にともない、その趣旨の共通理解と共通実践に結びつく講習会や授業研究会を行う。特に小学校における外国語科については、外国語教育推進リーダーの授業公開や授業づくり講習会などを開催する。 ○　小学校のデジタル教科書変更への対応と、プログラミング教育も含めた ICT の活用について、各校のニーズを把握して計画的に使用法等の研修会を設定する。

第三者評価委員評価	B	A 大変よい　B 良い　C やや悪い　D 悪い
教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価表

2　体力向上を図る取組　　学校教育係

重点施策	（１）生涯にわたり健康を支える体力づくり、学校教育の充実 （２）健康に関する理解を深め、基本的生活習慣の確立をめざす取組 （３）安全・安心な学校給食を活用した「食育」の推進
重点項目	(1)-①　桑折町「子どもの体力向上プラン」に沿って、体力づくりに努める。　B ②　体力向上に向けた「1校（学級）1実践」に取り組む。　A (2)-①　家庭と連携して、子どもの健康管理と基本的な生活習慣の定着を図る。　C ②　自己の健康状態を把握し、子ども自身が課題を解決していく学習を推進する。　C (3)-①　食材及食品のモニタリング公表や健康維持増進のための情報を提供する。　B ②　栄養士と連携した「食育」の授業を行う。　A
具体的な活動	□　運動身体づくりプログラムの継続的な実践と「新体力テスト」を受けた改善の取組　B □　業間運動や昼休み時間の活用（長距離走の奨励）、部活動の奨励　A □「早寝･早起き・朝ご飯」の推進や自力登校等の生活運動の奨励　B □　日々の健康観察や健康診断等の結果による治療勧告や奨励　B □　各種生活調査結果を活用した「保健便り」の発行や体育（保健）の授業の充実　B □　町のホームページの活用や「献立表」「給食だより」等での食に関する情報提供　B □　各校における「食育授業」の計画的・継続的な実施　A □　家庭に対する朝食の質（メニュー）の改善の呼びかけ　C
成果・評価	○　令和元年度全国体力・運動能力調査の結果からは、調査対象の小５・中２の男女とも体力合計得点は、全国や県平均を上回っている。種目では男女が共通して、小学校の「上体起こし・長座体前屈」、中学校では「持久走」が全国や県平均をやや下回っているが、その他の種目は上回っている。本町として目標であった平成１８年度~２０年度の最高記録に近づいてきている。 しかし、震災以降の課題である肥満傾向については、改善傾向にある学年もあれば逆に増えている学年もある。高度肥満児は少ないが、中度肥満が全国や県よりも多い。 ○　長距離走などに取り組む体力向上に向けた１校１実践は、中学校での「部活動対抗駅伝」など各校で工夫して取り組んでいて、子どもの体力向上や運動能力向上に役立っている。 ○　新体力テストの運動習慣・生活習慣調査の結果によると、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣は全体的にほぼ身に付いてきている。睡眠時間６時間未満の子どもも前年度より減ってきているが、中学生の「間食や夜食」をする割合が年々高くなってきている。 ○　本年度「栄養教諭」が中学校に配属になり、家庭科で食育を TT の形で授業を行うことができた。また、小学校でもバイキング給食やテーブルマナー・リクエスト給食等で、食に関して指導することができた。加えて就学時健診を利用して、保護者対象に話す機会を設定した学校もあったが、実施した学校は少なかった。
改善・充実策	○　令和元年度全国体力・運動能力調査の結果から、１週間あたり体育の授業以外に運動をしている時間が全国平均と比べて、小５年男子は約２４０分少なく、小５女子も約１８０分少ない。本町の課題の一つである子どもの肥満傾向を考えると、令和２年度「桑折町子どもの体力向上プラン」の重点に基づき、１校(園)１実践を更に工夫するとともに、自力登校や家の手伝いなどの生活運動の奨励や食育の面からも働きかけたい。 ○　子どもの運動習慣改善のために、桑折町小学生陸上競技大会の種目に運動会的要素を取り入れるなど工夫して実施するなどして、子どもが楽しくかつ自主的・日常的に運動に取り組むようにしたい。 ○　インフルエンザ等の感染症を予防するための取組を徹底し、病気をうつさない・うつらないための手洗い・咳エチケット(マスク着用)・うがい等を日常的に行えるように、感染拡大防止のための基本的な態度を身につけさせたい。

第三者評価委員評価	A	A 大変よい　B 良い　C やや悪い　D 悪い
教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価表

３　心の教育の充実　　学校教育係

重点施策	（１）積極的な生徒指導の推進 （２）自律的な生き方を追究する「道徳教育」の充実 （３）心を揺さぶる学習、体験活動やキャリア教育の充実
重点項目	(1)-① 学校の教育活動全体に生徒指導の機能を生かし、不登校やいじめのない明るく生き生きとした学校生活を実現するため ア 自己指導力を育み、自己肯定感を醸成する生徒指導体制を確立する。 B イ 幼稚園を含め、小中学校のきめ細かな情報交流・行動連携を一層推進する。 C ウ 児童生徒理解を基盤とした問題行動の未然防止と迅速な対応を図る。 B エ いじめ防止基本法に基づくいじめ防止等の対策を推進する。 B ② 開発的な教育相談を充実させるため ア 教育相談体制を確立する。 B イ 教育相談の知識や技能を高めるための教職員研修を実施する。 C ③ 情報モラル教育を充実させ、有害情報へのアクセス等による犯罪の実態と被害防止の指導を、家庭と連携して行う。 B (2)-① 自分の事として捉えて多角的に考えたり議論しあう道徳の授業改善のために ア 道徳の時間における多様な展開を工夫する。 B イ 意図的・計画的な道徳的実践力を高める場の設定をする。 C ② 15 歳のめざす姿の「段階的なスタンダード(徳等)」に基づく支援を工夫する。 C (3)-① 命の尊さ、規範意識、勤労意欲などの「豊かな心」を育む体験活動の充実を図る。 B ② 郷土愛を育む「ふるさと学習」を充実させる。 B ③ 異文化や他の価値観を理解し尊重するとともに、「平和」への意識を高める。 B
具体的な活動	□ Hyper-QU 検査の実施とその結果の活用(「認め・誉める」指導を中心として) B □ 桑折町生徒指導委員会と各校の生徒指導部会や教育相談部会との連携 B □ 町不登校対策会議の開催(年１回)と情報の共有、組織的な対応の充実 C □ 町いじめ問題対策連絡協議会を核にした諸取組の充実(チェックリスト等の活用) B □ SC や SSW の積極的な活用と外部講師を招聘する生徒指導研修会の充実 C □ SNS モラル授業の実施や PTA と連携した研修会、啓発活動の企画への支援 B □ 特別の教科「道徳」の授業づくりと、認める励ます評価と文章表記の工夫 B □ 道徳授業の記録(感想等) のポートフェリオ(道徳ノート等)とそれに基づく評価 B □ 各校の PTA 集会等での「１５歳の姿」や１５歳の姿「段階的スタンダード」の広報 C □ PTA と連携した「あいさつ運動」や規範意識向上に向けた取組の充実 B □ 農業体験、職業人に聞く、職場体験など系統だったキャリア教育の充実 B □ ふるさとの自然、文化や歴史などについて「見る・知る・学ぶ」学習機会の拡充 B □ 地域素材や地域人材をバンクの効果的活用 B □ 被爆地(広島)への代表児童の派遣と各校における平和教育の充実 A
成果・評価	○ Q-U 結果を活用して児童生徒の理解と学級づくりに努め、各校でいじめ対策委員会を定期的に開催し未然防止に努めた結果、重大事案は無かった。しかし、小中合同で不登校対策会議を年２回開いて協議したが、前年度より不登校の児童生徒は増加した。 ○ 道徳の授業充実と平和教育等で子どもの心を耕すともに、ふるさと教育やキャリア教育で子どもの夢をはぐくむことを目指しているが、それられを関連させて指導したい。
改善・充実策	○ 不登校の児童･生徒が増加しており、当該校の努力だけでは改善が期待できないケースもあり、町としての対策が必要である。来年度は、桑折町教育支援センター「AYUMI」を立ち上げて、学習活動に関する支援及び学校復帰に　向けた支援を行う。 ○ ふるさと学習の一環として「山城サミット」に向けて西山城址の学習を行い、郷土を見て・知って・学んで愛する心をはぐくむ。

第三者評価委員評価	B	A 大変よい　B 良い　C やや悪い　D 悪い
教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価表

4　その他の取組　　学校教育係

重点施策	（１）特別支援教育の充実 （２）各種教育課題への対応 （３）教育環境の充実 （４）子育て世代への学校教育にかかる経済的支援の充実
重点項目	(1)-①　就学指導の改善に努め、特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制の整備・充実を図るため ァ　特別支援学級や通級指導教室（巡回型）の教育活動の充実に努める。　A ィ　教育的ニーズに応える支援体制の整備と研修を工夫し、指導力の向上を図る。B ゥ　適正な就学指導に指導に向けた情報の把握に努める。　A (2)-①　安全教育、防災教育・放射線教育の充実を図るために ァ　身の回りの危険を予測し、自ら回避する能力や態度を育成する。　B ィ　系統的な安全教育と組織的な安全指導に努める。　B ゥ　学級活動や総合的な学習の時間等で、身の安全等を学習する機会を設ける。　B ②　低炭素・循環型社会に対応した環境教育を推進する。　B (3)-①　教育施設の充実を図る。　B ②　指導体制の充実を図る。　A ③　学校運営の改善を図る。　A (4)-①　子育て世帯への学校教育に係る経済的支援の充実に努める。　A
具体的な活動	□　校内における支援を必要とする児童生徒の情報共有（個別の支援計画や指導計画の作成など）と幼小中連携のもとの支援体制の確立　B □　校内就学指導委員会の活性化と適正な就学指導、教育相談の充実　B □　特別支援教育支援員の研修会の充実（年３回）　A □　就学指導審議への資料収集と作成　A □　危険箇所の確認や速やかな情報提供　A □　防災マニュアルの見直しを含む学校環境の適切な安全管理と関係機関との連携　B □　リスクに対して安全・健康な生活を送るための放射線教育や防災教育　B □　ふくしま議定書の奨励や３　R（Reduce,Reuse,Recycle）や再生エネルギーの学習　B □　学校教育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討　A □　廃止した学校プールの取り扱いの検討　C □「読み聞かせ」等の学習支援ボランティアの活用　A □「桑折町行事等検討委員会」での学校関係行事や諸活動の精選審議を受けての改善　A □　奨学資金制度の利用促進と充実の検討　A □　児童生徒への就学援助支給による経済的負担の軽減および給食費の半額補助　A □　入学児童生徒への入学祝い品（制服支給や川島博士の本贈呈）支援事業の実施　A
成果・評価	○　第２回目の町就学指導担当者会議に各校の特別支援学級担任を加えて行い、対象児１人１人を的確に分析することができた。また、就学審議会前に指導主事が各校を訪問し、対象児を観察して報告することで、審議会をスムーズに進めることができた。 ○　２年目の巡回型通級指導教室は、担当教員の工夫もあり教育活動が充実してきた。 ○　特別な支援を要する児童生徒への支援は、特別教育支援員の補助もあるが個々の児童生徒の課題が複雑で一律に対応できないケースが増えてきている。 ○　桑折町行事等検討委員会の提言を受け来年度の学校行事の精選と効率化が進んだ。 ○　奨学資金制度の利用や入学児童生徒への支援事業、就学援助支給は円滑に行えた。また、各校の電子黒板や ICT の更新も計画とおりに進んだ。
改善・充実策	○　来年度、小学校に特別支援学級２クラス増加する予定であり、「入級してよかった」と児童も保護者も思えるように、指導内容の充実と共に教室環境を相応しいものに整えたい。また、巡回型指導教室も同様に設備等を整備する。 ○　特別支援教育支援員の研修会を工夫し、各校の特別支援コーディネーターと合同の研修会を企画し、コーディネーターの指導の下、学級担任と支援員が補完しあいながら子どもの支援や介助にあたっていけるよう個別指導計画･個別支援計画の充実を図る。 ○　中学生の英検受験に補助をしているが、受験者が想定数より少なかった。中学校と一層連携を図り生徒の意識向上と補助のし方等を工夫して、受験者数の増加を図る。

第三者評価委員評価	B	A 大変よい　B 良い　C やや悪い　D 悪い
教育委員評価	A	
担当者自己評価	A	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援

１乳幼児保育・教育の充実　こども教育課

重　点　施　策	（１）乳幼児が安全安心に保育・教育を受けるための環境の整備と安全指導の充実に努める。 （２）心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するため、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進する。 （３）特別な支援を必要とする乳幼児の支援体制の確立と指導力の向上に努める。 （４）異校種の教育内容や指導の在り方について共通理解を図り、円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。 （５）家庭や地域社会との連携を図る。
重　点　項　目	①　発達に即した環境の整備と施設・設備の点検を実施する。 ②　防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底を図る。 ③　食品等のモニタリングによる安全安心な給食を提供する。 ④　保育所保育計画、幼稚園教育計画により保育・教育の充実を図る。 ⑤　心の安定と自己肯定感を育む集団づくりに努める。 ⑥　運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実を図る。 ⑦　読書活動の推進を図る。 ⑧　文化や芸術など様々なものに触れ経験する中で豊かな心を育む。 ⑨　英語に親しむ活動の充実を図る。 ⑩　総合的な指導力、保育力の向上に努める。 ⑪　特別な支援を必要とする乳幼児への支援体制を確立する。 ⑫　特別な支援を必要とする乳幼児への支援内容の充実を図る。 ⑬　こども園内の連携・交流を推進する。 ⑭　小・中学校との連携・交流を推進する。 ⑮　望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みを推進する。 ⑯　虫歯予防の取り組みを推進する。 ⑰　地域の教育力を生かした保育・教育を推進する。
具体的な活動	□日常的な施設・設備の安全点検の実施 □実効性のある避難訓練等の実施 □通園指導による交通安全啓発活動の実施 □食品のモニタリングと結果の公表 □幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指した計画的・系統的な指導の充実 □環境を通しての遊びを中心とした総合的に行う保育・教育活動の実施 □幼児の言動を肯定的に受け止める保育・教育の実施 □自己表出できる友達関係の育成 □体力向上１園（学級）１実践の取組 □固定遊具を活用した、年齢に応じた遊びの充実 □外部講師による運動遊び、ダンス教室の実施 □絵本コーナーの充実と活用 □絵本の積極的貸し出し □家庭での読み聞かせの推奨 □異文化体験活動の推進 □芸術鑑賞機会の充実

	□音楽に親しむ活動の充実 □飼育、栽培活動の充実 □外部講師による英語で遊ぼうの実施 □一人１回以上の園内保育研究会の実施 □外部講師を招聘しての研修会の実施 □先進園への視察研修 □小学校と連携した保育研究会の実施 □経営自己評価や指導の自己評価、保護者からの園（所）評価の実施 □学校評議員会の開催 □保育補助・支援員の配置 □園内委員会の定期的な開催 □関係機関との連携強化 □特別支援教育についての保護者の理解促進 □ことばの治療が必要な幼児への指導体制の構築 □特別支援教育に関する研修機会の確保 □個別の教育支援計画及び指導計画の作成と活用 □こども園保育研究会の実施 □所児と園児の交流活動の実施 □小・中学校の授業研究会への参加 □園児と小学生の交流活動の実施 □職場体験活動等の受け入れ □家庭教育学級の実施 □「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用 □フッ化物洗口の実施 □歯科衛生士による歯磨き指導の実施 □保護者の園行事等への参加 □地域資源の積極的な活用
成 果 ・ 評 価	○発達に即した環境及び施設設備の点検に万全を期したことで、大きな事故や怪我なく過ごすことができた。 ○火災、地震、不審者、Ｊアラート発信に対応できるよう避難訓練や　第１駐車場を中心に通園指導、交通事故防止のための交通安全教室を定期的に実施するとともに県外の事故を受け、散歩ルートの危険個所を洗い出し点検し共有することができた。今後も、園児が安心して過ごせる環境を提供するだけでなく、職員一人一人が危機管理意識を持ち、様々な角度から危機管理体制の構築に努めると共に園児、保護者、教職員の意識の高揚を図っていきたい。 ○保育所給食のモニタリングを実施し、安心･安全な給食を提供することができた。 ○保育･教育計画に基づき園の重点目標の達成に向け各年齢の発達に応じＰＤＣＡサイクルを意識しながら指導をしたことで各年齢なりに主体的に遊びを進めようとする姿が見られた。今後も小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋げることができるように保育・教育の充実を進めていきたい。 ○個々の発達に応じた指導を心掛けることで、一人一人に寄り添い心の安定を図ることができた。また、大きな行事や機会あるごとに頑張ったことや、出来るようになったことを具体的に認めることで自己肯定感を育むとともに、安定した気持ちで園生活を過ごすことができた。

	○夏季休業中に複合遊具の設置をしていただいたことで、「登る」「滑る」「くぐる」「渡る」等、全学年園児の様々な動きを引き出すことができた。また、年間を通し『毎日、合計６０分以上楽しく体を動かすこと』を意して運動遊びが楽しめる環境作りや援助を心がけるとともに外部講師を招いて実施した運動教室やストリートダンス等、園児が経験した遊びを学級活動や自由な活動時に取り入れる等、体を動かす活動の充実を図ることができた。 ○本を読むことの大切さを保護者に意識してもらうため、絵本の読み聞かせの大切さについて便りで知らせるとともに園長講話にも取り上げて伝えた。『読み聞かせカード』への取り組みや週一回の絵本の貸し出し、年４回『絵本だより』の発行等、読書活動の推進を図った。また、家庭での絵本の読み聞かせのアンケートを保護者に実施したことは読み聞かせの現状把握だけでなく、保護者の思いに寄り添った絵本だより作りに役立った。保護者の方が実感している読み聞かせの効果や各教諭の『お勧めの絵本』を掲載した。まずは保護者自身が絵本の魅力に気づいて欲しいと考える。 ○文化センターでのシルエット劇鑑賞、遊戯室で実施した音楽鑑賞会、異文化交流会(中国)を通して、園児が文化や芸術等に触れる事ができた。園児の目線に立ち興味が持てるような取り上げ方を意識したことで充実した内容になった。特に今年度のファミリーコンサートはシンガーソングライター『ちむぐくる』を招き、園児が保護者とともに沖縄の伝統楽器の音色と織り成す生の歌声を聞くことができ豊かな心や感性の芽生えを育む経験の一つとなった。 ○英語に親しむ活動を計画し、ＡＬＴや町内英語外部講師と遊びながら英語を学ぶことができるようにした。年少、年中児は自由な形態での遊びの時間に触れ合い、年長児はゲームや英語の歌、英語での絵本の読み聞かせなど遊びを通して英語に親しめるようにし、活動の充実を図った。 ○総合的な指導力を高めるために外部講師を招き、各学年１回ずつ保育研究会を行った。現職教育のテーマに沿った教材研究や指導案の見直しなどを行ない研究会に臨んだことや各学年同じ講師を招き、同じテーマで指導をいただいたことは、園または各学年、各担任の成果や課題が分かりやすく、一人一人の指導力アップに繋がった。今後も総合的な指導力、保育力の向上に努めたい。また、小・中学校の授業研究会への参加や醸芳小学校長先生を講師に招いて幼小連接保育研究会を実施したことで、小学校との連続性のある指導について学ぶことができた。 ○特別な支援を要する幼児には、家庭と十分に話し合う機会を持ち、関係機関と繋ぐことで、保護者との信頼関係を保持することができ指導の効果を上げることができた。また、『幼児ことばの教室こおり』の 10 月開設に向け、研修に参加して指導方法の習得、手続き書類や受付方法等の園内理解、教材準備と適切な環境作りを行い、『こどもも』からスムーズに引き継ぎ、ことばの治療が必要な幼児への指導体制を整え開始することができた。楽しく言葉の教室に参加しており、保護者からの信頼も厚い。今後、言葉の教室にかかわる職員が兼務であることから業務分担調整を図っていく必要がある。 ○今年度は、現職教育の研究テーマを特別支援とし、県北ブロックでの発表を視野に入れて研修、研究活動を行った。台風のため中止となり紙上発表となったが、園内研修として取り上げ、園内発表会を実施した。また、特別な支援を必要とする乳幼児の個別の支援計画、個別の指導計画を作成し、保育や入園、入学時に切れ目のない支援を目指し引継ぎに活用した。今後も特別な支援を必要とする乳幼

	児への支援内容の充実を図りたい。 ○保育所への誕生会参加や幼稚園の夏祭りや交通安全教室への保育所２歳児の参加、年長による所庭の草むしり活動等、こども園内の連携・交流を行うことで、あこがれの気持ちや思いやり、優しい気持ち等が育つように計画し実行することができた。また、こども園職員研修会の実施や幼稚園・保育所保育研究会には互いに参加を心がけた。 ○小・中学校との連携・交流を定期的に行うことで、幼稚園で育てていく部分が明確となり、日々の保育の中で意図的に指導する事ができた。 ○今年度の家庭教育学級は４回実施しており、４月は園長より園経営についての話、６月はファミリーコンサート、９月は祖父母を対象に中野茂氏による講話『孫とのかかわりについて』、１１月は保護者対象に番匠啓太氏による講話『親子のかかわり方や子どものやる気を引き出す言葉かけについて』を実施した。これからの未来を担っていく子どもたちにどんなかかわりが必要なのかこれからの時代にたくましく生きていくためにはどんな力を身に付けていけばいいのかあらゆる目線での話を提供できた。「家庭生活習慣のポイント」を活用した望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みについては、今後も園だよりや HP 掲載の「幼稚園の様子」を通して望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みを推進していきたい。 ○昨年度からフッ化物洗口を毎週１回年長組のみ行っている。虫歯予防集会での歯科衛生士の話や歯磨き指導(染め出し)を行ったことで園児の虫歯予防への意識に繋がった。 ○地域の教育力を生かしファミリー文庫によるお話会や音楽鑑賞会、異文化交流(中国)を実施した。また、ファミリーティーチャーを募り園の行事に参加していただいた。子どもたちのために園行事に協力したいと考えてくださる保護者の方がいるので、今後も園の教育活動の理解をいただく良い機会にしたい。
改善・充実策	○　教育目標の達成を目指し、教育計画の実施を進めるとともに教育活動のねらいや園児の育ちを総合的に考えながら実施、反省、見直しをしていった。行事の時期や日程については、これまでの流れや様々な兼ね合いで次年度に反省を生かせない行事もあるが、乳幼児保育・教育の充実を図るために行事等の精選や十分に検討しながら内容の見直しを図っていきたい。 ○　園の教育方針や子どもの育ちをどう捉えていくかについて、園内職員が共有するとともに園だよりや幼稚園生活の様子、家庭教育学級等を通して家庭に知らせ、連携を図りたい。

第三者評価委員評価	B	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教育委員評価	A	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…子ども・子育て支援事業の推進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

２　子ども・子育て支援事業の推進　　こども教育課

重　点　施　策	(1) 多様な子育て家庭に対応した事業の推進に努める。
重　点　項　目	① 家庭の教育力向上を図る。 ② 保護者の就労等へ対応した保育所運営、預かり保育･放課後児童健全育成事業の充実を図る。 ③ 子育て世代に対応した経済的支援の推進に努める。 ④ 幼児教育無償化への円滑な移行に努める。
具体的な活動	□ 『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』(川島隆太　博士著)を活用した家庭の教育力向上 □ 待機児童ゼロの継続 □ 預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施 □ 幼稚園や小学校、保護者との情報の共有化 □ 預かり・放課後児童保育の長期休業中等を中心とした体験活動の充実 □ 預かり・放課後児童保育の特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充実 □ 幼稚園入園祝い品（制服）支給事業の実施 □ 多子世帯の幼稚園授業料の軽減 □ 在園・在宅児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施 □ 幼児教育無償化に対応した規則等の改正 □ 保護者等への広報・周知
成 果 ・ 評 価	○妊婦全戸訪問の際に川島隆太先生の本を配付し、家庭の教育力向上に努めた。 ○預かり・放課後児童保育支援員の研修会や児童館長による巡回指導により、運営上の課題や子どもや保護者への対応等に早期に対応することができた。また研修会等で学んだことを他の支援員に伝達し、支援員全体のスキルアップを図れ、特別に支援を要する園児・児童に対する対応もでき、園児・児童の保育の充実も図った。 ○預かり・放課後児童保育では、各施設でさまざまな体験活動を実施し、子どもたちの健全育成につなげることができた。また幼稚園・小学校と連携を密にし、情報の共有化に努め、園児・児童に対する保育の充実も図った。 ○多子世帯の幼稚園授業料軽減（9 月まで）や入園祝い品（制服）支給事業、在園・在所児の病児・病後児保育利用助成事業を行い、保護者の経済的負担の軽減を図った。 ○10 月からの幼児教育の無償化に伴い、規則等の改正を行いスムーズに対応できるように努め、また保護者等へも周知し制度に対しての理解を図った。
改善・充実策	○預かり保育・放課後児童保育運営体制の確立を図り保育の充実に努める。 ○待機児童ゼロの継続を目指し、人材確保及び保育の充実に努める。 ○在園・在所児の病児・病後児保育利用助成事業の申込件数が少ないため、事業内容の周知に努める。

第三者評価委員評価	A	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教 育 委 員 評 価	A	
担 当 者 自 己 評 価	A	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重点施策	１　生涯学習の推進 （１）生涯学習推進体制の充実を図る （２）いつでも、どこでもだれでもが学び合える生涯学習社会の実現のため、情報の提供と町民ニーズに対応する事業を行う。
重点項目	○　「生涯学習推進基本計画」（第２次）に基づく推進体制の確立 ○　ＩＣＴ講習会、持ち込み講座の開催支援、女性講座の開催支援
具体的な活動	○　「生涯学習推進基本計画」（第２次）に基づく推進体制の確立 ・半田公民館に地区公民館運営推進員を配置し、地区のニーズに応じた特色ある公民館活動を推進した。 ○　ＩＣＴ講習会、持ち込み講座の開催支援、女性講座の開催支援 ・タブレット教室(初心者向けおよび初中級者向け・全４回コース)やスマートフォン講座を、民間事業者のメニューを活用し開催した。 ・持ち込み講座については、町女性団体連絡協議会の講座開催に対して支援した。 ・男女共同参画推進事業との共催で、「防災に備える『まさかのときの生き残り術』みんなが知っておくべきこと」と題した講演会を開催した。
成果・評価	○　中央公民館・地区公民館活動の充実・展開に向けて、新たな仕組みづくりの方向性を見出すことができた。 ○　ＩＣＴ講習会としてのパソコン・スマートフォン講座は、それぞれのツールを利用することで生活を豊かにすごすための教室として実施できた。
改善・充実策	○　「生涯学習推進基本計画」に基づき、推進体制の充実及び魅力ある各種事業を引き続き展開していく。 ○　より多くの町民が生涯学習の機会を得られるよう、ニーズの把握に努め、豊かな学びの機会を提供するため、地区公民館の活用の充実を図り、各種事業を展開していく。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　Ｂ良い　Ｃやや悪い　Ｄ悪い
教育委員評価	B	
社会教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重点施策	２　ライフステージに応じた多様な学習機会の提供と内容の充実
	（１）乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じて、求められる知識や技能を適切に提供することができるよう内容の充実を図り、創造的で活力ある活動の展開に努める。
重点項目	○ こおりキッズスクール ○ こおり友遊くらぶ　○ かやのき学園 ○ 世代間交流事業　○ 若者の活動の場の創出
具体的な活動	○ こおりキッズスクール　・年５回開催　のべ６１名参加（カヌー体験、キャンプ、など） ○ 子ども向け講座　・年８回開催　のべ１１８名参加（マジック教室、百人一首、かるた大会など） ○ こおり友遊くらぶ　・年９回開催　受講生３０名（のべ１６６名参加） ○ かやのき学園　　・全体学習６回　地区館学習各３回　受講生８５名
成果・評価	○ こおりキッズスクール　・日常体験できない自然の素晴らしさや物作り、伝統文化などを体験させることができた。 ○ こおり友遊くらぶ　・受講生の希望により、学習内容を吟味し仲間と共に学習し、いきいきと楽しく生活するための支援としての役割を担うことができた。 ○ かやのき学園　・年間を通した活動により、生きがいづくり、仲間づくりの貴重な機会とすることができた。
改善・充実策	○ こおりキッズスクール ・学校や家庭で体験できないことが学習できる機会であり、地域の仲間との交流も図ることのできる有意義な活動として継続していく。 ○ こおり友遊くらぶ　○ かやのき学園 ・生きがいづくりの上で、重要な価値ある事業である。より充実した講座にするために、新たな参加者や男性の参加を促していく。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　Ｂ良い　Ｃやや悪い　Ｄ悪い
教育委員評価	B	
社会教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重 点 施 策	３　社会教育団体の活動奨励 （１）家庭、学校、地域及び社会教育団体との連携を図るとともに、自主的学習を推進するサークル等の活動を奨励・支援する。
重 点 項 目	○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ○ 親子教室の開催支援
具体的な活動	○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ・青少年育成町民会議大会及び記念講演　7 月 10 日(水)　参加者１２６名 「フィンランドやデンマークの子育て・幼児教育に学ぶ」 講師：仙台大学准教授　柴田千賀子　氏 ・各小学校意見発表会　各小学校で実施し、８名の児童が発表を行った。 ○ 親子教室の開催支援　・子ども会や PTA 等が行う親子活動への支援、助成を行った。
成果・評価	○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ・青少年の豊かな心と生きる力を養い、地域社会が一体となって健全育成に取り組んだ。 ・「青少年育成町民会議だより」を発行し、町民会議大会の記念講演の要点と参加者の感想を広く町民へ周知した。 ○ 親子教室 ・子供会を中心に９団体の助成利用があり、親子料理教室や親子体操教室など、充実した親子活動の機会を支援することができた。
改善・充実策	○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ・青少年健全育成のために、国・県の施策と呼応し、各関係団体とともに事業充実を図っていく。 ○ 親子教室 ・親子の絆、保護者間のつながりが見て取れるため、それぞれの活動を大切にし、引き続き支援していく。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　Ｂ良い　Ｃやや悪い　Ｄ悪い
教 育 委 員 評 価	B	
社会教育委員評価	B	
担 当 者 自 己 評 価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重 点 施 策	４　青少年体験活動の積極的推進
	(1)地域の教育力の活用を図り、青少年の体験活動・ボランティア活動を積極的に推進する。 (2)町の将来を担う青少年に、健全成長と郷土愛を育むために通過儀礼としての事業を行う。
重 点 項 目	○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業の充実 ○ 学校支援地域本部事業の充実　○ こおり地域クラブの充実 ○ 中学２年生を対象に、将来への志を高める「立志式」 ○ 成人を祝い、大人としての自覚を促す「成人式」
具体的な活動	○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施 ・コーディネーター1 名を配置し学校等の要請に応えた。「桑折町人材協力支援バンク」ボランティアの協力により、学校支援及び地域クラブの活動運営を行うことができた。 ○ 「立志式」　・桑折町立志式及び記念講演　2 月 7 日(金)　醸芳中学校 2 年生９３名および保護者　○ 「成人式」　・桑折町成人式　1 月 12 日(日)　新成人　１３８名
成果・評価	○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施 ・学校等からの各種分野の要望に基づき、的確な人材を派遣することで、豊かな学びが醸成された。また、指導者も地域や社会への還元により、新たな生きがいづくりにつながった。 ・こおり地域クラブでは、ボランティア指導者の熱心な指導により、文化・芸術・スポーツなどの 13 クラブに 138 名の児童が参加してそれぞれ活動し、有意義な時間を過ごすことができた。 ○ 「立志式」　○ 「成人式」 ・中学２年生の立志者及び新成人をそれぞれ激励し、節目の機会とすることができた。
改善・充実策	○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施 ・コーディネーター を介し、学校及び地域ボランティアとの連携強化を引き続き図っていく。 ・「桑折町人材協力支援バンク」の登録ボランティアの発掘を図る必要があるため、人材についての情報収集に努める。 ○ 「立志式」　○ 「成人式」 ・それぞれの節目で、自覚を新たにできるような式典等の内容充実を図っていく。

第三者評価委員評価	B	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教 育 委 員 評 価	B	
社会教育委員評価	B	
担 当 者 自 己 評 価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重点施策	５　心を豊かにする読書活動の充実
	（１）遊学館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実を図り、親しまれる運営に努める。 （２）町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携を図り、図書の有効活用・読書活動の充実に努める。
重点項目	○ 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ﾈｯﾄﾜｰｸの推進 ○ ブックスタート事業の実施　　○ ファミリー文庫おはなしの会の実施
具体的な活動	○ 学校図書室との連携、図書ネットワークの推進 ・睦合小・半田醸芳小・醸芳中・預かり保育に計 1,056 冊の貸出しを行った。 ○ ブックスタート事業の実施 ・７ヶ月児健診時に、親子のふれあいを深める読み聞かせの奨励活動を実施し、絵本の進呈及び「よも～よ」の利用案内を行った。 ○ ファミリー文庫おはなしの会の実施 ・毎月１回、中央公民館おはなしの会を、ファミリー文庫の協力を得て、屋内遊び場利用の幼児を対象に実施した。
成果・評価	○ 学校図書室との連携、図書ネットワークの推進 ・おはなしの会、ブックスタート事業ともに、工夫をかさねながら開催することができた。 ○ 図書室運営の充実 ・遊学館「よも～よ」において、18,000 冊の図書貸出を行い、学習スペースの提供も行いながら利用促進を図ることができた。
改善・充実策	○ 図書室運営の充実 ・中央公民館おはなしの会は、ボランティアの協力を得ながら継続し、絵本の出張貸出を行い、家庭での読み聞かせを推進する。また、新刊図書の充実にも努める。 ○ 小・中学校との連携 ・各小・中学校及び学校司書と連携しながら、図書ネットワークの活用を推進し、読書習慣の定着に努める。

第三者評価委員評価	A	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教育委員評価	B	
社会教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ　生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重点施策	６　芸術・文化団体活動の奨励・支援 （１）町民の自主的な芸術文化活動を奨励・支援するとともに、活動成果発表や鑑賞機会としての総合文化祭の充実に努める。
重点項目	○ 文化講演会の開催 ○ 高齢者作品展の実施　　○ 文化団体連絡協議会活動支援
具体的な活動	○ 高齢者作品展の実施、文化団体連絡協議会活動支援 ・第 44 回町総合文化祭開催のため、文化祭実行委員会の支援をするとともに、児童・一般作品展や老人クラブ連合会の協力で高齢者作品展を同時開催した。また、文化団体連絡協議会への補助金交付、事務運営補助を行い自主的活動をサポートした。
成果・評価	○ 高齢者作品展の実施　　・多くの高齢者から 151 作品の出展があった。 ○ 文化団体連絡協議会活動支援 ・新たな団体も加わり、加盟団体は 51 団体、1,086 人の会員となった。総合文化祭は町最大の文化イベントであり、補助金交付、事業支援を行うことで活性化できた。 ・文化祭は、「総合展示会」「芸能・ダンス発表会」「ダンス交流会」を町民体育館及びイコーゼ！で開催し、2,089 名の来場があった。
改善・充実策	○ 文化講演会・総合文化祭・高齢者作品展等の開催実施 ・町民が地元で芸術・文化を気軽に楽しめる機会として、また児童生徒の豊かな感性を育む場として､今後もより充実した開催となるよう工夫していく。 ・高齢者が日ごろ創作した作品の発表の機会として、今後も作品展を継続していく。また、総合文化祭についても創意工夫を重ね、子どもから高齢者まで幅広い年代が集える機会としていく。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　Ｂ良い　Ｃやや悪い　Ｄ悪い
教育委員評価	B	
社会教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、多文化交流の促進
青少年の健全育成

Ⅰ 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進　　生涯学習課

重点施策	7　社会教育施設の効率的・効果的な管理運営 （1）社会教育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。
重点項目	○　地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ○　各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理
具体的な活動	○　地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ・半田公民館に運営推進員を配置し、「防災合宿」「卓球ひろば」「ライフキネティック」等の独自事業を展開した。また、利用しやすい環境づくりも進めた。 ○　各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理 ・日常からの安全点検を実施し、良好な利用環境の維持に努め、また、光熱水費などの施設管理費の節約にも併せて努めた。 ・施設の管理清掃業務を委託することにより、適正な施設管理に努めた。 ○ 桑折公民館　…2 階トイレ洋式化改修工事、小ホール床張替工事を実施した。
成果・評価	○　地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ・地区館事業の充実に向け今後の方向性を見出すことができた。 ○　各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理 ・委託業者による業務の遂行で、適切な点検・管理を行うことができた。 ・必要箇所の修繕を行い、利用環境の向上に努めることができた。
改善・充実策	○　地域に根ざした地区公民館運営管理体制づくり ・次年度より公民館長兼運営推進員を配置し、半田公民館の運営を参考としながら、他地区公民館についても、町民の身近な公民館として管理運営できる体制づくりを推進する。 ○ 各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理 ・各施設については、日常的な点検を行うことにより、適正管理に努め、必要に応じて維持補修を行っていく。 ・利用環境の維持向上のため、利用者からの声に耳を傾け、利用しやすい施設の管理運営に努めていく。

第三者評価委員評価	B	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教育委員評価	B	
社会教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実
屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

Ⅱ 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興　　生涯学習課

重 点 施 策	１　社会体育事業の推進 （１）　身近な体育・スポーツ活動を通して、生涯にわたって健康の保持増進と生きがいづくりに努める。 （２）　総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会の自主的活動を奨励するとともに、各種事業での連携を深め、生涯スポーツの振興に努める。
重 点 項 目	○ 各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施 ○ 夏期巡回ラジオ体操の開催 ○ スポーツフェスティバル及び各種スポーツ大会の開催と加盟団体主催大会の支援 ○ スポーツ関係団体間の連携強化による活性化の支援
具体的な活動	○ 各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施 ・スポーツ推進委員の協力のもと、スポーツ協会と連携を計り、スポーツフェスティバル及び各種スポーツ大会を開催した。また、「スポーツ体験教室」(ゴルフ教室・硬式テニス教室)を開催した。 ○ 夏期巡回ラジオ体操の開催 ・町民ほか６００名以上が参加し、全国に桑折町の元気を発信できた。 ○ 「マルベリーこおり」「町スポーツ協会」との連携の推進 ・団体への補助金交付、活動支援及び共催事業を行った。
成果・評価	○　各種スポーツ大会の開催や健康づくり教室等の実施 ・第５回スポーツフェスティバルは、１２種目７００名を超える参加者があり、スポーツへの関心を高めることができた。 ・「スポーツテスト」については、台風１９号の影響により中止、「スポ少交流会」については新型コロナウイルスの影響により開催に至らなかったが、参加者の安全を考えて判断し、理解をいただくことができた。 ○ 「マルベリーこおり」「町スポーツ協会」との連携の推進 ・「マルベリーこおり」は、toto から町に支援助成を受けており、さらに町独自にクラブ・協会の運営を支援しながら活動促進を図ることができた。
改善・充実策	○　スポーツフェスティバル・各種スポーツ大会の開催 ・スポーツフェスティバル等を継続して開催することにより、町民の健康意識、スポーツ意識の向上を図っていく。また、スポーツ推進委員との更なる連携強化を図っていく。 ・健康志向の高まりのなかで、「健康」に関連する事業は、庁内関係課及び公民館事業と連携しながら進めていく。 ○ 「マルベリーこおり」「町スポーツ協会」との連携の推進 ・補助金交付による支援を継続しながら、両団体のより良い運営の方向性を見出していく。

第三者評価委員評価	A	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教 育 委 員 評 価	B	
社会教育委員評価	B	
担 当 者 自 己 評 価	B	

令和元年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実
屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

Ⅱ 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

生涯学習課

重 点 施 策	２　社会体育施設の効率的・効果的な管理運営 （１）「イコーゼ！」（屋内温水プール・多目的スタジオ）の安定的かつ効率的な利活用に努める。 （２）社会体育施設及び周辺施設の整備・安全維持管理に努める。
重 点 項 目	○ 水泳授業の実施、桑折町小学校水泳大会の開催 ○ 各種水泳教室の実施 ○ 夏季休業中における PTA と連携したプール開放の実施 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 ○ 体育施設群活用促進のための充実策の検討 ○ 各施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理
具体的な活動	○ 水泳授業の実施、桑折町小学校水泳大会の開催、各種水泳教室の実施 ・水泳授業、夏休みプール開放、水泳大会を事故なく実施した。水泳教室には、幼児からシニアまで、幅広い年代の方が参加した。 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 ・遊び場の利活用促進のため、特別イベントを 11 月と 2 月に開催した。 ○ 施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理 ・桑折テニスコートについて、利用料金の形態を変更し団体での利用を可能とし、利用促進につなげた。 ・「イコーゼ！」北側駐車場に照明を取り付け、利用者の安全管理に努めた。 ・ふれあい公園の芝生の損傷が激しかったことから、専門家からのアドバイスを受けながら管理を進めた。
成果・評価	○ 水泳授業、小学校水泳大会の開催　○　各種水泳教室の実施 ・学校授業等と一般開放が混在する中でのプール運営となっているが、大きな混乱もなく事故なく運営できた。 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 ・木のおもちゃ遊びや紙アプリ事業などを開催し、常設遊具以外のイベントを実施することで利用促進につなげることができた。 ○施設の利用環境の向上、効果的利活用と安全維持管理 ・施設管理について、直営で出来る部分は限られるが、委託経費圧縮の観点からも効率的な施設管理を維持できている。
改善・充実策	○ 社会体育施設の運営管理 ・「イコーゼ！」について、指定管理者制度の導入などを検討し、より良い施設の運営管理について検討していく。 ・既存体育施設の適正管理に努め、可能な範囲で維持補修を計画的に進めていく。

第三者評価委員評価	B	A大変良い　B良い　Cやや悪い　D悪い
教 育 委 員 評 価	B	
社会教育委員評価	B	
担 当 者 自 己 評 価	B	

令和元年度重点施策点検・評価

桑折町教育委員会

Ⅲ　文化財の保護活用

重 点 施 策	１.「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進
	(1)　「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財や歴史的遺産の保存と活用を図るとともに、歴史的風致の概念に合致しない歴史的文化遺産、民俗芸能については同計画と連携しながら調査保存・継承に取り組む。 (2)　文化財や補修の必要な文化財の復旧に努めるとともに、文化財の調査成果の公表と未指定文化財の指定と保存・活用を図り、文化財保護精神の継承と郷土の歴史的文化継承の普及啓発に努める。
重 点 項 目	○ 補修が必要な文化財の復旧・修理 ○ 伊達郡役所をはじめとする復旧した文化財の公開と更なる活用 ○ 郷土の歴史的遺産の調査・保存・整備 ○ 未指定文化財の調査・指定・保存
具体的な活動	○ 本丸整備が完了した桑折西山城跡において、「桑折西山城復元祭」を開催した。 ○　万正寺の大カヤ周辺整備のため、周辺の土地公有化を図った。 ○ 歴史案内人育成事業を実施し、講座受講者を桑折町歴史案内人として認定し、活動に入ってもらった。
成果・評価	○　歴史まちづくり講演会を発展させた「桑折西山城復元祭」の実施により、令和３年度の「全国山城サミット桑折大会」に向け、事業をスタートさせることができた。 ○　万正寺の大カヤ周辺整備を進める準備ができ、史跡桑折西山城跡と一体となる伊達氏関連遺跡の整備を進めることができた。 ○ 桑折町歴史案内人の活動が活性化し、町内外の方を案内し、小中学校の学習活動を支援することができた。
改善・充実策	○　「全国山城サミット桑折大会」を町民総参加で実施するため、歴史的遺産の価値を広く町全体に周知していく必要がある。 ○　桑折宿の景観に配慮した改善に対する助成事業に向けた事業や、案内板等の整備、老朽化した案内板の改修が必要である。 ○ 歴史案内人の活動・体制の充実が必要がある。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　　Ｂ良い　　Ｃやや悪い　　Ｄ悪い
教育委員評価	B	
文化財保護審議委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度重点施策点検・評価

桑折町教育委員会

Ⅲ　文化財の保護活用

重 点 施 策	２　史跡西山城跡保存整備事業の推進 （１）　「史跡桑折西山城整備基本計画」「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡及びその周辺の整備事業を推進するとともに、適切な保存管理及び公開・活用に努める。
重 点 項 目	○　史跡桑折西山城跡保存整備事業の推進 ○　史跡周辺の整備事業の推進
具体的な活動	○　史跡桑折西山城跡整備事業として、大手道周辺のサイン、本丸周辺及び中館・西館の樹木伐採、西館枡形状虎口の通路整備実施設計を行った。 ○　大手道入口、平沢口、うぶか口の遊歩道、サイン等を整備のため、都市再生整備計画に盛り込んだ。 ○　万正寺の大カヤ周辺整備に着手した。
成果・評価	○　観音寺から大手門跡を経て本丸に至る通路を確保することができた。 ○　本丸からの眺望や中館・西館を経由して平沢口へ抜ける城跡の見学ルート、空堀等の遺構の見通しを確保することができた。 ○　ガイダンス施設を予定している大かや園周辺を整備する準備が整った。
改善・充実策	○　史跡指定範囲内及び周辺を関連付けながら整備を進める必要がある。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　Ｂ良い　Ｃやや悪い　Ｄ悪い
教育委員評価	B	
文化財保護審議委員評価	B	
担当者自己評価	B	

令和元年度重点施策点検・評価

桑折町教育委員会

Ⅲ　文化財の保護活用

重 点 施 策	３　旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進 （１）旧伊達郡役所の適切な保存管理と建物の公開・活用に努める。 （２）種徳美術館の適切な管理と所蔵品の公開に努める。
重 点 項 目	○　旧伊達郡役所の公開と企画展の充実 ○　種徳美術館所蔵美術品の管理と公開・活用
具体的な活動	○　種徳美術館企画展「伊達氏と桑折西山城」を開催した。 ○　種徳美術館ワークショップの開催 ○　旧伊達郡役所活用事業「塔屋見学会」「サンフォトこおり写真展」
成果・評価	○　桑折西山城跡整備事業や桑折西山城復元祭に関連する企画展を実施し、山城サミット事業や史跡整備事業について知ってもらうことができた。 ○　企画展や収蔵品展に合わせたワークショップを開催したことにより、美術館の新たな観覧者層を獲得することができた。 ○　通常は入ることができない旧伊達郡役所塔屋を公開する等の事業を通じ、多くの方々に来場いただくことができた。
改善・充実策	○　文化財保護法改正の動向を見極めながら、適切な文化財建造物の活用を行う必要がある。 ○　種徳美術館の収蔵品、寄託品を公開するとともに、関係自治体や団体と連携しながら、展示の充実を図る必要がある。

第三者評価委員評価	B	Ａ大変良い　Ｂ良い　　Ｃやや悪い　　Ｄ悪い
教育委員評価	B	
文化財保護審議委員評価	B	
担当者自己評価	B	

２　教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和２年２月２０日

学校名　　桑折町立醸芳小学校

職氏名　　校長　高野　孝男

令和元年度学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

「とびっきりの笑顔求めてアクション２０１９」の共通認識と具現化を図り、「誇りを持って、自分の未来を切り拓いていく子ども」を育成する。

（１）カリキュラムの充実（本物の教材研究と授業づくり）とワンランク上の教育活動を行う。

（２）「地域が学校を応援、学校が地域に貢献（本物の地域との連携強化）」を推進する。

（３）教育公務員としての服務の厳正、不祥事根絶（本物の安心・安全）に取り組む。

２　学校経営総合評価

（１）「本物のあいさつ」「本物の学び」「本物の思いやり」「本物のチャレンジ」をキーワードに、児童、教職員、保護者に浸透し、意識して日々の教育活動に取り組むことができた。

（２）福島県教育委員会指定「学びのスタンダード推進事業」パイロット校３年目の集大成として、その成果を発表することができた。今後、次年度新学習指導要領完全実施へ向け、日々の授業の充実や活用力の育成、主体的な家庭学習態度の形成へ向けた「確かな学力」の定着へ向けた取組を行っていきたい。

（３）保護者、地域から応援信頼される学校づくりのために、毎朝の立哨指導、土曜学習への協力、授業における地域人材の積極的な活用とともに、情報発信（学校便り、ホームページ、学年便り等）により、学校の教育活動への関心が高まり信頼感へとつなげることができた。

（４）定期的な校内服務倫理委員会の開催や不祥事防止担当等輪番制による提言や外部者（ＰＴＡ会長）参加による会の運営、新聞記事（切り抜きを毎日配付）、服務倫理ニュース等の啓発を行うことで当事者意識を高めることができている。校内服務倫理委員会の十分な時間の確保、計画的な会の運営、外部者参加の機会の増加等については、今後も改善を図っていきたい。さらに、風通しの良い職場づくり、同僚性を高める職場づくりこそ不祥事根絶のキーワードと考え、継続した取組を行っていく。

３　学校経営課題の実施状況

（１）カリキュラムの充実（本物の教材研究と授業づくり）とワンランク上の教育活動

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	□　カリキュラムを（教育課程）を軸とした教育活動の充実・改善	B
実践事項	〈知〉授業のスタンダードを活用した授業改善、教科担任制の充実 、読書の習慣化	B
	〈徳〉考える道徳、議論する道徳の授業の推進、子どもに寄り添った日常の指導の充実	B
	〈体〉運動の日常化の推進、肥満の解消	B
課題等	○　全国学力学習状況調査において、国語科、算数科においても平均を上回っているが、今後は日常生活と関わらせキャリア教育の観点から必要感を持たせた学習をさせていく必要がある。 ○　主体的に課題に取り組む子もいるが、対話的で深い学びの授業の質を高める必要がある。（教師、保護者評価６２％） ○　主体的に家庭学習に取り組むことができていない。（保護者評価６２％） ○　家庭での読書の習慣が身に付いている学年とそうでない学年の温度差が見られ、引き続き本の楽しさ、読む習慣を身につけさせていく必要がある。 （児童評価６８％、保護者評価４４％）	

	○　より一層、「他人を思いやる心」が醸成されるように取り組んでいく必要がある。 ○　学校の中での挨拶は良くなってきつつあるが、登下校中や家庭での挨拶の習慣化を力を入れていく必要がある。 ○　運動に対する意欲や関心を高めるため、体育専門の外部講師や体育専門アドバイザーの活用を図った。新体力テストでは、立幅跳びや５０ｍ走等の瞬発力、敏捷性、筋持久力が劣っており、次年度は重点的に継続した取組を行っていく。 ○　肥満指導については、さらに担任、家庭と連携を深めながら、個別的な働きかけの工夫や継続した取組をしていく必要がある。

（２）地域が学校を応援、学校が地域に貢献（本物の地域との連携強化）

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	□　児童、保護者、地域へ積極的な関わり、信頼関係づくりの強化	B
実践事項	○　地域の特色を生かした教育活動（体験）の推進	B
	○　学校評価の推進	B
	○　ＨＰ、学校だより、学年だよりによる積極的な情報発信	B
課題等	○　桑折町ボランティア活動支援センターコーディネーター亀岡先生と連絡を密にしながら、地域人材の積極的活用を図ってきた。今後一層、活用時期、有効的な地域素材の活用の仕方の工夫に努める必要がある。 ○　地域の文化遺産の学習の推進、地域の行事や祭り（諏訪神社例大祭等）への児童の参加を一層促していく必要がある。 ○　学校評価について、保護者への説明責任を果たす必要がある。（保護者評価） ○　学校評議員会の運営の工夫や評価の観点の明確化により、学校関係者評価を充実し教育活動に多角的なの意見を取り入れ改善を図っていく必要がある。 ○　日々のＨＰ、学校だより、学年だより等で情報発信に努め、信頼関係づくりに努めたたが、タイムリーという点でやや不十分であった。今後、各学年の教育活動の様子が一層理解して頂けるＨＰ、学校だより、学年だより等を充実していく。	

（３）教育公務員としての服務の厳正・不祥事根絶（本物の安心・安全）

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	□　感度を高め、共有化を図る危機管理意識の徹底	B
実践事項	○　日常的な啓発、服務倫理委員会の活性化	B
	○　教職員一人一人の日々の取組の評価と継続的な指導	B
課題等	○　校内服務倫理委員会の定期的な開催や不祥事防止担当等輪番制による提言や外部者（ＰＴＡ会長）による会の運営を工夫した。服務倫理委員会の時間の確保、計画的な運営、外部者の会への参加回数には課題が残った。 ○　多忙化解消に向け、教職員の勤務時間の管理、働き方改革宣言として毎週水曜日１８時退勤としたが、教職員一人一人の意識改革までは至っていない。 ○　教職員一人一人との個別の面談の機会を多くとり、教職員の日々の取組を称賛し、強みやよさに気づかせてきた。尚一層、教職員の自己目標達成へ向けた意欲やステージに応じた資質能力の向上を図っていく必要がある。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする。
A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和２年２月２０日
学校名　　桑折町立桑折町立睦合小学校
職氏名　　校　長　　旗野　宣久

令和元年度学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

(1) 安全・安心，信頼される学校づくりの推進。
(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに，その活用を図る学習活動の推進。
(3) 新学習指導要領を踏まえた指導充実。
(4) 共生の心を育み「いじめのない学校」をめざす。(特別教科「道徳科」指導の充実)
(5) 健やかな心身を育てる健康教育，心を育てる道徳教育と人間尊重の精神に立つ人権教育の推進
(6) 読書指導の充実
(7) 特別支援教育の充実
(8) 指導力を培う校内研究・研修充実

２　学校経営総合評価

(1)「向上心を持ち，実践力のある児童の育成」の教育目標と児童像の具現に向け，教職員が一丸となり教育活動を進めてきた。方針第一にある「安全・安心，そして信頼される学校であること」は，家庭や地域の信頼があってこそ豊かな教育活動が成り立つことを全職員で常に確認してきた。学校のホームページや学校だよりで学校の様子の紹介に努め，開かれた学校を目指してきた。

　また，台風１９号の影響により避難勧告が出されたり，学区内で一部土砂崩れが発生したりしたが，地域の方々と情報を共有し，通学路を一部変更するなどして児童の安全確保に努めた。

(2)「学びのスタンダード」推進事業，町事業，現職教育の相互関連を密にして取り組むことができた。現職教育では，共同歩調で研究主題に沿って実践を進め，成果を共有し，教員が自らの授業力向上に努める意識が向上した。授業力向上には，授業研究の機会をはじめ，相互の授業を見合う必要性を感じている。児童も進んで学ぶ姿勢が身に付き，確実に変容してきている。

　さらに，基礎的・基本的内容の理解と定着を目指し，個別指導やくり返し学習を継続している。それが全国・県学力調査でも成果として現れている。児童アンケートでも「分かるように教えてくれる。」「友達の考えで自分も分かった。」と多くの児童が答えた。

(3)睦み合う学校「いじめのない学校」をめざし，調査や日常観察を重視し，少人数の良さを活かした指導を徹底してきた。些細なことでもチームで情報交換して対応することができた。このような迅速な早期対応が事案の未然防止につながっている。今後も「全校生を，全職員で」見守る体制を継続させていく。

(4)　体力向上の「１校１実践」は，本校の伝統の一つとして，授業や学校行事との関連から，体力を向上させてきた。町の水泳大会や陸上競技大会で上位入賞を果たす児童が多く，その姿を見ている下級生にも運動を好む児童が増えている。今後の課題は「走の力」であり，継続的な取組を進めることが肝要である。

３　学校経営課題の実施状況

(1)　「進んで学ぶ子ども」の育成（学力の向上）

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	①　「主体的，対話的で深い学び」をめざす授業を実践する。	A
	②　自ら学ぶ学習習慣を育成する。	A
	③　読書習慣を育成する。	B
実践事項	①　ア　「わかった，できた」を実感できる授業実践	A
	イ　学び方を身につけ，活用・表現力を高める授業づくり	B
	ウ　基礎基本の定着を図る指導の工夫（学びタイム）	A
	②　ア　家庭と連携した家庭学習の推進（家庭学習ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ）	A
	イ　自主学習の工夫（ノート作りと自主学習ノート展示会）	A
	③　ア　学年必読書の設定と読書奨励	B
	イ　読書活動の充実	A
	ウ　保護者との連携による家読の推進	B
課題等	①　ウ　反復学習（学びタイム）の実践が進み児童に定着してきている。重点期間を設けるなどしてマンネリを防止しながら継続していきたい。	

	② イ　家庭学習のノート展示は良い刺激となっている。家庭との連携を図りながら，次の段階として質的な向上を目指したい。 ③ ア　司書来校により環境が整備された。司書やボランティアによる読み聞かせも定着している。家庭毎の差がある家読の充実を図りたい。

(2)「思いやりのある子どもの育成」（豊かな人間関係づくり）

項　目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	① 望ましい集団を作る。	A
	② 自他の命を大切にする豊かな心を育む。	B
	③ 体験活動・自主的な活動の充実。	A
実践事項	① ア　互いのよさを認め合う学級づくり	A
	イ　自分の思いや願いを表現する力の育成	B
	ウ　相手を思いやる心の育成	A
	② ア　「道徳科」の充実	B
	イ　自他のよさを認め合う指導の充実	B
	ウ　自己肯定感・存在感の醸成	A
	③ ア　体験活動の充実	A
	イ　係活動，委員会活動の充実	B
	ウ　縦割活動（異学年交流）の充実	A
課題等	① イ　教科や単元を見通して言語活動の適切な位置づけをするとともに，話し方のスキルを発達段階に応じて身につけさせていくようにする。 ② ア　道徳科の評価について，趣旨理解と改善に努めたが，今後も継続していきたい。 ③ ア　体験活動や出前授業を多く実施した。効果を考慮し次年度も実施したい。	

(3)「元気でねばり強い子どもの育成」（健やかな心と体の育成）

項　目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	① 基本的生活習慣を育成する。	A
	② 体力の向上を図る。	A
	③ 健康・安全教育の充実。	B
実践事項	① ア　心身の健康を保つ能力の育成（早寝早起き朝ごはん）	A
	② ア「体力向上１校１実践」	A
	イ　授業充実（運動身体プログラムの実践）	B
	③ ア　専門家による食育授業と健康管理を推進する。	A
	イ　健康，安全，放射線教育の充実	B
課題等	① ア　養護教諭の積極的な関わりで，虫歯治癒率が向上した。啓発を継続したい。 ③ ア　栄養士の協力により，食育指導が充実した。今後，肥満傾向の児童もいることから，養護教諭・家庭と連携した取り組みを充実させたい。	

(3)「教職員の管理」（信頼される学校づくり・不祥事防止）

項　目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	① 授業力向上の研修充実・実践	A
	② 適切な情報発信	B
	③ 不祥事防止の徹底	B
実践事項	① 共通実践の確認と同僚性の発揮	A
	② ホームページや学校・学年だよりの発行	B
	③ 服務倫理委員会の機能と服務行動計画の適宜確認	A
課題等	① 町の方針と本校の実践を関連づけ，授業研究を中心とした実践を継続したい。 ② 学校だよりの発行，ホームページの更新を定期的に行っていく。 ③ 高い倫理観を共有し，不祥事の根絶に努めていく。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。
B（3）：おおむね，目標を達成している。
C（2）：やや目標の達成には至っていない。
D（1）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和２年１月２０日

学校名　　桑折町立半田醸芳小学校

職氏名　　校長　宍戸　広子

令和元年度　学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

本校の教育は，福島県・桑折町の教育基本方針に基づき，歴史と伝統を誇る半田醸芳小学校の根底にある「醸芳」の精神や「半田銀山」にまつわる勤労意欲，不屈の精神，人間尊重の教育を基調として，「半田プライドを胸に　ふるさとを愛し　高い志と強い意志をもち　地域と共に学ぶ半田っ子」の育成をめざす。

そのために，以下のことを推進する。

（１）「桑折町教育委員会重点」に基づいて，重点目標を掲げその実現を図る。

（２）教育目標達成のための３本の柱（知力・心力・健康体力）を軸とした確かな実践を推進する。

（３）目指す子供の育成のため，全教職員の創意工夫による特色ある教育活動を展開する。

（４）伝統ある地域の教育力を生かし，学校・家庭・地域が一体となった教育実践を積み上げる。

（５）新学習指導要領を基に，教師の指導力・教師力の向上に向けた，研修会の充実と自己研修を積極的に推進する。

（６）安心・安全，子供が大好きな学校環境・学級経営を推進する。

２　学校経営総合評価

（１）学校経営・運営ビジョンの具現に向け，毎月の職員会議示達でビジョンの具体的な取組みを明確に示し，教職員一人一人に学校経営参画意識をもたせ，学校課題の解決に向けて取り組んだ。

今年度も地域学習「ふるさと学」を学びの中心にすえ，地域の高い教育力により，半田醸芳小ならではの特色ある教育活動を展開することができた。町無形文化財「半田銀山祇園ばやし」の継承，産が沢のほたる学習，学校田稲作栽培，半田銀山そば栽培とそばうち体験，半田銀山を中心とした歴史学習など密度の濃い学習を行うことができ，郷土半田を愛する心の育成に努め，児童の社会性を育てることができた。

三年次となる福島県教育委員会の「学びのスタンダード推進事業」の協力校として，町内の幼小中学校，及び家庭・地域と連携を深めた。校内研修とタイアップし，一人一授業はもちろんのこと，互見授業も行い，教師の授業力アップを図った。次年度も「桑折町の１５歳のめざす姿」を保護者と共有する機会を多くし，学校と保護者・地域の両輪で児童を育てる意識をもっと高めていきたい。

（２）教育目標達成のための３本の柱（知力・心力・健康体力）を児童の目線に立った指導とその成果を捉え，教育課程や諸行事等の反省を生かしながら，生き生きと学校生活を送る児童の育成と教育活動に取り組み，「明日も学校に来たい」「明日も勤務したい」「通わせてよかった」「おらが半田の学校」と思える学校づくりに取り組んだ。

日常生活，定期の教育相談，ＱＵテストによる児童の実態の的確な把握と問題の早期発見，早期対応，早期解決，生徒指導協議会での教職員の共通理解を図りながらいじめ，不登校出現ゼロをめざしたが，昨年度から不登校の韓国からの転入生６年生男子１名が継続し，新たに６年生男子が不登校となった。韓国からの児童は，SSW につなぎ，ＮＰＯ法人のビーンズの家庭教師による学習を行っている。また，担任が週１回家庭訪問し，状況を把握しながら少しずつ登校刺激を与えている。３学期は前向きな気持ちになり，始業式と翌日は登校したが，次週からまた欠席している。新たな出現の６年生児童は昼夜逆転しており，生活習慣の乱れが登校の妨げになっているので，改善を図ることが先決である。教頭や担任が迎えに行くと登校できるときもあるため，保護者と連携を図りながら，町ＳＣや SSW につなぎアドバイスを受け，よりよい解決に向けて努力したい。

（３）教職員人事評価制度を活用し，教職員が教育目標の具現化に主体的に参画することにより，責任感や職務への意欲が高め，能力開発に努めた。また，教職員がよりいっそう高い能力を獲得し，高い指導力を身に付けることができるように，教職員の能力や勤務の状況を把握し，現職研修や，定期の研究協議会，研修会等を充実させてきた。指導力の個人差は小さくなりつつある。高い指導力をもつ教員と同じレベルになるように，互見授業等で組織の活性化を図った。

不祥事を自分のことと置き換えてとらえることができるように，ねらいを絞った具体的な実践事例と内容等の研修を，それぞれの担当が中心になって提案型の服務倫理委員会を実施した。今年度は法に触れるほどのことではなかったが，ヒヤリとする事案は１件だけあった。次年度も教職員一人一人の倫理観を高め，不祥事ゼロを達成し，半田醸芳小学校には不祥事は無縁の事であることを確認していきたい。

（４）今年度も教育活動から半田醸芳小学校の強みと弱みを教職員とともに洗い出した。まじめで素直，とても落ち着いている児童が多い。また，受け身，指示待ちが少し改善された。思いやりの心をもって友達に接することや，あたたかい言葉かけなどが弱みとして出された。

教職員においては，「チーム半田」として意思疎通，共通理解が図られ，組織としては同じベクトルで一丸となって教育活動を行った。

保護者・地域においては，家庭力や地域の教育力が高く，子供を大切に育てている地域・家庭で，協力的である。地域は半田醸芳小学校のオーナーであるという認識を新たにした。

３　学校経営課題の実施状況

（１）学校経営全般について

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	１　教師と児童が半田プライドをもち，「これが私たちの学校の子供の姿」「これが私たちの学校の子供の力」と言える学校経営の推進 【学校評価「教育目標」自己評価３.６以上】 ２「桑折町の１５歳のめざす姿」の実践の具体化。 ３　地域や保護者との「信頼」を基盤に学校経営の積極的な発信と保護者・地域連携の強化 【学校評価保護者アンケート評価４.０以上】	A
実践事項	○　学校経営・運営ビジョンの具現化を図る。毎月の職員会議示達でビジョンの具体的な取組みを明確に示し，周知徹底する。	B
	○　ＯＪＴを活用「ワン・アクション」「直後案」により「チーム半田」の組織力を向上させる。	A
	○　体力向上，運動能力落ち込み領域の改善に向けて，桑折町体力向上事業「一学級一実践」をワンペーパーにまとめ，年間を通して確実に実践させる。	B
	○　学校だよりを週に２回発行，ホームページ blog を最低１日１回アップし，情報公開，発信する。	A
	○　教師・児童の地域行事への積極的な参加。	A
課題等	○　第２学期の教育目標自己評価は考える子（３.４）思いやりのある子（３.５）たくましい子（３.４）で総合評価３.４となり，目標の３.６までわずかに届かなかった。原因としては，学校経営・運営ビジョンの取組に対する教師の意識の格差があり，意識が低い職員の評価は低くなっていることがあげられる。 ○　学校経営の積極的な発信と保護者・地域連携の強化の学校評価保護者アンケート評価４.０となり，目標を達成した。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

（２）学校教育の管理について

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	１　学力向上に向け，児童一人一人の学びの実現と主体的に学ぶ態度の育成【学校評価「考える子」自己評価　３．５以上】 ２　教師の指導力向上のための校内研修の活性化 ３　ふるさとの恩恵を知り，家族や地域の見守りで，今幸せに生きていることを実感させ，半田の教育資源を活用し，学ぶことと社会とのつながりを意識した教育の実践 ４　「いじめ見逃しゼロ」，「新たな不登校傾向出現ゼロ」 ５　安心・安全・美しい学校環境	A
実践事項	○　児童の課題意識と解決意欲を大切にした問題解決型の授業の実践を徹底させる。	B
	○　家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。 ・ノートコンクール	A
	○「徹底反復練習」の計算・漢字のつまずきのフォローアップ指導を取り入れ効果的に活用する。	B
	○　校内研修の講師招聘による一人一授業の実践と授業研究翌日の「互見授業」の設定と，良い取組を全学年に波及させる。	A
	○　半田醸芳ならではの体験活動を実践する。 ・伝承文化継承・ふるさと学（ほたる学習・だんごさし・地域歴史）・環境学習（緑の少年団・学校田・そば栽培とそば打ち体験・森林学習）	A
	○　教育相談，生徒指導協議会で教職員の共通理解，ＱＵテストによる児童実態の的確な把握と問題の早期発見・早期対応，早期解決を行う。	B
	○　学校施設の日常，定期点検と，子供の目線に立った安全の確保と校外での事故防止に取り組む。 ・児童との「合同安全点検」（学期一回） ・地域「ながら見守り隊・わんわん見守り隊」との連携連絡強化	A
	○　防災教育の充実を図る。 ・ＤＩＧ（災害図上訓練）に基づいた第二次避難場所への避難訓練（徒歩による実地訓練）	A
課題等	○　第２学期の教育目標自己評価は考える子は３.４であった。目標はわずかに到達できなかったが，教師主導型教師のクラスには，校長，教頭，教務主任が毎日，３ヶ月間継続して授業に入り，徹底的に授業を指導，支援することで，大幅に改善された。児童の学ぶ姿勢にも変化が見られた。教師と児童の学びに対する意識の向上が図られた。 ○　町統一取組「徹底反復練習」は陰山先生のＤＶＤを活用し，どの学年も同じレベルで指導ができるようになってきた。チェックテストからは子供たちの大きな伸びが見られ意欲が高まったがつまずきの指導時間を生み出すことは難しかった。 ○　半田ならではの特色ある教育活動においては，地域の教育力を活かしながら，「ふるさと学」のねらいを明確にして取り組ませた結果，成果をあげることができた。学校田の他に６年生が半田銀山そばの栽培や，そば打ち体験を行った。本物体験により，よりいっそうふるさと半田への思いが強まった。 ○　いじめは３年生の１件を認知した。早期対応を行い，指導後３ヶ月経ったので，解決したと言える状況である。 ○　安全・安心な学校を目指し「児童・教師合同安全点検」の学期１回の実施，昨年度の教師研修ＤＩＧ(図上災害訓練)で作成した二次避難所までの経路を，避難訓練の実地訓練（徒歩）を行い，ルートの確認や課題を明確にすることができた。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

（３）教職員の指導・監督，その他について

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価 達成状況
重点事項	１　教職員一人一人の危機管理意識の高揚と事故・不祥事の絶無 ２　全職員の能力や勤務の状況を把握と多忙化解消のための改善策の提案，勤労意欲の向上	A
実践事項	○　教職員人事評価制度面談を有効活用し，職員とのあたたかい人間関係を築き，日頃の声かけと話に丁寧に耳を傾け，風通しの良い，何でも話せる職場をつくる。	A
	○　心に響く服務倫理委員会を開催する。 ・担当者による話題提案型委員会の開催 ・外部講師を招いての服務倫理委員会開催	B
	○　教職員一人一人の良さや特徴を見極め，人事評価整　理シートに行事ごと，特記事項などを記録にとどめ「認め，励まし，自信」を基本に，人事評価を有効活用し　勤労意欲を高揚させる。	A
課題等	○　人事評価制度を活用し，「認め，励まし，自信」の３点で職員とのあたたかい人間関係を構築した。 ○　トップダウンにならぬよう，担当者からの話題提案型の服務倫理委員会を継続したが，外部講師招聘した会を開けていない。今後ぜひ企画したい。 ○　多忙化解消を図るため，日課表の改訂，学校行事の実施方法の改善を図ってきた。ノー残業デーで職員が一斉に帰る日は定着した。また，パソコンのソフトにより勤務時間を管理するようにしてからは，大幅に勤務時間が多い職員は減少した。 ○　地域に開かれた学校づくりにおいては，学校だよりを不定期に発行し，タイムリーな情報提供に努めた結果，保護者アンケートの「学校の様子を伝えているか」「保護者・地域の願いに応えているか」が，回答者２名を除き他は「そう思う・だいたい思う」の評価だった。ホームページアクセス数も今年度中に２０万件を超えることができそうである。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする
A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和２年２月１日

学校名　　桑折町立伊達崎小学校
職氏名　　校　長　　半澤　正保

令和元年度学校経営評価報告書

１　学校経営の方針

（１）　「知徳体」の調和のとれた豊かな人間性と実践力のある子どもを育てるため，組織を生かした学校経営を推進する。特に、３つの本気（本気で学ぶ　本気で読む　本気で走る）を児童・教職員・保護者の三者が共有し重点的に取り組む。
（２）　教職員の職務遂行能力の向上を図る。
（３）　「安全・安心な学校づくり」の具現化を通して，「生き抜く力」を育む。
（４）　「教師の資質向上と不祥事を防止」するために，実態に応じた指導を推進する。

２　学校経営総合評価

（１）　「知徳体」の調和のとれた豊かな人間性と実践力のある子どもを育てるため

教職員の３つの本気の共通実践を通して「思考力・表現力・読解力」の育成に努めてきた。特に，地域人材や地域素材を生かした体験活動を基盤として取り組み，子どもの姿から着実に力が高まっていることが諸検査を通して確認できた。なお、６年生２０名の全国学テでは秋田県平均を遙かに上回る結果であった。

学びの土台づくりのため「音読・漢字・百ます計算の徹底反復」を朝学に位置づけ実践を積み重ねてきた。結果，児童の集中力が高まり着実に基礎・基本の定着を図ることができた。

教育活動全体を通して，「自己肯定感の向上」を目指してきた。子どもの頑張りや良さを見取り賞賛することや，自主性や主体性を育てるために児童会活動や各種行事で意図した児童への働きかけを全教員が同一歩調で取り組み，各種行事での子どもの姿に成長の様子を伺うことができた。また，ふれあいタイムや清掃活動などの各種活動を意図的に縦割り班で行い，上級生が下級生を思いやり，下級生が上級生を慕う姿が見られ，重点事項である「親切・思いやり」といった道徳心の向上が見られた。

体力向上については，体育専科教員を活用した授業やブロック合同体育を実施したり，あぶくまマラソンの推進や芝生の校庭を活用した多様なスポーツに触れる機会を多くすることで，運動が習慣化され持久力の向上がみられた。なお、業間、昼休み若手講師が一緒に走る姿があり児童への内発的な意欲を喚起することができていた。

（２）　教職員の職務遂行能力の向上

「授業第一」と考え「桑折町授業の改善・充実の視点」と県施策「授業スタンダード」をもとに，話し合いを重ね本校の研究の方向性について全教員の共通理解のもと授業実践することができた。特に，個々の教師が自らの授業力を高めたい視点を明らかにし，一人一研究授業等（算数科に限定）を行えたことは，自身の授業力向上だけでなく，小学校６年間の算数科の学びの系統性を確認し，「つなぐ」ことを意識した授業実践となった。今後は，日々の授業の充実を図っていきたい。

生徒指導力に関しては，児童理解のために多面的・多角的に「児童一人一人をみる」ために定期的ないじめ調査アンケートやＳＳＷを招聘したいじめ防止委員会の開催，Ｑ－Ｕテストの実施と分析，校内の生徒指導委員会や就学指導委員会の開催による情報交換を定期的に行い，問題点を全職員で共有し組織的に対応することで，教職員の生徒指導観が改善されてきた。

学級経営力については，「教師の笑顔，愛と信頼」を基盤として，各学年の発達段階や児童一人ひとりの特性に応じた指導助言を心がけてきた。その中で，特に６年生は大きな成長を感じることができた。学習習慣や生活習慣については，学校独自で行っている「伊達崎小学びの強化週間」と関連させながら取り組んできた。保護者に対しても，ホームページ，懇談会等で学校の取り組みに対する理解と啓発活動を行ってきた。今後，特別な支援が必要な児童に対しての指導のあり方が課題となった。

（３）　施設設備の定期点検を実施し，改善点を町教委に報告し，町教委ですぐ対応していただいた。実際に即した避難訓練，防犯訓練等関係機関の協力を得て工夫改善しながら行った。また，子どもの事故防止のため時期に応じた指導を行うとともに緊急の不審者情報対応が確認できた。
（４）　職員会議等で各種通知や新聞報道に即したチェックリストを活用してきた。また，各学期末ごとに不祥事根絶のための行動計画に基づくアンケートを実施して，分析と対応を講じたり，教職員との個別面談時に自己を客観的に分析する時間を取り，不祥事根絶に向けて取り組んできた。白石方面や福島市内方面から遠距離通勤をしている教職員が多く，悪天候時や降雪時の注意喚起を適宜に行ってきた。
（５）　保護者・地域への情報発信について

ホームページ１日平均約 3000 件アクセスがあり，県内学校のトップクラスの閲覧回数となった。年間の閲覧者数が約５０万件を超え総アクセス数２００万を超えようとしている。昨年の約５倍の閲覧数となっている。毎日更新しているホームページを中心に，学校の教育活動の見える化により保護者との信頼関係を強化することができた。

3　学校経営課題の実施状況

（1）「知徳体」の調和のとれた豊かな人間性と実践力のある子どもを育てるために

項　　目	主な実践事項	評　価
重点事項	㊙　確かな学びを実現する。　「本気で学ぶ」 ㊙　豊かな心を育む。　「本気で読む」 ㊙　健やかな体を育む。　「本気で走る」	A A B
実践事項	①　教育活動全体を通して「思考力・表現力・読解力」を育成する。 ②　個に応じた学習指導を推進する。 ③　地域外部講師の積極的活用を通して，体験的活動の充実を図る。 ④　基礎・基本の確実な定着を図る。 ⑤　読解力向上のため読書活動・家読を推進する。	A
	①　道徳の時間を要とし，各教科や行事と関連を図り教育活動全体を通して道徳性を培う。 ②　道徳の授業時数の確保と指導法の工夫改善を図る。 ③　「礼儀」「親切・思いやり」に重点を置き，教育活動全体を通して育成する。 ④　筆者の心を読み取る読書活動を積み重ね、心を豊かにしていく。 ⑤　郷土愛・愛校心を育むため，地域の教育力を生かすとともに地域の素材を積極的に活用する。 ⑥　開かれた道徳の授業づくりに取り組む。	A
	①　自己の体力を知る。(体力テスト年２回実施，自分手帳の利用) ②　運動の日常化を図る。(年間を通してのあぶくまマラソンの励行，芝生を利用した多様な遊びの工夫) ③　合同体育の実施と体育専科教師と担任によるＴＴ授業を推進する。 ④　体育の授業づくりと運動の日常化を図る。	B
	①　「学びのスタンダード推進事業」との連携を図る。 ②　教員の各研修会や授業研究会への積極的参加を促す。 ③　「読み・書き・計算の徹底反復」活動を推進する。	B
課　題　等	・　読み聞かせボランティアにより，読書への意欲を高めようと努めてきた。また，月１回配置された学校司書により図書室内が充実してきた。23 日が桑折町家読の日であることをホームページを通してＰＴＡに読書活動を啓蒙してきた。 　今年度は，、週 3 回 20 分の読書タイムを日課表に読書の時間を位置づけることにより、子どもたちの読書量が飛躍的に向上した。今後も読書の時間を確保し、読書習慣を確立していく必要がある。 ・　通常学級に特別な支援を要する子どもが多く，特別支援協力員が配置されているが集中した授業が展開できないこともあり，一人ひとりを大切にした指導ができる環境を整えていくことができるよう改善していかなければならない。特別支援学級の新設まで２年間経過したが、令和２年度より新設が決定しており、大きく改善していくことを期待している。 ・　運動の日常化を図るため，あぶくまマラソンの実施により，走力・持久力ともに高めることができるのであるが，その力を年間を通じて持続させることができるよう工夫していく必要がある。	

（2）　教職員の職務遂行能力の向上を図るために

項　　目	主な実践事項	評　価
重点事項	①　授業力向上	A
	②　生徒指導力向上	A
	③　学級経営力向上	B
実践事項	①　現職教育の中で「授業改善７つの視点」「学びのスタンダード」を基盤に，本校としての取り組む視点を焦点化・明確化を図りながら　授業研究会を実施する。 ②　管理職による日々の授業参観及び指導助言を行う。	A
	①　生徒指導対応について，管理職がリーダーシップをとって教職員に　指導・助言する。 ②　生徒指導の機能を生かした，授業や学級経営ができるように，指導と助言を行う。(Ｑ－Ｕテストや各種調査の活用)	B

	① 学級経営については「教師の笑顔，愛と信頼」を基盤として，各学年の発達段階や児童一人一人の個に応じた指導助言を心がける。 ② 学習習慣や生活習慣について，学校独自で行っている「伊達崎小学びの強化週間」アンケートをもとにＰＤＣＡサイクルを活用して，個別指導と学級経営に役立てる。 ③ 保護者との連携を深めるため，連絡帳や学級通信，懇談会等でこまめな連絡を行う。	B
課　題　等	・　日々の授業の質的改善のために１日１回以上の教室訪問等を行っているが，指導助言については今後とも工夫していかなければならない。なお，授業の学習内容とその活動のようすについては，全学年ホームページに掲載し，保護者・地域・教職員への学校教育のありのままの姿を見える化推進してきた。授業者にとっても様々な視点から教育活動を振り返る素材としていく。 ・　特別な支援を要する児童の保護者と定期的に情報交換会を開催し，徐々にではあるが本音で話せる信頼関係を構築し、新設されれば入級することへの同意をいただいた。 　これからも，特別支援教育充実のためＳＣ，ＳＳＷとの　連携を強化し適切に対応できるように研修を深める必要がある。 ・　学級経営については，各種アンケートやＱ－Ｕテスト結果の分析を生かし，学級経営の一人ひとりに寄り添ったものとなるよう改善していく必要がある。	

（３）　「安全で安心な学校づくり」の具現化を通して，「生き抜く力」を育むために

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価
重点事項	①　教職員の危機管理意識の高揚	B
	②　児童の事故防止	A
	③　危険予知と回避能力の向上を図る	A
実践事項	①　会議や研修会等でリスクマネジメント，クライシスマネジメントについて教職員の意識の高揚を図る。	B
	①　「報告・連絡・相談」がスムーズに行われるよう職員間との信頼関係を構築する。 ②　定例の校内生徒指導協議会（いじめ対策委員会，不登校対策委員会，校内適性就学委員会）を開催し，共通理解や共通指導による迅速な対　応に心がける。(早期発見・早期対応) ③　「ホームページ」や「学年だより」等で安全教育について広く家庭に啓発する。 ④　熊出没や不審者情報など，町教委や近隣学校と連携し，速やかに保護者への連絡と対応ができるようにする。	A
	①　関係機関と連携した避難訓練・防犯教室等による，危険予知と回避能力の育成を図る。	A
課　題　等	・　定例のいじめ防止対策委員会にＳＳＷを招聘して開催したり，特別支援教育充実のため，ケース会議の開催，ＳＣや通級指導教諭と連携を密に行い，対応の意識共有を図ってきたが，現在も日々の授業や学校生活において特別な支援を必要とする児童への対応に追われてきたが、次年度，特別支援学級が設置されることが決定した。新設の準備を滞りなく進めていく必要がある。 ・　多くの目で確認し「気付いたことは言葉にする」ことを教職員に周知し，「報告・連絡・相談」の体制は確立されているので，生徒指導上の小さな問題でも早急に初期対応する体制に強化していきたい。 ・　緊急時の連絡方法について，「ホームページ」や「学校だより」で随時，保護者に知らせる体制ができている。今後，豪雪時の通学路を確保するための除雪について，ＰＴＡと協議していく必要がある。	

（４）　「教師の資質向上と不祥事を防止」するために

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　　価
重点事項	①　「不祥事根絶のための行動計画」を基にした取り組み	B
	②　教職員の不祥事防止のための工夫・改善 （面談時の自己の客観視，アンケート）	B
	③　体罰，わいせつ，セクハラ，交通事故防止に重点を置いた取り組み	B
実践事項	①　「不祥事根絶のための行動計画」をもとに，不祥事根絶に向けて取り組む。特に，期首面談や中間面談での自己の客観視の場を設け自分を見つめさせるとともに学期ごとに自己評価アンケートを実施する。その結果から，課題を把握し改善策を講じる。 ②　教頭と連携し，普段から教職員とのコミュニケーションを密にし，風	B

	通しのよい職場作りを行い，職員の心身の状況を把握する。 ③　事例をもとにした服務理倫理委員会を開催する。	
課　題　等	・　「不祥事根絶のための行動計画」をもとに職員会議等で注意喚起している。また，不祥事防止のためのチェックリストの活用や新聞記事の配付，期首中間面談で一人一人に自己の行動を見つめ直す機会を設定してきた。更に，学期末に不祥事防止アンケートを実施して，課題を把握し課題を明らかにし不祥事根絶してきた。今後も，本校職員から不祥事を起こさないよう，一人ひとりの人生観と教育理念を明確にさせ風通しの良い職場づくりを行い厳正な指導を継続していく。 令和２年２月６日（木）会津若松市立勤教小学校教頭 岩澤保徳（前任校伊達崎小教頭として２年間勤務）の逮捕事案が発生した。本校保護者・児童・教職員ともに驚くとともに、教職員に対する信頼が大きく揺らぐこととなった。保護者・児童へ一人ひとりに寄り添い心のケアーに努めるとともに、伊達崎小の信頼回復のため、地道に教育活動を積み重ねていかなければならない。	

〔別紙１〕

【校長学校経営評価】

令和２年2月21日

学校名　　桑折町立醸芳中学校
職氏名　　校長　大　木　　修

令和元年度学校経営評価報告書

１　学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

(1) 自立　～　自ら学び，考え判断、行動し、自分を高める生徒（知）

＜重点事項＞

①　生徒が互いに高め合う授業をします。　②　学力を定着・向上させます。

③　読書活動を充実させます。　④　志の教育を系統的・計画的に進めます。

(2) 利他　～　思いやりをもち、協力して、他者や社会のためつくす生徒（徳）

①　規範意識を高め、自主性を育みます。　②　いじめ、不登校に丁寧に対応します。

③　心の悩みの解決に努めます。　④　地域との交流を深めます。

(3) 健康　～　命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒（体）

①　健やかな体づくりと体力向上を図ります。②　健全な生活習慣を形成します。

③　命を守る安全教育を推進します。

(4) 努力　～　何事にも真剣に取り組む生徒

２　学校経営総合評価

(1) 全国学力・学習状況調査において、中学３年生が、国語・数学・英語の全３教科で県及び全国平均を下回ってしまった。一方、福島県学力調査では、中学１，２年生の国語・数学の２教科で、すべて上まわることができた。現中学３年生は、小学生の時から学力に課題があり、改善すべく学習指導に取り組んできたが、中学校２年間で成果を出すことはできなかった。また、授業改善については福島県教育委員会発行の「授業スタンダード」をもとにして、教師の授業力向上、授業の改善を図り、「主体的、対話的で深い学び」が成立するよう努めてきた。家庭学習については、東北大学川島隆太教授の講演会をもとにして、メディアに関するスローガンを作成し、学習・生活習慣の改善を図った。

　水と命にかかわる作文コンクールざぶん賞で、ざぶん大賞、ざぶん環境賞、福島県の学校賞受賞を始め、人権作文コンクール、読書感想文コンクールなど、作文について生徒たちの大いなる活躍が見られた。

(2) 「高校調べ」「職場体験学習」「立志式」「高校体験入学」などをとおして、自分の将来について考え、目標をもって学習や諸活動に取り組む様子が見られる。

(3) 大きないじめ事案はなく、落ち着いた学校生活を保持している。また、醸中祭（学校祭）や生徒会総会などの行事で、生徒たちが積極的に運営にあたる姿も見られる。

(4) 全校で不登校生徒が９名いる。低学力、様々な家庭環境等より、自己肯定感が低下し、前向きに学習に取り組めなかったり、登校できなかったりする生徒が増えている。学級担任、学年担当が、丁寧に対応しているとはいえ，厳しい状況である。生徒及び家庭を支えるために，関係機関と連携しながら組織的に指導・対応していく必要がある。

(5) 全校的に部活動に積極的に取り組み、伊達支部中体連総合大会で、野球、卓球男子、バドミントン女子の優勝を始め、サッカー、剣道女子、テニス女子の準優勝など多くの種目で入賞を果たした。

(6) 保健上の課題であるむし歯の処置率が８４．１％となり、昨年度より１３．５％向上した。

3　学校経営課題の実施状況

(1) 自ら学び，考え判断、行動し、自分を高める生徒（授業改善と学力向上）

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	①　醸芳中学校の研究主題と「授業スタンダード」をもとにして，授業の改善を図る。 ②　学力向上に向けて、授業，朝自習での問題練習の機会を多くするとともに、家庭学習の充実を図る。 ③　読書活動の充実を図る。 ④　志の教育（キャリア教育）を系統的計画的に進める。	A B B B
実践事項	①　「見通しをもつ」「自分で考える」「集団で話し合う」「振り返る」の４つのステップを組み込んだ問題解決的な授業を行う。また、互見授業強調週間を設け、相互に授業を見合い、話し合うことにより、授業を改善する。 ②　テスト前の学習を充実させるとともに、活用力育成シートに積極的に取り組ませることにより、学力の定着を図る。 ③　読書週間を年２回設定し、読書に親しむ雰囲気を醸成する。 ④　「高校調べ」「職場体験学習」「立志式」「高校説明会」などにおいて、生徒の意識がつながるように働きかける。	A B B B B
課題等	授業において、学級全体で話し合う際のコーディネートと振り返りをどのように行うかが課題である。また、家庭学習の内容を充実させたい。	

(2) 思いやりをもち、協力して、他者や社会のためにつくす生徒（道徳性，社会性）

項　　目	主　な　実　践　事　項	評　価 達成状況
重点事項	①　規範意識を高め，落ち着いた学校生活をつくる。また、道徳の授業を要として心の教育を充実させる。 ②　いじめ，不登校に対すて組織的な対応をする。 ③　心の悩みの解決に努める。 ④　生徒会活動を活性化させ，学校生活を主体的に創る意識を高める。また、地域に貢献する場を設定する。	A B B B
実践事項	①　「静かな朝自習」「落ち着いた給食」「無言清掃」の取組を充実させる。また、道徳の授業を充実させるとともに，日常の生活指導，学校行事を通して思いやりの心を育てる。 ②　いじめ、不登校について、共通理解，早期発見、早期対応をチームで行う。 ③　ＱＵテストを活用し，生徒一人一人の学級内における様子について把握し適切な指導助言を行う。また、ＳＣ，ＳＳＷに生徒指導委員会に参加するようにして，生徒の動向を把握してもらうとともに，各担任による二者相談，ＳＣによる１年生の全員面談を実施する。 ④　委員会活動の活性化を図るとともに，学校行事（醸中祭等）に生徒が主体的に企画運営に携われるように指導する。「桑折町サマーボランティア」に積極的に参加する。	A B B B
課題等	全体的に生徒たちは、落ち着いており学習や部活動に取り組んでいる。前向きに行動できない生徒やうまくコミュニケーションをとれない生徒をどう指導していくかが課題である。	

(3) 命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒（体力向上と健康づくり）

項　　目	おもな実践事項	評　価 達成状況
重点事項	①　健康に関する知識を身につけ，自ら実践する力を育成する。ねらいを明確にした保健体育の授業を充実させる。	B
	②　講演会や個別指導をとおして、健全な生活習慣を身につけさせる。	B
	③　交通安全の意識を高め、交通事故の絶無を期する。	C
実践事項	①　個に応じてむし歯の治療を指導するとともに、薬物乱用防止教室，情報モラル教室などを開催し，健康を守り、事件事故に巻き込まれないよう，知識と意識を高める。また、保健体育の授業や部活動の充実を図り、体力の向上と積極性と自主性を養う。	B
	②　生活習慣にかかわる講演会および生活ノートによる個別指導をとおして、メディアの接触時間を決めて、計画的に生活できるよう指導する。	B
	③　交通安全教室等をとおして、自転車の安全な走行と歩行者も含めた飛び出し事故の絶無を図る。	C
課題等	自転車の乗り方等の交通安全指導及び肥満の解消に努める必要がある。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標を達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和２年　２月２０日

学校名　　桑折町立醸芳小学校

職氏名　　校長　高野　孝男

令和元年度学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、教職員人事評価システム制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	B
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びＰＴＡとの連携に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの４段階評価とする。

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね、目標の達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

※　記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和２年２月２０日
学校名　　桑折町立睦合小学校
職氏名　　校長　　旗野　宣久

令和元年度　学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は，学校経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し，教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は，めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し，児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A

4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」，「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき，幼・小・中並びに家庭との連携の下に，授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね，目標の達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

※　記入にあたって，形式・内容は同じ，評価のみ記入

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和２年１月２０日

学校名　　桑折町立桑折町立半田醸芳小学校

職氏名　　校長　宍戸　広子

令和２年度　学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は,学校経営上の課題を明確に示し,その遂行に当たって教職員を指導し,新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し,教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は,めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ,共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	A

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い,児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は,教職員の勤務状況を的確に把握するとともに,適正な服務監督に努め,児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し,児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」,「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等,事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに,「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は,「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき，幼・小・中並びに家庭との連携の下に，授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	A

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。
B（3）：おおむね，目標の達成している。
C（2）：やや目標の達成には至っていない。
D（1）：目標を達成していない。

※　記入にあたって，形式・内容は同じ，評価のみ記入

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和　２ 年　２月　１日

学校名　　桑折町立伊達崎小学校

職氏名　　校長　半　澤　正　保

令和元年度学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は，学校経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し，教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は，めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し，児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」，「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	A

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標の達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

※　記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

〔別紙２〕

【校長自己評価】

令和２年　２月２１日

学校名　　桑折町立醸芳中学校

職氏名　　校長　大木　修

令和元年度　学校経営自己評価票

１　校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は，学校経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し，教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし，知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は，めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し，地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は，児童生徒が夢や希望をもって学び，教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう，校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は，教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し，公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	A

２　学校運営及び児童生徒，学校施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳，特別活動の充実など，バランスのとれた学校運営に努め，教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は，児童生徒に確かな学力を身につけさせるため，教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ，特色ある学習活動を工夫し，「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は，児童生徒の健やかな成長に資するため，定期に児童生徒の健康状態を把握し，事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は，生徒指導上の諸問題について，日々積極的な生徒指導に努め，学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は，定期に学校施設内の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は，教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，児童生徒が教職員を信頼し，楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は，児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え，声なき声に敏感に対応できる体制を構築し，児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	校長は，教職員に対して常に「わかる授業」,「魅力ある授業」の創造に努めさせ，かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は，日頃，教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに,「労働安全衛生管理体制」を整え，教職員の労務管理の重要性を認識し，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	校長は，児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	B
2	校長は，町教育委員会の重点施策を理解し，校内体制を整え，組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は，町の青少年健全育成，学警連，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	A

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする

A（４）：十分に目標を達成している。
B（３）：おおむね，目標の達成している。
C（２）：やや目標の達成には至っていない。
D（１）：目標を達成していない。

※　記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

３　教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況

別紙１

【こども園長園経営評価】

令和２年２月２０日

職氏名　　園 長　齋藤　小百合

令和元年度　　こども園経営評価報告書

１　園経営の方針

（１）　「１５歳のめざす姿」の実現に向けて、保育所、幼稚園、小、中学校それぞれの教育内容や指導の在り方について共通理解を図り，小学校への円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。

（２）　『心豊かにたくましく生きる子ども』の育成のために、「丈夫な体をもつ子ども」、「友達とよく遊ぶ子ども」、「進んで活動する子ども」を目指す。

（３）　幼稚園生活の中で、事故なく安心して生活ができるような環境を提供する。

２　園経営総合評価

（１）　小･中学校の授業研究会への参加や小学校長を講師に招き、幼小連接保育の研究会を実施したことで、小学校との連続性のある指導法について学ぶことができた。また、同じテーマで各学年１回ずつ保育研究会を実施した。どの学年も同じ講師を招き、同じテーマで指導をいただいたことは、園または各学年、各担任の成果や課題が分かりやすく、一人一人の指導力アップにつながった。

（２）　体力、運動能力向上のため、１学年１実践の取組みや外部講師による運動遊びを実施するとともに、戸外での活動を意図的に多く取り入れたことで、園児たちが自ら積極的に体を動かす姿が多くみられた。

挨拶や集団生活の中の決まりや約束をきちんと守る幼児と難しい幼児がみられたが、繰り返し個別にかかわり、成果が見られた。

園児数が多いため、多くの友達とかかわって遊ぶことができ、刺激し合いながら意欲的に活動したり、頑張ろうとしたりする姿が多くみられた。年々、支援を要する園児が増えており個別の指導、支援が必要であるが園内で共通意識を持ち、家庭と連携しながら取り組めたことで、一人一人が生き生きと活動でき、成長の幅が広がった。

（３）　大きな事故や怪我なく１年間過ごすことができたが、通院する怪我は５件あった。職員一人一人が危機管理意識を持ち、様々な角度から安全管理体制を図る必要がある。また、園児が安心して過ごせる環境を提供するだけでなく、安全に過ごすための態度や習慣を身に付けられるように指導していきたい。

３　園経営重点事項の実施状況

（１）幼児の健康な心と体を育むために

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる教師のかかわりの工夫 ○　体の基礎をつくり運動機能を発達させる遊びの充実	A
実践事項	・　体を動かす遊びの継続的な取り組みの推進	A
	・　１学年１実践、１学級１実践	A
	・　外部講師による幼児への運動遊びの指導	A
	・　運動遊びを誘発する環境の構成	B
	・　身体諸機能の発達に応じた場の工夫	B
	・　意欲を引き出す教材や教具の提示	B
課題等	○　前年と比較し大きな差異はなくなってきているが、測定時の失格者が数名おり、個人差がみられる。特に体を支えたり、投げたりする力が男女共に劣っている結果が出ている。手や腕を使った遊びを普段の遊びの中で経験できるように工夫したい。 ○　戸外での遊びや園外保育などを多く取り入れ自ら進んで取り組みたくなる環境構成の工夫や教師の援助を継続したい。	

（2）豊かな心を育むために

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　絵本に興味や関心を持てるような場や提示の工夫	A
実践事項	・　経験や体験、または季節や時期に応じた絵本の提示の工夫	A
	・　１日１冊絵本を読む時間の確保	A
	・　絵本の部屋の充実	A
	・　家庭での読み聞かせの啓発（１日１冊）	B
課題等	○　町からの予算を活用して絵本を精選し絵本の部屋や各クラスの充実を図った。 ○　前年度より継続して毎週全家庭に幼稚園の絵本を持ち帰るようにしており、読み聞かせをする家庭が増えているが月によっては０冊の家庭もある状況である。絵本だよりを発行し、各職員が進める絵本を掲載するとともにアンケートをとり保護者の声を載せた。好評だったので、今後も継続していきたい。	

（3）いろいろな事に興味や関心を持たせるために。

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　いろいろな経験や活動の提示の工夫 ○　知的好奇心を満足させるような環境の工夫	B
実践事項	・　年齢に合った、様々な経験や活動の精選	A
	・　四季折々の自然事象や動植物や園内外の自然に触れさせる実体験の充実	A
	・　行事に伴う意味や由来の理解	A
	・　周囲の友達や環境などに関心を持たせるための言葉かけの工夫	B
	・　十分に遊びを楽しませる時間と場の確保	B
	・　絵本や図鑑などの活用	A
課題等	○　年齢に応じた興味や関心の持てる経験や活動を提示してきた。特に行事に参加することで季節を感じたり、行事の意味や由来を知ったりすることができた。 ○　行事が多いため、活動が細切れになりじっくりと遊びに取り組み深めていける時間が確保できない事もあった。行事のための活動ではなく、園児を主体とした普段の取り組みと行事が連動できるようにする必要がある。	

（4）新教育要領について理解を深めるために。

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　園内研修や保育研究会を計画的に取り入れ保育の質の向上を目指す	A
実践事項	・　園内研修日の新教育要領の読み合わせ	B
	・　月１回の園内研修及び年４回の外部講師を招いての園内研修	A
課題等	○　園内研修及び講師を招いての保育研究会を計画的に実施し、全職員一丸となって取組み保育の質の向上に努めることができた。また、年齢別保育研究会ではどの学年も同じ講師にご指導いただくことで各学年の課題が浮き彫りとなり、改善につながった。 ○　新教育要領の読み合わせを実施したが、今後も理解を深めていく必要がある。	

（5）言葉の教室を設立し計画的に指導

項　　目	主な実践事項	評　　価 達成状況
重点事項	○　言葉の教室の開設と計画的な指導	A
実践事項	・　開設に必要な研修参加と指導方法の習得	A
	・　必要な手続き書類や受付方法等の共通理解	A
	・　必要な教材準備と適切な環境構成	A
	・　言葉の教室にかかわる職員の業務分担調整	B
課題等	○　関わる職員が兼務であり、研究会に参加し、実践等を報告する必要があることから業務分担が過重にならないように努めているところであるが、今後継続して調整を図らなければならない。 ○　研修を受け、スムーズにこどももから引き継ぐことができた。また、関係機関との連携ができるように努めているので継続していきたい。	

評価は，A，B，C，Dの４段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。B(3)：おおむね，目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。D(1)：目標を達成していない。

別紙２

【園長自己評価】

令和２年２月１４日

桑折町立醸芳幼稚園

職氏名　園長　齋藤小百合

令和元年度　幼稚園経営自己評価票

１　園長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，教育目標の具現のため，園経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その理解に努めたか。	A
2	園長は，園経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，その取り組みを評価したか	B
3	園長は，めざす園経営の理念を保護者に具体的に示し，園経営上の課題の解決に当たったか。	B
4	園長は，園児が毎日を楽しく通園し，教職員が意欲をもって園経営に参画できるよう，「園風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	B
5	園長は，幼稚園教育の理念を深く理解し，園の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して園児の自己実現が図れるよう全力を挙げて園経営に努めたか。	B

２　教育（保育）及び園施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，教員（保育士）の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め，教育課程（保育）を確実に実施したか。	A
2	園長は，教職員ともども園児の特性や能力等の実態に応じ，特色ある保育活動を展開し，園児の遊びの充実に努めたか。	B
3	園長は，園児の健やかな成長に資するため，定期に園児の健康状態を把握し，事故ある時は教職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	園長は，園生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，園児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	園長は，定期に園内の施設の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，園児や教職員及び保護者・地域の園利用者の事故防止に努めたか。	A

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，園児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	園長は，教職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，園児が教職員を信頼し，楽しく充実した園生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	園長は，園経営に対する苦情や教職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し，園児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	園長は，日頃，教職員が園施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための園の体制を整えるように努めたか。	A
5	園長は，教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	園長は，園児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	園長は，町教育委員会の重点施策を理解し，その実現のために組織を挙げて努力したか。	B
3	園長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，園としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	B
4	園長は，町の青少年健全育成，ボランティアセンター，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	園長は，「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき，小・中及び家庭との連携推進に努めたか。	B

※　4－(5)の項目は、保育所において評価対象外

評価は，A，B，C,Dの４段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。
B(3)：おおむね，目標を達成している。
C(2)：やや目標の達成には至っていない。
D(1)：目標を達成していない。

別紙２

【所長自己評価】

令和　２年　２月５日

桑折町醸芳保育所

職氏名　所長　片平真由美

令和元年度　保育所経営自己評価票

１　所長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，保育目標の具現のため，所経営・運営ビジョンを教職員に周知し，その理解に努めたか。	A
2	所長は，所経営上の課題を明確に示し，その遂行に当たって教職員を指導し，その取り組みを評価したか	B
3	所長は，めざす所経営の理念を保護者に具体的に示し，所経営上の課題の解決に当たったか。	B
4	所長は，入所児が毎日を楽しく通所し，教職員が意欲をもって所経営に参画できるよう，「所風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	B
5	所長は，所保育の理念を深く理解し，所の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ，共に協力して所児の自己実現が図れるよう全力を挙げて所経営に努めたか。	B

２　保育及び所施設の管理

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，保育士等の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め，保育課程を確実に実施したか。	B
2	所長は，職員ともども入所児の特性や能力等の実態に応じ，特色ある保育活動を展開し，入所児の遊びの充実に努めたか。	A
3	所長は，入所児の健やかな成長に資するため，定期に入所児の健康状態を把握し，事故ある時は職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等，適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	所長は，所生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い，入所児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	所長は，定期に所内の施設の点検に努め，破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い，入所児や職員及び保護者・地域の所利用者の事故防止に努めたか。	A

３　教職員の指導・監督

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，教職員の勤務状況を的確に把握するとともに，適正な服務監督に努め，入所児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	所長は，職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し，絶えず教職員個々の指導力の向上に努め，入所児が職員を信頼し，楽しく充実した所生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	所長は，所経営に対する苦情や職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し，入所児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	所長は，日頃，職員が所施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合，速やかな報告と危険個所の表示等，事故防止のための所の体制を整えるように努めたか。	A
5	所長は，職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに，健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

４　教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主　な　評　価　事　項	評　価
1	所長は，入所児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合，速やかに教育委員会に報告し，指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	所長は，町教育委員会の重点施策を理解し，その実現のために組織を挙げて努力したか。	B
3	所長は，地域の各種団体の要請に誠意をもって応え，所としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	B
4	所長は，町の青少年健全育成，ボランティアセンター，交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A

評価は，A，B，C,Dの４段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。
B(3)：おおむね，目標を達成している。
C(2)：やや目標の達成には至っていない。
D(1)：目標を達成していない。

※　記入に当たって、自己評価の内容・形式は同じですので、評価の欄のみ記入となります。

４　第三者評価委員会による評価

桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則

平成２３年４月１日
教委規則第２号

（設置の目的）

第１条　桑折町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の所管事務に係る管理及び執行状況について地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２７条１項に規定する点検及び評価を実施するにあたり，教育施策の改善・充実に向け，同条第２項の規定により外部有識者の知見を活用するため，第三者評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

（所管事務）

第２条　評価委員会は，当該年度における次の各号に掲げる事項について評価し，その結果を教育委員会に報告する。

（１）教育委員会関係の管理及び執行状況及び事務局の事務執行に関する自己評価

（２）町立小・中学校の学校経営報告及び自己評価

（３）町立幼稚園経営報告及び自己評価

（組織）

第３条　評価委員会は，委員３名をもって組織する。

２　委員は，有識者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第４条　委員の任期は，委嘱の日から２年間とする。ただし，再任を妨げない。

（委員長等）

第５条　評価委員会に委員長を置き，委員の互選によりこれを決める。

２　委員長は，会務を総理し，委員会を代表する。

３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第６条　評価委員会の会議は委員長が招集し，これを主宰する。

（報告書）

第７条　評価委員会は，当該年度の評価結果を評価報告書にまとめ，翌年度６月までに教育委員会に報告する。

（守秘義務）

第８条　委員は，職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第９条　評価委員会の庶務は，教育委員会事務局において処理する。

（委任規定）

第 10 条　この規則に定めるものの他，評価委員会の運営に関し必要場事項は教育委員会が別に定める。

附則　この規則は，平成 23 年 4 月 1 日より施行する。

この規則は，平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

令和元年度 第1回 第三者評価委員会要項

◇　令和2年1月23日（木）
◇　15:00～16:30
◇　桑折町役場　第2会議室

1　開会のことば（事務局）

2　委嘱状交付

岡崎一也　様　　佐久間敏彦　様　　岡田和人　様

3　教育長あいさつ

4　出席者紹介（事務局）

5　委員長・副委員長選出

6　協　議（座長：委員長）
（1）　令和元年度評価の進め方
・令和元年度「第三者評価委員」による評価方法　・・・・・・　資料　1
（2）　令和元年度教育委員会重点の説明
・令和元年度教育委員会重点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　資料　2
（3）　令和元年度こども園、小中学校経営について
・令和元年度　園・学校経営「今年度の重点」・・・・・・・・・・　資料　3
（4）　質疑
（5）　その他

7　閉会のことば（事務局）

令和元年度　第１回「第三者評価委員会」で話し合われた主な内容（要点）

□日時　　令和２年１月２３日（木）午後３時～午後４時３０分

□場所　　桑折町役場第２会議室

□　教育長あいさつ（詳細：別紙）

委員の皆さんには、令和２年度事業の点検・評価が終了するまでよろしくお願いしたい。

第三者評価委員会は、教育委員会の業務全体について専門的・客観的立場から点検・評価いただき、結果の公表により説明責任と教育施策の改善・充実を果たすとともに、学校評価についても第三者の観点からの点検・評価により充実させていくのがねらいである。

令和元年度、桑折町教育委員会では、町の総合計画「献上桃の郷こおり創世プラン」と「桑折町教育大綱」に基づき、教育施策を進めてきた。教育委員会所管分については担当課長から、幼稚園、小・中学校については、園長・校長から説明するので、ご指導をお願いたしたい。

□　委員長・副委員長選出

委員長に岡﨑一也氏、副委員長（規則の職務を代理する委員）に佐久間敏彦氏を指名し、承認。

□　協議（座長：岡﨑一也委員長）

⑴　令和元年度評価の進め方

事務局より説明

⑵ 令和元年度桑折町教育委員会重点の説明

こども教育課長、生涯学習課長より説明

〇質疑

①　桑折町の学校教育の強みと課題は何か。（佐久間委員）

②　点検・評価は、数値目標を設定して行うのか。（佐久間委員）

③　桑折町では、今後、新たな学校の枠組みを試行していく考えはあるのか。（佐久間委員）

〇回答

①　強みは、各学校が連携を充にし、学校と教育委員会が一体となり、意思疎通をしっかり行っていること。また、歴史と文化の町として質の高い教育を行ってきた実績・経験である。

課題は、教育の普遍的な課題である「一人ひとりの力を伸ばす」ことと、これからの社会で、人間に求められる力をつけていくこと。そして、特別支援や経済的支援の必要性の高まりを受け、一人ひとりに対する支援を行うこと。（教育長）

②　点検・評価の数値目標については、大雑把に行っている。町総合計画に基づいて、教育委員会重点は策定しているが、町総合計画では、「学力、体力、すべての項目で県平均を上回ること」を指標としている。（教育長）

③ 町の新たな総合計画に合わせて教育振興基本計画の策定を進め、令和３年度からの実施を考えており、その中で、これからの桑折町の学校のあり方を取り組みの項目として入れる予定である。（教育長）

⑶ 令和元年度こども園、小中学校経営について

〇幼稚園・小中学校の「今年度の重点」の説明と実施状況を報告（幼稚園長　小中学校長）

〇感想（佐久間副委員長）

改めて学校現場では多くの共通した課題を抱えていることを認識した。それぞれの学校が特色を出して学校経営にあたっており「桑折町の１５歳のめざす姿」に帰結していくのではないかと感じた。

〇感想（岡田委員）

いじめの問題は、起きた時にどう対処するかが問われている。個人情報の問題もあり難しいが、情報を共有しどう対処するかを話し合っておくべき、万が一いじめが起こっても、いい結果に終わるよう対処してほしい。

〇感想（岡﨑委員長）

校長先生方には、各学校の「今年度に重点」の改善策を実施するのは大変と思うが、教職員の皆さんの体と心の健康に気を配りご尽力いただきたい。これで協議を修了させていただく。ご協力に感謝申し上げる。

令和２年度第１回桑折町第三者評価委員会次第

◇　令和２年８月１９日（水）
◇　１５：００～１６：５０
◇　桑折町役場第１会議室

１　開　　会

２　教育長あいさつ

３　第三者評価の実施について
（１）評価の概要説明
（２）質疑

４　第三者評価の実施（座長：評価委員会委員長）
（１）まとめ
　ア　評価について
　イ　意見・感想について
（２）その他

５　評価の結果報告
（１）答申
（２）意見（感想）の報告

６　閉　　会

令和２年度　第１回「第三者評価委員会」で話し合われた主な内容（要点）

□日時　　令和２年８月１９日（水）　１５：００～１６：５０

□場所　　桑折町役場第１会議室

□　教育長あいさつ

令和元年度は、町の総合計画「献上桃の郷こおり創生プラン」と「桑折町教育大綱」に基づく教育施策の実施３年目であり、「歴史と文化の町にふさわしい質の高い教育や生涯学習の実現に向けた仕組みづくり・基盤づくりをしっかりと進め、本町の子どもたちの大きな可能性の実現と、町民一人ひとりの生きがいや自己実現をめざす。」という理念の具現化に向けそれぞれの分野で取組を進めた結果、成果と課題があった。

第三者評価委員の皆様から、客観的、かつ総合的にご指摘をいただくとともに、今後に向けてのご指導をいただきたい。

□　異動職員紹介

□　評価の概要説明

□　質疑（第三者評価委員会での協議前の疑義について）

（１）醸芳中学校の令和元年度学校経営評価報告書中「交通安全の意識を高め、交通事故の絶無を期する」の重点事項及び実践事項の評価が「C」となっているが、重大な交通事故などが発生したのか（岡﨑委員長）

〇交通事故の根絶・安全な通学・生活については、学校で継続して生徒指導を行ない、重大な事故の発生はなかった。（こども教育課長）

〇重大な事故の発生はなかったが、軽微な事故等が重なってしまったため、危機感からＣ評価としたものである。（教育長）

（２）点検・評価の進め方について、自分の専門以外のことについても意見を述べてよいのか。（佐久間委員）

〇第三者委員会としての評価を決定していただくので、すべての項目について三人の委員から評価、評価の理由、意見をいただきたい。（事務局）

□　第三者評価の実施　座長：岡﨑委員長

□　評価の結果報告

〇岡﨑委員長より教育長へ報告

・評定原簿提出

〇第三者評価委員のまとめと報告

＜岡﨑委員長＞

「令和元年度桑折町教育委員会重点」に基づき、志高い人材を育む「学びの情勢」を推進するために、５つの重点施策、すなわち、子育て支援、乳幼児保育と教育、小中学校教育、生涯学習、生涯スポーツ、歴史まちづくりについて、重点項目、その具体的活動を計画されており、それがほぼ実践されている。桑折町教育委員会をは

じめ、各小中学校、幼稚園・保育所の担当者に敬意を表する。

＜佐久間委員＞

桑折町教育委員会の総合的・組織的な取り組みがよくわかる。表記上、改善点した方がよいと思うところが何点かあったので検討してほしい。評価は、根拠を明確にした方がよい。また、できれば前年度、前々年度と比べ端的な言葉で表現すると次年度の事業につながるし、点検・評価する「教育委員」「第三者評価委員」も評価しやすくなる。あわせて検討を求める。

桑折町のイメージでは、「教育」と「歴史と文化」という大きな柱が２本たっている。うまくコラボさせて総合的に高まっていくことを期待する。

＜岡田委員＞

小さな町なので活動しやすく、より細やかなところまでサポートされているのがわかった。事業の効果については、アンケート調査を行うなどすると検証がし易く、次年度の事業につなげられるのではないかと思う。

5　今後の方針

（1）評価の主な改善点

（2）評価の方法

令和元年度　第三者評価委員会による評価の主な内容について

1　学校経営（運営）における評価内容について

学校経営（運営）について前年度の反省を踏まえ、評価の４つの観点から「今年度の課題と改善策」を明確にした取組を評価できるようにする。

今年度の重点

園・校名

評価の視点	目標（課題解決の視点から）	手だて（具体的な改善策）
1 学校経営		
2 学校教育の管理		
3 人事管理（教職員の指導・監督）		
4 その他		

2　第三者評価委員会による中間反省

実効性のある評価とするために、年度の中間で「目標と手だて（改善策）」等について反省する機会を設け、以後の学校経営に生かすことができるようにする。

3　訪問調査（学校訪問・授業研究時）を含めた評価資料の収集

学校訪問・授業研究時を含め、授業参観をする機会を増やすとともに、学校行事・学校だよりや桑折町教育ポータルサイト等の活用により園・学校の情報提供に努める。

4　評価内容と方法の改善

復旧と復興から創生をめざす桑折町総合計画「献上桃の郷こおり創生プラン」に基づき、町の未来像「みんなとつながり　みんなが活躍できる　安心のまち　桑折」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進してきた。また、県の「学びのスタンダード」推進事業も３カ年の最終年度を迎える等、教育環境や社会の変化に伴い実態に即した評価となるように評価の項目、内容と方法も含め適宜改善する。

令和元年度　桑折町教育委員会の所管事務に係る点検
及び評価に関する「第三者評価委員」による評価方法

時期	主な点検・評価	出席者等
４月	○評価委員への事前評価資料の提出 教育委員会　・令和元年度教育委員会重点（施策） ・平成３０年度の評価報告書、自己評価票 園・学校　・園・学校要覧　・教育計画 ・園・学校経営の「課題と改善策」 ・園・学校経営ビジョン ・学力向上グランドデザイン	教育委員会へ 各５部提出
５月 ～１２月	○訪問調査（学校訪問、授業公開時） 幼稚園　小学校　中学校	
１月	○第１回第三者評価委員会 主な内容　・園、学校経営概要説明、中間報告 ・委員による質疑	・評価委員 ・こども園長 ・小中学校長 ・事務局
２月	○評価委員への評価資料の提出 教育委員会　・令和元年度教育委員会重点施策点検及び評価 園・学校　・評価報告書、自己評価票 ・学校評価関係資料	教育委員会へ 各３部提出
翌年度 ８月	○第２回第三者評価委員会 主な内容　・教育委員会及び園・学校よりの評価資料に基づく評価の実施	・評価委員 ・事務局

〈参考資料〉

〇桑折町の１５歳のめざす姿
〇令和元（平成３１）年度　学力向上推進計画
〇令和元（平成３１）年度　桑折町子どもの体力向上プラン

◇令和元（平成３１）年度　「醸芳保育所」経営・運営ビジョン
◇令和元（平成３１）年度　「醸芳幼稚園」経営・運営ビジョン
◇令和元（平成３１）年度　「学校経営・運営ビジョン」＆
「学力向上グランドデザイン」

・桑折町立醸芳小学校
・桑折町立睦合小学校
・桑折町立半田醸芳小学校
・桑折町立伊達崎小学校
・桑折町立醸芳中学校

※各計画中の標題に「平成３１年度」とあるものは「令和元年度」と読み替えるものとする。

桑折町の15歳のめざす姿

桑折町教育委員会

桑折町においては、０歳から１５歳の義務教育修了時までの、子どもの１５年間の成長を見据えた教育を実施しています。その最終的な目標について、保護者・地域・こども園・学校等の教育にかかわる者すべてで共有するとともに、発達段階に応じて子ども自身にも理解させることにより、家庭・地域・学校等のそれぞれの教育の充実を図り、桑折の子どもたちの望ましい成長の実現をめざします。

高い志を持って、自分の将来を切り拓（ひら）いていこうとしている１５歳

～社会的自立の基礎を身に付け、よりよい生き方を追求するとともに、社会の形成者としての基礎的資質を身に付け、共に生きようとしている１５歳～

家庭

【知】　学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。

変化の激しいこれからの社会において、一人一人が自立して生きるとともに、社会の発展を支えることができるように、確かな学力を身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- ○　よりよい学習習慣・家庭習慣を身に付け、自ら進んで学習に取り組むことができている。
- ○　基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得している。
- ○　習得した知識や技能をもとに、自ら考え、判断し、表現している。

地域

【徳】　郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献しようとしている。

ふるさと桑折町に生まれ育ったことに感謝しながら、今後もよりよい家庭・地域・社会を築いていくことができるように、郷土愛・礼節・思いやりを身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- ○　歴史と伝統を尊び、郷土に誇りを持っている。
- ○　自他を思いやり、よりよい人間関係を築いている。
- ○　社会の一員として決まりを守り、礼節を重んじる態度を身に付けている。

こども園　学校

【体】　心身ともに健康で，たくましく生きるための体力を備えている。

一人一人が生涯を通して生き生きとした生活を送ることができるように、心身ともに健やかで、どんな困難にも負けない精神力や体力を身に付けてほしいという願いのもと、具体的には次のような姿をめざします。

- ○　健康で安全に生きていくための知識や能力を身に付けている。
- ○　望ましい生活習慣や食習慣を身に付けている。
- ○　運動，スポーツに親しみ、心身の健康保持増進を図り、たくましい体力を身に付けている。

平成３１年度　学 力 向 上 推 進 計 画

桑折町教育委員会重点から
「志高い人材を育む“学び”の醸成」の推進
基本目標１：知･徳･対の基礎を身につけ，高い志を持った「桑折町の15歳のめざす姿」の実現
基本目標２：保育所・幼稚園から小学校・中学校までの育ちと学びの一貫性を大切した教育の推進

生きる力をはぐくむ「確かな学力」の向上

福島県「学びのスタンダード」推進事業から
「授業スタンダード」「家庭学習スタンダード」を基盤とした
・より質の高い授業の創造と展開
・家庭学習の質的向上と習慣化
・各校における（校内）研修の充実
に努め，教員の授業改善と指導力の向上を図る

桑折町の１５歳のめざす姿（知）
○　よりよい学習習慣・家庭習慣を身に付け、自ら進んで学習に取り組むことができている。
○　基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得している。
○　習得した知識や技能をもとに、自ら考え、判断し、表現している。

自ら学ぶ力の育成
学ぶ意欲･意志･態度
○　基礎的・基本的な知識・技能
◎　思考力・判断力・表現力
○　学習意欲・意志・態度
生き方の探究
憧れ　夢　希望
学習の仕方の習得

めざす教師の姿
○　教職に対する強い情熱をもつ教師
○　教育の専門家としての確かな力量を備えている教師
○　総合的な人間力を高める教師

	学力の向上を支える生活と学習の基盤づくり	確かな学力を育てる授業づくり	教師の力量を高める校内体制づくり
重点項目	◆ 学力を向上させる生活と学習の基盤づくりに努める。 □ 脳科学の研究成果を生かした家庭学習・生活習慣の確立 □ QU検査を活用したお互いに認め合う学級づくり □ 発達段階に応じた「学び方・学習規律・学習習慣」の確立 □「読み・書き・計算」徹底反復のねらいに基づく実施による集中力や音声言語、数量スキルの向上 □ 保護者との連携･協力による「家読」習慣の確立	◆ 個の確かな学びをめざし「わかる・できる授業づくり」に努める。 □ ふくしまの「授業スタンダード」に基づく授業改善と充実 □ 学力の実態把握と分析、対策の立案と実践 □ 指導内容の精選と重点化（単元、本時） □ 見取りや評価を生かした学習指導の工夫 □ 幼稚園、小学校と中学校との連携による授業研究会の充実	◆ 校内研修の充実により、教師の専門制や指導力の向上を図る。 □ 小学校は教員の専門性を活かす「教科担任制」、中学校は指導法の共有化を図る「複数学年縦持ち」の拡充と活用 □ 教員の専門性を高める教職員研修の充実 □ 校内授業研究の持ち方の改善 □ 幼少中連携に基づく「学び」「育ち」の効果的支援 □ 新学習指導要領で求めている「学力」についての共通理解
	○　園・学校の実践の情報交流＜幼小中の研修交流・ＩＣＴ研修（デジタル教科書活用方法等）　◎　研修便りの発行と周知＞		
主な実践事項	◎「読書がたくましい脳をつくる」（川島教授著）を活用した特別授業の実施（小・中） ○「家庭生活のポイント」の啓発活動の推進 ○「家庭学習スタンダード」を基にした家庭学習の充実 ※ 自己マネジメント力の向上を図る家庭学習の質的向上 ○「授業の約束(学習の手引き･スタンダード)」の指導の徹底 ○ 一斉指導では不十分な「３次支援」を要する子への支援の工夫 ○ 小学校における「読み･書き･計算」の徹底と指導法の工夫 ○ 桑折学習塾への参加による学習意欲と学習習慣の定着 ◎「家読運動とりくみコンクール」の奨励	○ パイロット校を含む１校１指定公開授業研究会の充実 ◎ ※ 授業におけるコーディネート力の向上 ○ Hyper-QU検査での「NRTとのクロス集計」結果の活用 ○ 諸学力調査(国･県等)や活用力育成シートの結果活用 ◎ 実態を踏まえ、単元での「習得」と「活用」の位置づけや「ねらい」と「振り返り」を明確した授業設計 ○ 形成的評価，総括的評価と補充学習，発展学習の充実 ○ 幼・小・中合同での事前・事後を含む授業研究の充実 ○ 秋田大学大学院特別教授　阿部昇先生による授業研究 ○「授業改善・充実の視点(授業における共通視点)」の活用	○ ふくしま「授業スタンダード「チェックリスト」の実施と活用 ○ 秋田の探究型授業等を学ぶための県外視察とその研修成果の共有化 ◎ 互見授業で授業研究の日常化を図るとともに指導法変容の把握 ○ 発達段階に応じた指導内容，教材等と学習 ○「思考力」を育てる教材の開発や活用と指導法の工夫・改善 ○ 価値や本質にせまる教材研究の充実 ○ 教科化を念頭に外国語活動の充実のための研修と英語指導協力員の複数配置 ※ 単元末の「子どもの姿」を明確し，他教科と共有した指導計画 ○ 外部講師の招聘や授業課題を明確にした授業実践の累積
基盤	安心感・居場所・向上心を育む学級・学習集団づくり　学校・家庭・地域が一体となった生活習慣・家庭学習習慣づくりの推進　家庭や地域の教育力を生かした教育活動の充実		
目標・評価	○　家庭学習時間の増加 ・TV視聴・ゲーム、SNS時間利用を減少（ﾒﾃﾞｨｱ･ｺﾝﾄﾛｰﾙ） ○　読書調査による読書時間と読書量の実態把握 ・調査結果を踏まえた家庭で読書する人数の更なる増加	○　全国学力テスト・県学力調査・NRT等 ・全国平均以上 ・アンダーアチーバー「０」をめざす ・４段階の層のアップ ○　活用力の育成	○　経営と研修の一体化 ・カリキュラムマネジメントの充実 ○　事前や事後研究会を含めた検証授業の改善 ・授業の省察と改善案を基にした指導方法の改善や授業づくり

平成31年度　桑折町子どもの体力向上プラン

桑折町教育委員会

醸芳幼稚園
醸芳小学校
睦合小学校
半田醸芳小学校
伊達崎小学校
醸芳中学校

体力向上推進目標

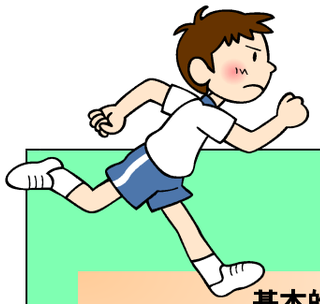
桑折町の児童・生徒の心身の健康増進と体力の向上を目指す
（平成１８年から平成２０年における最高水準に近づける）

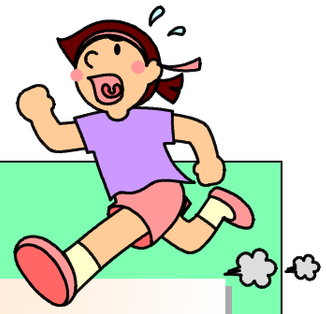
桑折町の１５歳のめざす姿

【体】
心身ともに健康で，たくましく生きるための体力を備えている。

基本方針　重点課題

１　運動する「場・時間・仲間・手間」を確保し，運動習慣の確立
２　発達段階に応じた体力の向上と「する・見る・支える・知る」の多様な関わり
３　家庭と地域の連携を図りながら，生活習慣・食生活の改善





学校・家庭・地域との連携

基本的生活習慣の確立

○全幼児，児童，生徒の実態把握（保健，健康調査）
◎「早寝・早起き・朝ご飯」の推進
◎自力登下校の推進（運動の習慣化）
○よい姿勢の保持
◎肥満傾向児の出現率の減少
◎適切なテレビ等（ＴＶ，ＰＣ，ゲーム等）の視聴時間（ＰＴＡとの連携：メディアコントロールへの幼小中連携した取組
○十分な睡眠の確保
○毎月２３日「家読」の推進（ＰＴＡと連携）

学校体育・幼稚園の充実

○全児童生徒の実態把握（新体力テストの実施）
◎学校・幼稚園教育活動中での毎日の運動時間と運動量の確保
◎体力向上に向けた一園一校一実践運動（教科外体育も）
○授業の充実（ＰＤＣＡサイクルの確立，指導と評価の一体化）
○体力向上を意図した研修の実施（授業研究会等）
◎「運動身体づくりプログラム」の継続的、効果的実践
○体育的行事・部活動等の充実
○教員の指導力の向上（指導法，実技等の研修）
○幼小中の連携した取組

食育の推進

○全児童生徒の実態把握（食生活）
○バランスの摂れた食事
○発達段階に応じた食育の推進
◎家庭・地域との連携による食育の推進
　ＰＴＡ・学校給食・町保健センター
○朝食摂取の重要性の周知：朝食に一品追加で学力アップ

○遊びの奨励（「場」「時間」「仲間」）　○地域連携で運動機会の充実　○地域体育的行事への積極的参加　○町給食センターと連携した食指導　○町健康教室との連携　○地域人材の活用

子どもの体力・運動能力・生活習慣・食習慣の現状

全国の子どもの体力・運動能力の現状

○昭和６０年以降長期的に低下傾向
○体力の高低の二極化傾向
○身体操作能力の低下
　・顔面のけが，骨折の増加
　・靴紐を結べない　等
○運動経験の二極化

桑折町の子どもの体力・運動能力・生活習慣・食習慣の現状

○全国・県とを上回る種目の増加
○平成２３年度は一時屋外活動制限
○平成３０年度新体力テストからの課題
　・走能力
　・全身持久力（ねばり強さ）
　・柔軟性
○肥満傾向児童出現率が高い
○基本的生活習慣を徹底できない
○朝食摂取率が１００％でない
○就寝時刻の遅い児童がいる
○ＴＶ視聴・ゲーム時間が多い
○日常の運動時間の二極化

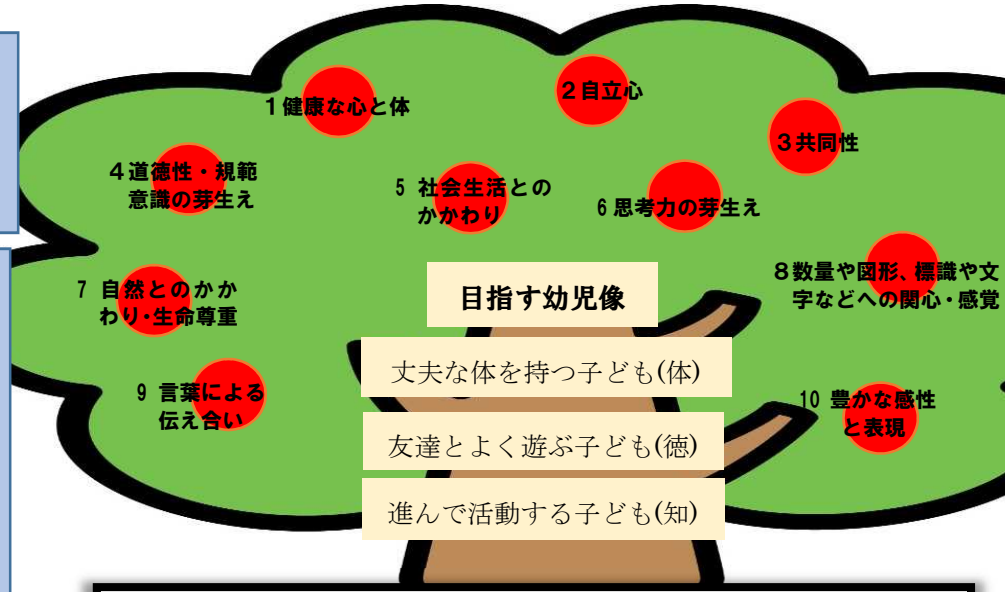
福島県内の子どもの現状

○全国と同様の傾向
○本県児童生徒の体力・運動能力は全国で中位
○肥満児傾向出現率が全国平均より高い
○原発問題から体力の低下に少しずつ歯止め傾向

平成３１年度　醸芳保育所　所経営・運営ビジョン

【目指す保育所像】
～笑顔と歓声あふれる保育所～
◆子どもも保育士も生き生きと活動している保育所
◆人々が親しむ、和やかさが醸し出されている保育所
◆様々な遊びを誘発する新鮮で清潔な環境の保育所

【目指す保育士像】
◆専門性の研鑽を積む教保育士
カリキュラムマネジメントにおける PDCA の実施
研修等に積極的に参加し多角的な視点で保育にあたる
◆個々の特性を生かして保育にあたる保育士
発達段階を踏まえ、個々の乳幼児理解を深めながら保育にあたる
◆人間性豊かな保育士
所を取り巻く様々な人との信頼関係のもと、仕事に真摯に取り組む



【乳幼児の実態】
◆母親や家人・保育士に甘えたい気持ちが大きい
◆受容されることで、安心して過ごす
◆生活習慣の一つ一つを保育士と一緒にじっくり取り組む
◆経験したことや感じたこと、考えたことを自分なりの言葉や身振りなどで伝えようとしている
◆友達や保育士と一緒に遊ぶことを喜んでいる
◆絵本やお話を見たり、読んでもらったりすることを好む乳幼児が多い
◆幼児自ら積極的に体を動かす姿が見られる

【保護者・地域の願い】
◆安全、安心な環境での生活
◆基本的生活習慣の確立
◆たくさんの友達との円滑なかかわり
◆心身の健やかな成長
◆『桑折町の目指す１５歳の姿』に向けた素地の形成

保育目標～心豊かにたくましく生きる子ども～

受容的・応答的関わりのもとで、非認知能力を高める。

養護と教育が一体となった保育

養護

【食育】
・食事の環境を整備し、食べたいという意欲を育て、食事のリズム・生活リズムを確立する。

【重点実践事項】
◆幼児の健康な心と体を育て、体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる保育士のかかわりの工夫
◆豊かな心が育つように絵本に興味が持てる場や提示及び経験や活動の提示の工夫
◆知的好奇心を満足させるような環境の工夫
◆事故なく安心して生活できる環境の提供

【その他の事項】
◆保護者の養育力につながるよう支援し、家庭との連携を図る。
◆自己評価を基本にしながら、保育指導力の向上につながるよう、研修を深め、保育の充実に努める。
◆日本の伝統的な食事を取り入れ、栄養のバランスを考え、衛生的で安全な食事を提供する。
◆アレルギー食への対応も行い、ヒューマンエラーを最大限防ぐよう対応する。
◆乳幼児の望ましい「家庭生活のポイント」の確立にむけて、家庭との連携を図った取り組み。

◆生命の保持
・安全な環境のもとで、生命の保持と生活の安定
愛情豊かな受容で、生理的欲求を満たし、自分でやろうとする意欲を育てる。
適切な生活リズムを整える。
◆情緒の安定
・安心できる保育者との関わりの中で、情緒の安定
好奇心を持って、様々なものに関わる。
スキンシップの機会を多く持ち、心の安定を図る。
自我の芽生え（友達との関わりの経験の中から、自分の思いや欲求を言葉で表現しようとしたり、我慢しようとしたりする心の力を育てる。

【保・小・中との連携】
◆異年齢交流（幼保）
◆ボランティア、実習等の受け入れ

教育

【領域】
健やかにのびのびと育つ
◆健康(歩行・運動・基本的生活習慣・安全)・体を使った遊びを楽しむ。
身近な人と気持ちが通じ合う
◆言葉(聞く・発語・会話・絵本)・保育士との応答的な関わりの中から、簡単な言葉を使って自分の気持ちを表そうとしたり、言葉ややり取りをたのしんだりする。
◆人間関係(保育士・友達・地域の人々・家族)・保育士や友達に自分の思いや欲求を言葉で表現する。
身近な物と関わり感性が育つ
◆環境(玩具・遊具・自然・施設・動植物)・身近な玩具・遊具・自然に触れ、保育士や友達と一緒に遊ぶ。
◆表現(ベビーサイン・模倣・見立てる・歌う・踊る)・興味のあるものを模倣したり、保育士と一緒に歌ったり、踊ったりする。

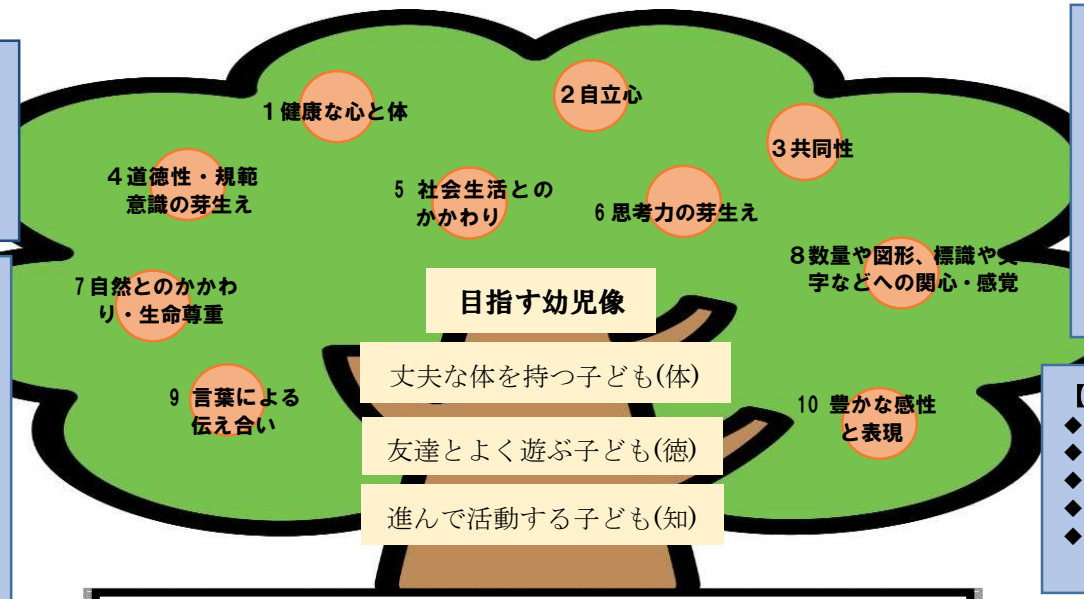
【地域との連携】
◆地域の人や施設とのかかわり
・サロン交流会・『イコーゼ！』の利用
・ボランティア支援センターの活用
・子育て支援センターとの交流

【家庭との連携】
◆所便り
◆毎日連絡帳の記入
◆降所時に保護者との直接連絡等
◆ＰＴＡ活動
◆規則正しい生活環境づくりの推進
（生活リズム『早寝早起き朝ご飯』の励行）
◆幼児教育への理解促進
(家庭教育学級の実施・ホームページの充実)

平成３１年度　醸芳幼稚園　園経営・運営ビジョン

【目指す園像】
～笑顔と歓声あふれる幼稚園～
◆子どもも教師も生き生きと活動している園
◆人々が親しむ、和やかさが醸し出されている園
◆様々な遊びを誘発する新鮮で清潔な環境の園

【目指す教師像】
◆専門性の研鑽を積む教師
カリキュラムマネジメントにおける PDCA の実施
研修等に積極的に参加し多角的な視点で保育にあたる
◆個々の特性を生かして保育にあたる教師
発達段階を踏まえ、個々の幼児理解を深めながら保育にあたる
◆人間性豊かな教師
園を取り巻く様々な人との信頼関係のもと、仕事に真摯に取り組む



【幼児の実態】
◆経験したことや感じたこと、考えたことを自分なりの言葉で伝えようとする幼児が多い
◆友達や教師と一緒に遊ぶことを喜んでいる
◆絵本やお話を好む幼児が多い
◆幼児自ら積極的に体を動かす姿が見られ、それに伴い体力・運動能力が向上している。
◆多くの友達とふれあうことで、お互いに刺激し合い切磋琢磨している姿が見られる。

【保護者・地域の願い】
◆安全、安心な環境での生活
◆基本的生活習慣の確立
◆たくさんの友達との円滑なかかわり
◆心身の健やかな成長
◆『桑折町の目指す１５歳の姿』に向けた素地の形成

教育目標～心豊かにたくましく生きる子ども～

【５領域】
◆健康(運動・基本的生活習慣・安全)
◆人間関係
(教師・友達・地域の人々・親)
◆環境(自然・物・施設・動植物)
◆言葉(聞く・話す・絵本)
◆表現(感性・閃き・創造性

・基本的な生活習慣の獲得
・規則性、法則性・関連性等の発見
・様々な気づき、発見の喜び、身体感覚の育成
・日常生活に必要な言葉の理解
・身体的技能や、美術表現のための基礎的な技能の獲得等

・試行錯誤・工夫
・予想、予測、比較、分類、確認
・他の幼児の考えなどに触れ新しい考えを生み出す喜びや楽しさや理解。
・言葉による表現・伝え合い・振り返り次への見通し・自分なりの表現等

遊びを通しての総合的な指導

・思いやり・安定した情緒・自信・相手の気持ちの受容
・好奇心、探究心・葛藤、自分への向き合い、折り合い
・話し合い、目的の共有、協力、表現する喜び
・色、形、音等の美しさや面白さに対する感覚
・自然現象や社会現象への関心等

【家庭との連携】
◆園便り◆園生活の様子
◆家庭訪問・学級懇談
個別懇談・降園時の連絡等◆ＰＴＡ活動
◆ファミリーティーチャー活動
◆規則正しい生活環境づくりの推進
（生活リズム『早寝早起き朝ご飯』の励行）
◆幼児教育への理解促進
(家庭教育学級の実施・ホームページの充実)

【重点実践事項】
◆幼児の健康な心と体を育て、体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる教師のかかわりの工夫
◆豊かな心が育つように絵本に興味が持てる場や提示及び経験や活動の提示の工夫
◆知的好奇心を満足させるような環境の工夫
◆事故なく安心して生活できる環境の提供

【保・小・中との連携】
◆異年齢交流（幼保、幼小、幼中）
◆ボランティア、実習等の受け入れ

【その他の事項】
◆言葉の教室の開設と充実した環境整備
◆支援を要する幼児への適切な指導と保護者支援
◆「家庭生活習慣のポイント」の確立に向けた取り組みの推進
◆自己評価、外部評価を生かした保育の改善及び質の向上
◆食の充実（偏食・アレルギー対応・マナー・雰囲気づくり）
◆家庭的雰囲気の中での預かり保育の充実した環境

【環境を通して行う活動】
◆幼児一人一人の行動の理解と予想に基づいた意図的、計画的な環境の構成
◆幼児期にふさわしい生活の展開　◆一人一人の特性に応じた指導

【地域との連携】
◆地域の人や施設とのかかわり
・サロン交流会・緑風園やコクーンとの交流会
・ボランティア支援センターの活用

とびっきりの笑顔を求めて　アクション2019

温　故　創　新
《愛と英知と活力》「誇りを持って、自分の未来を切り拓いていく」

醸　芳　小　学　校

教師・保護者・地域の願い・児童の長所

・話をよく聞き、自分の考えをもつ
・主体的に学び、集中して取り組む
・心が優しい
・礼儀正しく素直
・善悪の判断ができる

【児童の長所】
・運動や遊びに目標を持って取り組む
・学習態度や学び方が定着しつつある
・あいさつや思いやりが育ちつつある
・きまりを守る大切さを理解している

教育目標

・親切で思いやりのある子ども（愛）
（自分自身や他人の存在価値を認める）
・よく考えて学ぶ子ども（英知）
（研ぎ澄まされた知恵）
・健康で明るい子ども（活力）
（困難に負けない精神力・体力）

県・町の施策

・第6次福島県総合教育計画
・頑張る学校応援プラン
・多忙化解消アクションプラン
・校長及び教員としての資質の向上に関する指標
・桑折町総合計画（献上桃の郷こおり創生プラン）
・桑折町教育委員会重点
・桑折町の15歳のめざす姿

ワンランク上の教育活動（変化への挑戦と温故創新）

コラボレーションを重視した迅速かつ適切な職務の遂行

知（英知）
（1）確かな学力の確立
①小学校のこの時期に身に付ける基礎基本の徹底
②ワンランク上の授業の構想
スタンダード＆チャレンジ、教科担任制の推進
③算数・数学オリンピックへの参加（80%）
④教科の特質に応じた授業スタンダード**（授業改善グランドデザイン）**を活用した授業の充実
⑤各教科におけるアクティブラーニングの充実
⑥家庭学習と学校での学習のリンク
家庭学習スタンダード、桑折町学びのスタンダードの活用
⑦読解力の育成
⑧伝え合う力の育成
（2）積極的な読書活動
①朝の読書活動の継続、家読の積極的な推進
②読書の習慣化、ビブリオバトルへの取組
（3）新学習指導要領の全面実施に向けた取組の充実
・漏れのない移行措置の指導
（4）**精選した上での**各種コンクールへの参加

教員の実践的指導力の向上
（1）ワンランク上の指導
（2）小学校のこの時期に身に付ける基礎基本の 徹底
（3）教師が子どもと向き合う時間の確保
①組織力の向上（校務運営の充実）
②多忙化解消（**教職員の意識改革**、削る努力、重点化）
（4）**教科担任制の拡大**
（5）校内研修の充実（外部講師の活用）
①現職教育（算数科を視点とする）の充実
②積極的な授業公開（パイロット校の実践）
（6）自己研修の充実
①研修会等への積極的参加
（7）公開発表会継続の模索

感度を高め共有化を図る危機管理意識の徹底

徳（愛）
（1）礼節、善悪の判断、思いやりの心を育てる
（2）道徳的実践力の向上
①考える道徳・議論する道徳の授業の推進
（「希望と勇気、努力と強い意志」「親切、思いやり」「礼儀」「規則の尊重」「勤労、公共の精神」「生命の尊さ」）
②和顔愛語の**推進**
（2）落ち着いた生活態度形成の場の重視
（3）道徳的実践の場の充実
①魅力ある教材・体験の開発
（4）**元気な**挨拶の励行
（5）無言移動・無言清掃の徹底
（6）子どもに寄り添った日常の指導（心のケアなど）
（7）17字のふれあいへの参加（80%）

体（活力）
（1）体力の向上
①運動の日常化の推進
②運動身体づくりプログラムの活用
（2）健康教育の推進
①特別活動との関連を図った指導の充実
②保健室経営の充実
③早寝早起き**朝ご飯**、3食、歯磨き
④肥満の解消
（3）安全教育の充実
①交通事故防止、防災への取組
②不審者対策
（4）はやぶさ活動、**タグラグビー**の継続
（5）家庭との連携を図った取組の推進
（6）ふくしま体力向上総合プロジェクトへの参加

ふるさと学習（シビックプライド）
（1）地域に残る伝統文化に関心を持ち尊重する態度の育成
①地域に残る文化遺産を活用した学習（追分、伊達氏ゆかりの史跡、西根堰、**西山城、半田銀山**など）
②地域の行事（諏訪神社例祭）などへの参加
（2）町（歴史まちづくり推進プロジェクト）・保存会等とのパートナーシップ
（3）献上桃、王林などの農産物の学習の推進
（4）町探検などの充実

食育
（1）食に関する知識と望ましい食習慣の育成
①学校給食を活用した食育の充実**（セレクト給食・テーブルマナーなど）**
②栽培活動（学年に応じた栽培から試食）
③家庭の啓発と連携**（学校保健委員会、**PTAとの連携など）
④外部講師の活用
（2）食育関係機関（関係者）とのパートナーシップ

地域が学校を応援、学校が地域に貢献（シビックプライド）

ＰＤＣＡがスパイラルに作用

郷土愛からシビックプライド
（1）**温故創新（伝統を大切にしつつ、創立200年へ向けた新たな歴史の創造）**
（2）地域の特色を生かした教育活動**（体験）**の推進**（桑折町ボランテイア活動支援センターとの連携）**
①地域教材**（歴史・文化・自然・産業など）**の積極的活用の継続
②地域人材の積極的活用の**継続**
（3）保護者・地域住民との連携の**継続**
①基本的な生活習慣（地域や家庭での挨拶、SNSとの関わり等）の育成
②地域行事**（諏訪神社例大祭等）**への積極的な参加
③学校・PTA行事の地域発信（運動会、**学習発表会、**PTAバザーなど）
（4）学校評価の推進
①自己評価・学校関係者評価の充実（学校評議員による評価、**アンケートによる評価）**
（5）**個人情報に配慮した、**職員室だより、HP、マチコミによる情報の積極的発信
（6）積極的な地域貢献**（登下校時の挨拶、交通安全等の街頭活動、体育館開放、備品貸出など）**

評　価

評価（指導力等）
・教師の変容を見る
（授業研究会、各種研修会等への参加）
・日々の教室訪問

評価（指標、意欲等）
・子どもの変容を見る
（学習（学力調査）、生活等の面での変容）
・先生への手紙
・QUテスト

学校評価・人事評価
・自己評価、学校関係者評価
・児童アンケート
・保護者アンケート

「未来を拓く子育て支援と学びの町」（桑折町教育委員会重点の基本方針）

目が届く　手が届く　心が届く（チームビルディング）

『主体的・対話的に深く学ぶ児童の育成』アクション2019

〇授業改善（スタンダード＆チャレンジ）〇教師の指導力の向上（ワンランク上の指導）〇評価（指標・子どもの姿）

醸芳小学校の実践の主な成果と課題

【成果】

○　課題に主体的に向き合い、考えをつなぐ児童の姿が見られる

○　『授業スタンダード』をもとに、単元で育てる資質・能力を明らかにし、学びの履歴をもとに、教師が授業をコーディネートする意識が高まっている

【課題】

●　複数の関係を考える力、読み取る力（読解力）

●　家庭での学習や読書の習慣

●　教科の特質に応じた『授業スタンダード』の活用と子どもの見取り（学びの履歴への反映）

●　『授業スタンダード』と『家庭学習スタンダード』の関連を図った授業の在り方

〈授業改善（スタンダード＆チャレンジ）〉

◎　次年度に引き続き、授業改善による学力向上を学校の最重要課題にする

○　『授業スタンダード』に基づく授業スタイルの確立（どの学年・学級でも）

- 児童生徒の学習状況（学習内容の定着、学習スタイルなど）把握（学びの履歴）
- 「教材との出合い」「学習課題の把握」「追究・解決」「まとめ・振り返り」「新たな学び」の各場面における教師の働きかけの明確化〈スタンダード〉
- 板書、ノート指導の徹底〈スタンダード〉
- 発問と指示を意識した授業〈スタンダード〉
- ペアやグループでの話合いの工夫〈スタンダード〉
- 各教科で育てる「資質・能力」に基づく単元構想・授業〈チャレンジ〉
- 『授業スタンダード』と『家庭学習スタンダード』の関連を図った授業〈チャレンジ〉

○　教科担任制による授業の在り方の追究〈チャレンジ〉

○　個に応じた指導の一層の充実

- 子どもありきの授業改善〈チャレンジ〉
- 教科の特性に応じ読解力を育てる授業の追究〈チャレンジ〉

○　指導内容の重点化（学力調査等の分析）

- 一層向上させたい部分（内容、領域）の重点化

○　指標の明確化（学力調査等）

- 国語、算数の総合、領域別、観点別で全国正答率をこえる
- ふくしま学力調査（経年変化）への対応
- 算数・数学ジュニアオリンピックへの参加（８０％）
- 十七字のふれあいへの参加（８０％）

〈教師の指導力の向上〉

◇　『学びのスタンダード』推進事業による授業改善

・授業スタンダード
・授業改善グランドデザイン
・家庭学習スタンダード
・桑折町学びのスタンダード

◇　講師招聘による専門性ある研修

・各教科、道徳、外国語、特別支援等

◇　県版「資質向上に関する指標」に応じた研修

・校内研修の充実、研修への積極的な参加　等

◇　新学習指導要領への対応

〈評価〉

○　授業公開の実施（校内・校外）、保護者、学校評議員（学校関係者評価員）、地域等への説明責任を果たし、指標・子どもの姿による評価を実施する【子どもの学びの姿（授業、家庭学習、学力調査等の結果、算数・数学ジュニアオリンピック、各種コンクール　等）の累積（パフォーマンス評価）】

・　評価を授業改善、指導力向上に生かす

平成 31年度（令和元年度）

学校経営・運営ビジョン

桑折町立睦合小学校

学校の経営方針
1 安全・安心，信頼される学校づくりの推進
2 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに、その活用を図る学習活動の推進
3 新学習指導要領を踏まえた指導充実（移行2年目）
4 共生の心を育み「いじめのない学校」をめざす（特別教科「道徳科」指導充実）
5 健やかな心身を育てる健康教育の推進
6 読書指導の充実
7 特別支援教育の充実
8 指導力を培う校内研究・研修充実

教育目標

向上心を持ち　実践力のある児童の育成

～見あげる心　かがやく目～

第6次福島総合教育計画
”ふくしまの和”で奏でるこころ
豊かなたくましい人づくり
2019 **桑折町総合計画**
教育委員会重点
「生きる力」を育む学校教育の充実
「桑折町の15歳のめざす姿」

元気な声がひびく学校

学ぶことが楽しい学校

うるおいのある学校

目指す児童像

元気でねばり強い子ども（基本的生活習慣を身につけて、目標に向かい努力することができる）
進んで学ぶ子ども（望ましい学習習慣を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる）
思いやりのある子ども（自他を大切にする心を持ち、快くすすんで協力できる）

睦みっ子

「元気でねばり強い子ども」の育成（健やかな心と体の育成）

1 基本的生活習慣を育成します。
・心身の健康を保つ生活習慣の育成（早寝・早起き・朝ごはん）

2 体力の向上を図ります。
・「体力向上1校1実践」の実施
・運動身体プログラムの実践による授業充実

3 健康・安全教育の充実を図ります。
・専門家による食育授業と健康管理の推進
・健康・安全・放射線教育の充実

「進んで学ぶ子ども」の育成（確かな学力の定着）

1「主体的，対話的で深い学び」をめざす授業を実践します。
・「わかった・できた」を実感できる授業実践
・学び方を身に付け，活用・表現力を高める授業づくり（学びのスタンダード・授業ノートづくり）
・基礎基本の定着を図る指導の工夫（学びタイム）

2 自ら学ぶ学習習慣を育成します。
・家庭と連携した家庭学習の推進（家庭学習スタンダード）
・自主学習の工夫（ノートづくりと展示会）

3 読書習慣を育成します。
・学年必読書の設定と読書奨励
・読書活動の充実（図書ボランティア・読み聞かせ）
・保護者との連携による家読の推進

「思いやりのある子ども」の育成（豊かな人間関係づくり）

1 望ましい人間関係を育みます。
・互いの良さを認め合う学級づくり
・自分の思いや願いを表現する力の育成
・相手を思いやる心の育成

2 自他の命を大切にする豊かな心を育みます。
・特別教科「道徳科」の充実
・自他の良さを認め合う指導の充実
・自己肯定感・存在感の醸成

3 体験活動・自主的自治的な活動を充実します。
・体験活動の充実
・係活動，委員会活動の充実
・縦割活動，異学年交流活動の充実

特別支援教育の充実

○個に応じた支援　○関係機関・専門家との連携　○通級指導

目指す教師像

○ 教育愛に満ちた教師
○ 専門性を磨く教師
○ 人間性豊かな教師

家庭との連携

○ 積極的な情報発信（連絡メール）
○ 学校へ行こう週間，学校評価の実施
◉ メディア教育の推進（町連携）
◉ 「家読（うちどく）」の推進（町連携）

保護者の願い

○安全で安心な生活を送らせたい。
○確かな学力を身につけさせたい。
○基本的生活習慣を身につけさせたい。
○健康で強い心と体を育てたい。

地域との連携

○ ふるさと学習の充実　○ ゲストティチャーの活用　○ 幼稚園や町内各学校等との連携
○ 地区参加の運動会　○ 学校評議員会（年2回開催）　○ 地域行事への参加奨励

平成31年度（令和元年度）学力向上グランドデザイン

桑折町立睦合小学校

児童の実態

○全国学力学習状況調査（6年）H30.4月
・国A・B、算A・Bともに全国比で上回っている
国A◎「話すこと・聞くこと」「書くこと」
△「言語についての知識・理解」
国B◎「話すこと・聞くこと」　△「読むこと」
算A◎「数と計算」　△「図形」
算B◎「図形」
○NRT検査（1～6年）H31.2月
・全学年で国語、算数ともに全国平均並か上回っている
国語:「話す・聞く」「読むこと」に課題
算数:「数と計算」に課題

教　育　目　標

向上心を持ち，実践力のある児童の育成
～見あげる心，かがやく目～
○元気でねばり強い子ども　**○進んで学ぶ子ども**　○思いやりのある子ども

桑折町の15歳のめざす姿

○　学ぶ意義を理解し，習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。
○　郷土愛に充ち，自他を大切にし，社会に貢献しようとしている。
○　心身ともに健康で，たくましく生きるための体力を備えている。

確かな学力の向上

＜めざす子どもの姿＞
○課題意識を持ち，進んで学ぶ子ども　○互いの考えを伝え，高め合う子ども
○ねばり強く学習に取り組む子ども

＜研究主題＞
ともに考え、自らの学びを深める児童の育成
（2年次）

PLAN１　国語科・算数科における取り組み

＜国語科＞
○朝の読書タイム（月・金）
○読書環境の整備（活用しやすい図書室）
○指導事項を意識した単元学習の展開・工夫
○「話す・聞く」「書く」「読む」活動の充実
○漢字・かきとりファイターの実施（7・11・2月）
＜算数科＞
○基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
・定着確認シート・アシストシートの活用
○思考力・表現力を育む授業づくり
○TT，取り出しによる個に応じたきめ細かな指導
○計算・算数ファイターの実施（6・11・2月）
＜活用力育成シートの活用＞
○基礎的・基本的な知識・技能の活用力の育成
○組織体制づくり（結果分析・課題把握）
○課題把握に伴う補充指導と授業改善

Do

PLAN２　授業づくり

＜わかる・できる，楽しい授業づくり＞
○問いを引き出し，課題につなげる工夫
・発問の吟味と工夫
・資料等の提示，　学習活動の設定の仕方の工夫
○課題解決の見通しを持たせる工夫
・学習のプロセスが分かるノート作り
○問題解決的な学習の仕方の習得
・振り返りの時間の確保
○思考を促し，コーディネートする工夫
・発問の工夫，見取りを生かしたコーディネート
○考えを共有・吟味させる工夫
・子どもの考えをつなぐ言葉かけ
・学びを可視化する板書の工夫
○学び合いに必要な学び方の指導
・聴き方をほめて育てる支援
・目的を明確にしたグループ活動

Do

PLAN３　学びの基礎づくり

＜読み・書き・計算の徹底反復＞
○集中力や基礎的知識・技能の向上
○学習に取り組む姿勢や意欲の向上
＜安心して学習に取り組むことができる学級づくり＞
○充実感・達成感をもたせる工夫
○機会をとらえた承認・奨励・称賛の実践
○「睦みっ子の一日」「睦合小学習の約束」に基づいた指導
＜自己肯定感を高める支援の工夫＞
○一人ひとりのつまずきの把握と支援
○ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業
○一斉指導と個別指導のバランスを図った指導
＜学習サイクルの確立（家庭学習の習慣化）＞
○「家庭生活習慣のポイント」「家庭学習の進め方」の活用
○発達段階に応じた自主学習の勧め（個に応じた課題）
○自主学習ノートの回覧・展示による称賛と啓蒙
○家読と親子読書推奨による読書活動の充実

CHECK ⇕ ACTION

CHECK ⇕ ACTION

CHECK ⇕ ACTION

評価の視点①

○全国学力学習状況調査の分析
○福島県学力調査の分析
○NRTの分析⇒アシストシートの活用
○単位時間の評価と単元テストの分析
○活用力育成シートの活用

評価の視点②

○研究内容の共通理解と実践の累積
○他校教員も参加の校内授業研究会
○児童の発言，行動の見取りと累積
○板書による授業の振り返り（写真累積）
○学習アンケートによる意識の把握
○授業参観

評価の視点③

○学校生活全般における見取りと累積
○音読カード等の活用
○QU検査の活用
○児童・保護者からの学校評価アンケート
○学校評議員からの意見

平成３１年度　学校経営・運営ビジョン　　半田醸芳小の教育　２０１９

伊達郡桑折町立半田醸芳小学校　　児童数１０４名　　教職員数　１５名

桑折町の１５歳のめざす姿

【目指す学校像】

明日も来たい，楽しい学校（子供）
忙しいけれど，明日も子供たちのために勤務したい学校（教師）
通わせて良かったと言える学校（保護者）
おらほのすばらしい学校（地域）

教　育　目　標

考える子（知）　思いやりのある子（徳）　たくましい子（体）

目指す子供像
半田プライドを胸に，ふるさとを愛し，高い志と強い意志をもち，地域とともに学ぶ“半田っ子”

育成する資質・能力の重点
「思考力・判断力・表現力」
「コミュニケーション力（対話・人間性）

何ができるか

【児童の実態】
・まじめで責任感がある
・素直で優しい、元気、穏やか
・根気強い
・受身、指示待ち
・人間関係が固定化

【保護者・地域の願い】
・思いやりのある子に育ってほしい
・家庭学習の習慣をしっかり身に付けてほしい
・挨拶や言葉遣いをきちんとしてほしい
・安全な生活を送ってほしい
・確かな学力をつけてほしい
・進んで読書をする子になってほしい

知力　確かな学力　夢いっぱい

知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力，人間性」の育成

1　桑折町の目指す「桑折町の１５歳のめざす姿」を見据える
2　「確かな学力の向上」をめざす学習指導の充実
・「学びのスタンダード事業」
・新学習指導要領に対応した教育内容の改善（主体的・対話的で深い学びの授業・指導・評価）
・思考力・判断力・表現力を高める課題解決型授業
・チャレンジタイムによる徹底反復練習
・個に応じた指導の工夫
・ふくしま活用シートの活用
・ふり返りの時間の確保と充実
・「ふくしまの家庭学習スタンダード」を活用した学びの習慣化の確立
・学習の足跡が見えるノートづくり（ノート展，表彰）
・各教科におけるプログラミング教育の実践（プログラミング的思考、問題解決能力）
3　基本的な学習態度の育成
・子どもが主体的に学ぶ授業づくり（教師の説明７割カット）
・アウトプットに重点：「話す」「聞く」「書く」活動の充実
・休み時間と授業時間のけじめ
4　外国語活動・国際理解教育の充実
・移行期間の学習の充実
・ＡＬＴとのＴＴによる外国の言語や文化の理解
5　キャリア教育の充実
・将来の夢を育む指導の時間の確保(学級活動・特別の教科道徳)
6　学習環境の整備
・図書の充実と読書活動の推進充実)
・読み聞かせ・読書時間の確保（読書タイム：金曜日）
・保護者との連携・協力による「家読（うちどく：毎月２３日）」の推進
・言語環境の整備（教師の言葉遣い，場に応じた適切な言葉遣い、名前のさん付け）

心力　豊かな心　笑顔いっぱい

豊かな人間性の育成

1　道徳教育の充実を図る
・考え・議論する道徳の授業の実践
・保護者，地域への道徳の授業の公開（GT の活用）
・緑の少年団活動の充実
2　生徒指導の充実
・基本的生活習慣の確立
・縦割班活動
・正しい言葉遣い，あいさつ，返事、靴そろえ
・無言清掃
・積極的な生徒指導の推進（教育相談，心のアンケート，ＱＵテスト）
・自己肯定感の向上を図る日常生活指導の工夫
(活躍の場の確保・褒める機会の設定
・いじめ・不登校ゼロ，早期発見のための児童観察，相談活動，関係機関との連携(いじめ防止対策基本方針)
3　特別支援教育の充実
・校内支援体制の整備と活用（通級指導，ＴＴ，支援員による指導）
・関係機関との連携・推進(まなび方教室・大笹生支援学校・医療機関等)
・個別の指導・支援計画の作成
・合理的配慮を考慮した授業づくり

何ができたか

学校評価：教育目標　自己評価３，６を目指す

健康・体力　健やかな体　元気いっぱい

体力向上及び健やかな心身の育成

1　体力づくりの充実
・「体力向上１学級１実践」の継続した取組　　（町教委重点事項）
・運動身体づくりプログラムを活用した体育科授業の充実
・走力，柔軟性を高める運動の充実
・朝マラソン，42.195 ㎞チャレンジカード，縄跳びなどの取組と校内記録会の実施
・外遊びの推奨
・自力登校推奨
2　食育の充実
・食育の推進(食事のマナーとバランスのとれた食生活)
・ＴＴによる「食育授業」の推進と「お弁当の日」の指導の充実
3　保健健康指導の充実
・「早寝，早起き，朝ご飯」の習慣と朝食摂取率 100 %
・衛生指導（フッ化物洗口の継続的実践　う歯治療率 100 %）
・肥満傾向児童の新たな出現率ゼロ
・メディアコントロールの推進
4　防災教育の推進
・健康安全に生活する態度の育成と放射線教育の計画的・系統的な指導
・具体的な場面を想定した指導による危険予知・回避能力の育成
・緊急時の危機管理マニュアルの周知・徹底(児童引き渡し訓練の実施)
・毎月の安全点検の実施と改善（児童教師合同安全点検の学期１回実施）

特色ある半田醸芳小ならではの教育活動

≪伝承文化継承≫	≪ふるさと学≫	≪環境学習≫	≪開かれた学校づくり≫
□半田銀山祇園ばやし ※桑折町無形文化財指定 ※学習発表会、町小中音楽発表会に３、４年生が披露	□土曜学習（ほたる学習、だんごさし） □学校田・半田銀山そば栽培 □地域素材・人材の積極的活用 □半田銀山等地域の歴史	□緑の少年団の活動 □森林学習（低学年・中学年） □福島議定書への取組み、節電・節水見守り隊・パトロールの実践	□個や集団の成長につなげる行事の運営（運動会，学習発表会，全校集会，持久走記録会，縄跳び記録会　等） □学校ホームページ、各種おたより

地域素材や人材の活用による学習の充実（地域を知り，ふるさとを愛する子どもの育成）

《教職員の専門的な資質・能力の向上と組織的な学校運営体制の構築》
□目的意識と研修意欲をもった職務の遂行と学校運営の積極的参画　　□校内研修の充実による授業力の質的向上　　□教職員同士の信頼感やセーフティネットの役割の構築
□不祥事ゼロ　□働き方改革を意識した業務改善により，子供と向き合う時間の確保　□ＤＩＧ(図上災害訓練)研修による危機管理能力の向上

令和元年度　基礎学力向上に対する自校の取組　～グランドデザイン～

桑折町立半田醸芳小学校

◎児童の姿（現状と課題）
○　集中して学習に取組、学習の仕方が身についてきた。
○　ＩＣＴや各種教材・教具・資料等の活用により、基礎的基本的な知識・技能が定着してきた。
●　知識や技能を活用する力が不十分である。
●　自分の学びを実感し、新たな学びに向かう意欲が不十分である。
※３１年２月実施の学力テスト（ＮＲＴ）の結果
・偏差値状況
全学年平均……国語５２．４　算数５４．１　教科総合　５３．３

◎スローガン
「夢いっぱい　笑顔いっぱい　元気いっぱい」の半田っ子

◎目指す子供像（めざす姿）
○「半田プライドを胸に、ふるさとを愛し、高い志と強い意志をもち、地域とともに学ぶ“半田っ子”

◎現職教育研究主題
○研究主題「ともに学び合い、磨き合う児童の育成」
～考えて,かかわって、深める授業の実践～

◎「桑折町の１５歳のめざす姿」
・子どもの１５年間の成長を見据えた教育

◎保護者・地域の願い～保護者へのアンケート等より～
・思いやりをもった子に育ってほしい。
・家庭学習や読書の習慣を身につけてほしい。
・挨拶や言葉遣いをきちんとしてほしい。
・安全な生活を送ってほしい。
・学力をつけてほしい。

P	わかる・できる授業づくり	「主体的・対話的で深い学び」による活用力の育成	学習サイクル（授業、家庭学習、朝学習）の確立	話し合い活動の充実
D	①確かな学力向上を目指す学習指導の充実 □新学習指導要領に対応した教育内容の改善 □思考力・判断力・表現力を高める課題解決型授業 □個に応じた指導の工夫 □ふり返りの時間の確保と充実 ②学び合いを取り入れた授業づくりをする。 □「聞く」「話す」「書く」活動の意図的設定 □「桑折町・学びのスタンダード」の活用 □「授業スタンダード」の活用 □自分の考えを書く（描く）時間の確保 □基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる適用・習熟問題の工夫と時間の確保 □活用問題の工夫と時間の確保 ③ＩＣＴを効果的・積極的・継続的に活用する。 □電子黒板，デジタル教科書、書画カメラ、タブレット型端末の活用 □各教科におけるプログラミング教育の実践 ④特に支援を要する児童の指導を充実させる。 □担任と特別支援員との連携、通級学級	①子どもが自ら主体的に学ぶ授業作りをする。 （「主体的・対話的で深い学び」） □視点･目的を明確にした学び合いにより、自らの考えを広げ深める協働学習 □教師の説明７割カット □「主体的・対話的で深い学び」を活用した現職教育での授業研究（年一人一回以上） ②各教科の言語活動を重視する。 □「主体的・対話的で深い学び」をもとにした伝え合う活動の意図的設定 ③言語環境を整備し、活用する。 □「主体的・対話的で深い学び」における学びのスキルの可視化 □辞書・図書の活用 ・町図書館「遊学館よも～よ」からの図書の借り入れ（学期毎） ・おすすめの本（教科書に出てくる本）の教室への配当 ・図書委員会による読み聞かせの実施や新刊図書の紹介	①４５分の授業，朝の学習を確実に実施する。 □陰山メソッド・読み・書き・計算の「チャレンジタイム」の実施（週３回）、モジュールによる朝の時間の「ぐんぐんタイム（計算・漢字の習熟問題・活用力育成シート等の実施）」（週２回） □授業と家庭学習を関連させる取組 □学習の足跡が見えるノートづくり（ノート展、表彰） □アウトプットに重点（「話す」「聞く」「書く」活動の充実） ②保護者との連携・協力により家庭学習の習慣化を確立する。 □町共通の「家庭生活習慣のポイント」の活用（学習時間　小：学年× 10 分＋α、学習内容など） □「家庭学習スタンダード」の活用した学びの習慣化の確立 ③家庭・地域と連携した読書活動を充実させる。 □毎月２３日の「家読の日」（町ＰＴＡ連絡協議会と共同で制定）にあわせた読書活動の啓発。 □保護者の図書ボランティアによる読み聞かせ（年４回）	①Ｒ－ＰＤＣＡサイクルにより体験・成果を積み重ねる。 ②生徒指導の機能を生かした授業作りをする。 □学びの質を高める学習集団の育成（学級経営） □自分の意見を言い合い、認め合える学習の場づくり ③子どもの思いや願いを実現するための話し合いを行わせる。 □特別活動・創意活動における話し合い活動を通した望ましい集団作り □低・中・高ブロックの「話し合いの仕方」の可視化と活用） □多様な集団との関わりや場面を設定した活動成果の発表や発信 ・ふれあいタイム（縦割り班活動） ・児童会委員会の校内放送発表
C	①活用力育成シート(目標正答率 80 %以上) ② NRT 学力テスト（アンダーアチーバー０） ③学期ごとの単元テスト、漢字テスト及び計算テスト（正答率 80 %以上）	①現職教育の研究会で実践成果と課題を探る。 ②「主体的・対話的で深い学び」における児童の主体性・協働性についての成果を探る。 ③年間の読書量により、図書委員会が表彰する。（低学年 50 冊、中学年 40 冊、高学年 30 冊）	①学校評価のアンケートを行う。（学力向上関係の項目について、達成している割合が 80 %以上） ②自主学習のカードやノートに目を通し，励ましや称賛のことばを入れる。 ③読書アンケートによる評価を行う。	①話し合い活動後に、励ましや評価を行う。 ②話し合い活動の場や内容の全職員による検討、情報交換を行う。
A	①成果の分析・評価と新たな課題の明確化 ②一人一人の課題にそった指導(上位児、下位児) ③多様な体験活動の充実と学びの検証	①授業者の自己分析と改善、次への実践 ②言語環境の整備改善更なる充実 ③図書便りの発行	①集計結果の公表と啓発 ②読書活動、家庭学習の励行 ③学校と家庭とが一体になった取組への啓発	①話し合い活動とその実践の充実 ②担任による記録の累積 ③全職員の相互理解と実践

2019年度

伊達崎小学校経営・運営ビジョン

教育目標

伊達崎小パワーアップ

笑顔あふれる人づくり

「社会に開かれた教育課程」編成

よく考え本気で学習する子ども

「本気で学ぶ」

◇　**個に応じた学習指導を推進します。**
・インクルーシブ教育の視点を取り入れた授業
・個々の学力の分析と、個別指導・支援の工夫

◇　**学びに向かう集中力を高めます。**
・「読み・書き・計算の徹底反復」(週4回)実施
・「家庭学習スタンダード」自己マネジメント力の向上の推進、学びの基盤固め

◇　**授業改善により、資質・能力を高めます。**
・県施策「学びのスタンダード」、町教委「授業改善・充実」の視点を基にした授業改善
・「主体的・対話的で深い学び」をもとに授業改善
・現職教育を中心とした授業研究実施と見方・考え方を使う授業に改善

心豊かな礼儀正しい子ども

「本気で読む」

◇　特別の教科　道徳を要とし道徳性を培います。
・特別の教科　道徳の趣旨とねらいに沿った授業を実施します。(指導と評価の工夫)

◇　心に響く体験活動・読書活動を推進します。
・地域の体験活動を通して道徳性の育成を図ります。
・縦割り班活動や各種行事により心を豊かにします。
・読書活動(週2回)、すきまの時間があれば読書する習慣化と毎月23日、家読の日による読書の推進をします。(人の気持ちがわかる児童へ)

◇　地域の素材を意図的に活用し、授業を公開します。
・地域の方々との交流や地域素材を生かした体験活動を充実します。(ふくしま道徳教育資料集の活用)
・授業参観等において特別の教科　道徳の授業を公開します。

明るく元気にやりとげる子ども

「本気で走る」

◇　運動の日常化を推進します。
・運動身体づくりプログラムの自校化
・多様な運動の励行と、「あぶくまマラソン」・「なわとび」の生活化により持久力を向上

◇　地域や機関と連携し健康教育を推進します。
・基本的生活習慣の確立(年2回の生活習慣アンケートの実施と保護者への説明)
・給食センター栄養士・町管理栄養士による「健康に関する指導」の実施

◇　「生き抜く力」を育む教育を推進します。
・関係機関と連携した避難訓練・防犯教室による危険予知と回避能力の育成
・災害対応に関する正しい知識を育てる防災・減災教育の実施と放射線教育の充実

特別支援教育の充実

・通級指導による基本的な生活習慣の確立
・特別支援学級設置の準備
・特別支援教育への組織的対応と研修の充実

多忙化の解消

・何事もチーム伊達崎小として対応にあたる体制強化
　担任一人で絶対に抱え込まない。協力員　SC　SSW等
・慣習にとらわれず自分たちの手で学校を変革する
・研修の時間の確保(月2回程度　学びの共同体)
・定時退勤日の設定
・業務改善をめざしたトラブル未然防止

桑折町　幼小・小小・小中連携

桑折町15歳のめざす姿
高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとする15歳

(知)学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている
(徳)郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献しようとしている
(体)心身ともに健康で、たくましく生きるための体力を備えている

生徒指導の充実

・いじめを絶対に許さない。いじめられた子を守り抜く。
・不登校0をめざす。きめ細やかな対応
・非認知能力を育成する指導強化
・「3つの約束」を徹底できる子どもの育成
　①あいさつ　②返事　③くつをそろえる

家庭・地域との学びの共有

学びの見える化＝ホームページの充実

【家庭】
○「家庭学習スタンダード」自己管理マネジメント力を高める生活習慣
○PTAによる取組「家読」の推進
○ホームページ・学校・学年だよりによる情報の発信
○家庭訪問・学級懇・個別懇談談等の充実

【伊達崎の後継者の育成】
○地域素材・人材による地域に根ざした教育の推進
○幼稚園・他小学校・中学校との積極的交流
○安全・安心できる登下校の見守り

「学力向上グランドデザイン」

－「学びのスタンダード推進事業」との連携を図りながら－

2019．4月　桑折町立伊達崎小学校

「思考力・表現力・読解力」を身につけさせたい

算数科では

★現職教育の推進★

【研究主題】
「自ら考え、ともに学びを深める児童の育成」
見取りを活かした学習指導の工夫

授　業　で　は

◆学習展開の工夫　～思考力・表現力を育成するために～
①課題を理解し、意欲的に課題解決に取り組むことができるようにする。
②自分の思考過程を、論理的に表現することができるようにする。
・展開を柔軟に　・問いを引き出し、必然性のある課題で　・自力解決、共有、吟味の時間の確保
③友達と学び合い、自分の考えを深めることができるようにする。
・言葉、数、式、図、表、グラフを用いた学び合い。教師の働きかけとコーディネート
・数学的な考え方を高める学び合い「共通性は？」「より簡潔に」「式で表現は？」「一般化は？」
◆領域の学年系統の確認
・系統性を踏まえ、児童理解・教材理解を基にした指導計画の作成
◆個を高めるための工夫

その他の教育活動では

○読解力向上のために
・学校（町）図書館の活用
・「家読」「読書活動」の推進
・「読書賞」の表彰による意欲向上
・　読み聞かせボランティアの活用
○表現力向上を目指して
・発表集会の活用（表現力の向上）
○体力向上を目指して（あぶくまマラソン等）
○地域素材を生かした体験活動の充実

各教科では

「教科の本質から授業を組織」

◎目標、内容、方法の違いを踏まえた授業で、教科学力を高める

国　語　科	社　会　科	理　　科	生活科・総合的な学習の時間	技能教科（音・図・家・体）
○多様な文章との出会い（教材） ○声に出して読む活動（音読） ○目的的に読む活動（精読） ○書く活動（単位時間へ位置づけ） ○読み取った内容を様々な形式に自分の言葉でまとめる ○話す・聞く活動の意図的設定 ○見通しを持てる授業展開 ○国語辞典の活用（中高学年） ○ノート作り	○目的意識を持たせた問題解決的学習の推進 ・効果的な資料の提示、活用 ・グラフや表の見方 ・学び方、調べ方の習得 ・作業的、体験的な活動 ・調べる視点の明確化 ・表現方法の工夫（わかったことを自分の言葉で） ・生活と結びつけて考える場を設定する ○教師の体験談で興味関心を	○科学的な見方や考え方の育成を目指した問題解決的学習の推進推進 ・見通しを持たせる工夫（既習事項を生かす） ・観察、実験の励行（見る目と予想する力） ・グループ学習により意見交換の場の設定（考えを比較する） ・生活と結びつけて考える場の設定	○具体的な活動や体験（意味づけ）を位置付けた問題解決的学習の推進 ・教科で得た知識の活用の場を意図的に設定 ・知的好奇心を喚起するような教材の開発 ・弾力的な時間運用（１日）で学びの連続性と楽しさを体感 ・調べたことを自分の言葉でまとめる場の設定 ○地域素材の積極的な活用	○体力向上に向けて ・マラソン・なわとびの継続的な実施による持久力向上 ・運動身体づくりプログラムの取り組み ○ものを見る目、感じる心など感性を養う時間の確保 ○友だちとのかかわり合い、教え合いの実践の場の設定

「教師主導型授業」から子どもの「主体的・対話的で深い学び」へ

「教えてもらいたい」意識から「自ら学びたい」意識へ

授業技術

「～学び続ける教師
成長し続ける教師～
◎児童にとっては一生に一度しかない大切な時間
◎「教えのプロ」としての自覚

「めあて（青）」→「まとめ（赤）」	発　　問	板　　書	学び合いの場の設定	教師の姿勢は
○明確でわかりやすいもの ○単位時間の指針 ○単位時間で解決できるもの ○児童の言葉でまとめる ○めあてと対応させてまとめる ☆何を勉強している（いた）のかがわかる	○児童の意識に目を向けた発問 ○中心発問と指示発問の使い分け（発問の精選） ○思考へ導く発問 ○思考をゆさぶる発問 ★禁句「考えなさい！」	○黒板は教師のノート（常に整然と） ○「めあて（青）」と「まとめ（赤）」は必ず ○板書の構造化（児童の考えの集約と焦点化） ○色チョークの使い方	○話し合い（言語活動）の場の設定 ・つなぎ言葉を遣って ・互いの考えの良さを認め合って ○自分の考えを表現する工夫 ○聴く力、話す力の育成 ・根拠をもとに説明	○児童を引きつける話術 ○身近なもの本物を教材に ○「授業の約束」の徹底 ○ＩＣＴ（電子黒板）の有効活用 ○既習事項や学習内容を確認できる掲示物の工夫 ○自己肯定感の向上（励ましと賞賛）

県施策「学びのスタンダード」、町教委「授業改善・充実の視点」を基にした授業力向上「ユニバーサルデザイン（UD）」の視点を取り入れた授業改善と工夫

学習の土台づくり

基礎・基本の定着と集中力向上のための「読み・書き・計算の徹底反復」学習の推進

学級の土台づくり

「子どもの意識に目を向ける」
・こんなこと調べたい
・今、何を勉強しているの？
・何を考えるの？
・考える教材は？
・時間がもっと欲しいよ！
・発表したいよ！
・考えを生かしてもらえたよ　等

読解力と基礎学力の確実な定着に向けた取り組み	道徳教育の充実（教育活動全体を通して）	学級活動の充実
○読書活動の推進（読書推進活動、ＰＴＡと連携した家読の推進、ノーメディアの推進） ○個に応じた学習指導（授業の中で、授業外で） ○既習事項が振り返られる掲示物の工夫 ○スピーチ（朝の会・帰りの会） ○「読み・書き・計算の徹底反復」活動 ○定着確認、フォローアップシートの活用 ○地域と連携した体験活動の充実	○道徳の時間は ・身近な出来事を資料に（生活から価値を見出す） ・体験を生かす、体験に生かす授業の実施 ○指導の重点化と教育活動全体を通して ・行事とリンクさせ、実践の場を確保する ○内面まで浸透→道徳的実践力の育成（学級経営の基）	○「話し合い活動」を重視 ・発達段階に応じた話し合いの指導 ・自分の意見や考えを必ず持たせるための手立て、題材の工夫 ・相手の意見や考えを聴く（自分の考えと比較する） ○話し合いの結果を実践へと生かす場を設定する（○○集会等）→満足感を持たせる

家庭への豊かな働きかけ　「家庭学習スタンダード」「家読」の推進のための啓発活動　（「伊達崎小学びのスタンダード」の推進、「ＰＴＡ」との連携）

・・・文章や資料等を正しく読み取ることができる
自分の考えを相手にしっかり伝えることができる
習ったことを生活に生かすことができる

子ども

平成31年度　桑折町立醸芳中学校　学校経営・運営ビジョン

＜生徒の願い＞
○　いじめのない学校にしたい。
○　進んであいさつができるようにしたい。
○　明るく活気のある学校にしたい。

＜保護者の願い＞
○　学力を向上させてほしい。
○　進路指導を充実させてほしい。
○　いじめがないように指導してほしい。
○　ねばり強い人間に育ててほしい。

＜地域の願い＞
○　電子黒板などを十分に活用し，時代にあった教育を進めてほしい。
○　不登校生徒への支援を十分に行ってほしい。

～高い志を持って，自分の将来を切り拓こうとしている１５歳～
知　…　学ぶ意義を理解し，習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。
徳　…　郷土愛に充ち，自他を大切にし，社会に貢献しようとしている。
体　…　心身共に健康で，たくましく生きるための体力を備えている

【教育目標】
自立　～　自ら学び，考え判断，行動し，自分を高める生徒　（ 知 ）
利他　～　思いやりをもち，協力して，他者や社会のためにつくす生徒　（ 徳 ）
健康　～　命を大切にし，心身ともに健康で体力を高める生徒　（ 体 ）
努力　～　何事にも真剣に取り組む生徒　（態度）

【目指す学校像】
○　生徒が夢や希望，志をもち，その達成に向けて努力している学校
○　生徒一人一人の学力を伸ばす学校　～アンダーアチーバー１０％未満～

＜生徒の実態＞
よさ　○　素直で何事にも一生懸命取り組む。
　　○　友達思いで優しい。
　　○　真面目でルールを守ろうとする。
課題　○　自分の考えを持ち表現すること。
　　○　高い目標に向かって努力すること。
　　○　自主性
　　○　集団として高め合うこと。

＜醸芳中学校の課題に向き合う教師像＞
○　絶えず研究と修養に努める教師
○　授業改善に努める教師
○　部活動に熱心な教師
○　師弟同行
より良きモデルとなるよう努める教師

今年度の重点事項

自立（知）～ 学ぶことをとおして自分の人生を切り拓く

○　生徒が互いに高め合う授業をします
・　問題解決型の授業の構想，実践
「見通しをもつ」「自分の考えをもつ」
「グループ・学級で話し合う」「内容や方法を振り返る」
※　「学びのスタンダード」事業への積極的な取組

○　学力を定着･向上させます
・　学習の５つの約束の徹底
・　わかるまで教え，できるまで支える学習指導
※　繰り返しの学習の充実と基礎力テストの実施
・　個に応じた家庭学習の習慣化の指導

○　読書活動を充実させます
・　朝の読書の充実
・　読書習慣強化週間の取組

○　志の教育を系統的計画的に進めます
・　「職業人に学ぶ」「職場体験」「高校調べ」や入学式，立志式，卒業式等の学校行事の充実
・　総合学習や学級活動を中心とした生き方を考える教育の充実

利他（徳）～自分を見つめ他を思いやり行動する

○　規範意識を高め，自主性を育みます
・　ＴＰＯに応じた行動の指導の充実
・　朝自習，落ち着いた給食，無言清掃，あいさつの奨励
・　より良い醸芳中学校を目指す生徒会活動の活性化

○　いじめ，不登校に丁寧に対応します
・　道徳教育を中心とした思いやりの指導の充実
・　ＱＵテストの意図的効果的な活用
・　いじめの早期発見，早期対応
・　組織をあげた不登校への対応
・　家庭と協働した生徒の自己肯定感を高める働きかけ

○　心の悩みの解決に努めます
・　アンケート調査や教育相談による悩みや問題の早期発見・早期対応
・　スクールカウンセラーによる全員面談の実施

○　地域との交流を深めます
・　サマーショートボランティア，地域清掃活動への積極的な取組
・　郷土の歴史を学ぶ学習の充実

健康（体）～命を大切にし健康を増進し体力を高める

○　健やかな体づくりと体力向上を図ります
・　目標を明確にした保健体育の授業など体力向上の取組
・　部活動の充実
・　校内駅伝競走大会の実施
・　確実な保健検査の実施
・　むし歯の治療，肥満の解消への取組

○　健全な生活習慣を形成します
・　学校給食を活用した食育の推進
・　「保健だより」「川島隆太氏の講演会」などによる健全な生活習慣の重要性の啓発
・　「生活ノート」を利用した生活習慣の個別指導の充実

○　命を守る安全教育を推進します
・　飛び出しの防止と安全な自転車の乗り方に重点を置いた交通安全教室の実施
・　防災教育，放射線教育の充実

○　保護者との連携を強化し,協力して生徒の成長を支えます。
・　保護者参観（授業参観，醸中祭，三者面談等）の充実　・　ＰＴＡ委員会活動の充実　・　学校だより，学年だより，保健だよりの定期発行　・　学校ホームページの更新

令和元年度　学力向上グランドデザイン

桑折町立醸芳中学校

教育目標

自立 利他 健康 努力

生徒の実態

- 素直で明るく、真面目な態度で学習や諸活動に取り組む。
- 学習意欲や基本的な学習内容の定着について、個人差が大きい。
- 反復的な演習には、一生懸命取り組むが、思考を伴う問題は避ける傾向がある。

家庭・地域の実態

- 半田山の麓に広がる自然豊かな環境である。
- 桑折、半田、睦合、伊達崎の４学区から通学しており、大多数の家庭は共働きである。
- 学校は、地域社会の文化の中心的な役割をもち、地域住民の学校教育への参加・協力が得られている。

授業づくり

４つのプロセスを基本として授業を展開する。

（１）学習の見通しをもつ。
- 授業のねらいを明確にする。
- 教材を開発、構成する。

（２）自分の考えをもつ。
- 書く場面を設定する。
- 考えを外在化し，生徒の考えの変容をとらえる。
- 生徒一人一人の能力に即した内容を書かせる。
- 各教科の特質や授業のねらいに即して，個々の生徒の能力に応じた書くための援助を行う。

（３）ペア・グループ・学級で話し合う。
- 学習への参加度を高めるために，グループ学習を取り入れる。
- グループ学習は４人を基本とする。
- １回の話合いの時間を意識する。
- １時間に何回の話合いが必要かを意識する。

（４）学習内容や学習方法を振り返る。

研究主題

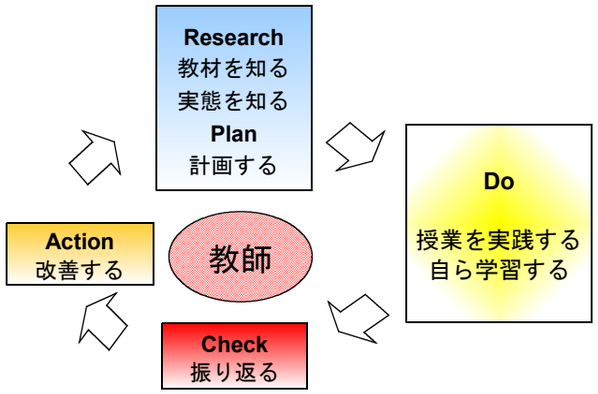
主体的に学習に取り組み，学び合い高め合う授業の創造

本年度の重点目標

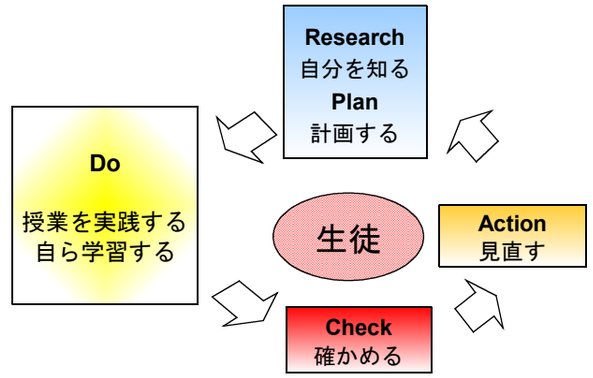
○目標の明確化と生徒の主体性を引き出す教材の工夫
○問題解決的な学習指導過程の工夫
○振り返りの工夫

【到達数値目標】
・アンダーアチーバー１０％未満（NRT）
・各種学力テストが全国平均を上回る

授業スタンダード



家庭学習スタンダード



確かな学力

自己マネジメント力

県の基本目標

- 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

桑折町の１５歳の目指す姿

知：学ぶ意義を理解し、習得した知識や技能を進んで生かそうとしている。
徳：郷土愛に充ち、自他を大切にし、社会に貢献しようとしている。
体：心身ともに健康で、たくましく生きるための体力を備えている。

幼小中連携

- 幼小中の連携協力による学力向上とよりよい学校生活習慣・家庭生活習慣の確立

基盤づくり

（１）授業における学習規律の徹底
①朝の読書・朝自習の時間の充実
②「学習の５つの約束」の励行と強化期間の実施
③「パワーアップ期間」の実施

（２）基礎・基本の確実な定着の指導
①校内学習テスト（漢字・計算・英単語）の取り組み
②活用力育成シートの実施と活用
③英検、漢検、数検等への挑戦奨励

（３）家庭学習における学習方法の確立と習慣化
①自主学習ノートの取り組み
②家庭学習時間（平日）１年 80 分　２年 90 分　３年 100 分の習慣化
③健全な生活習慣の確立

（４）安心して学べる学級、学習集団づくり
①生活ノートを利用した信頼関係の構築
②Q-Uテストの実施とその分析活用

（５）落ち着いた学校生活の醸成

めざす生徒像

○主体的に学習に取り組み、学び合い高め合う生徒
○家庭学習の習慣が身についている生徒